

## 目 次 (案)

### I 沖縄県がん対策推進計画（第2次）の趣旨

### II 中間評価の考え方

1. 中間評価の基本方針
2. 中間評価の体制
3. 中間評価の方法

### III 分野の考え方

### IV 沖縄県がん対策推進計画（第2次）の取組状況と中間評価

1. 中間評価の要旨
2. 全体目標についての進捗状況
3. 分野別施策の個別目標についての進捗状況
  - (1) がん対策の総合的推進
  - (2) がんの予防
  - (3) がんの早期発見
  - (4) がん医療
    - ① 放射線療法、化学療法、手術療法の充実とチーム医療の推進
    - ② がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成及び確保
    - ③ 緩和ケアの推進
    - ④ 地域の医療提供体制の推進
    - ⑤ 相談支援及び情報提供体制の推進
    - ⑥ がん患者の就労を含めた社会的な問題
  - (5) 基盤的分野
    - ① モニタリング体制の充実（「がん登録」を含む）
    - ② がんの教育・普及啓発
    - ③ がん研究
4. がん種別がん対策の進捗状況
  - (1) 大腸がん
  - (2) 肺がん
  - (3) 乳がん
  - (4) 子宮がん

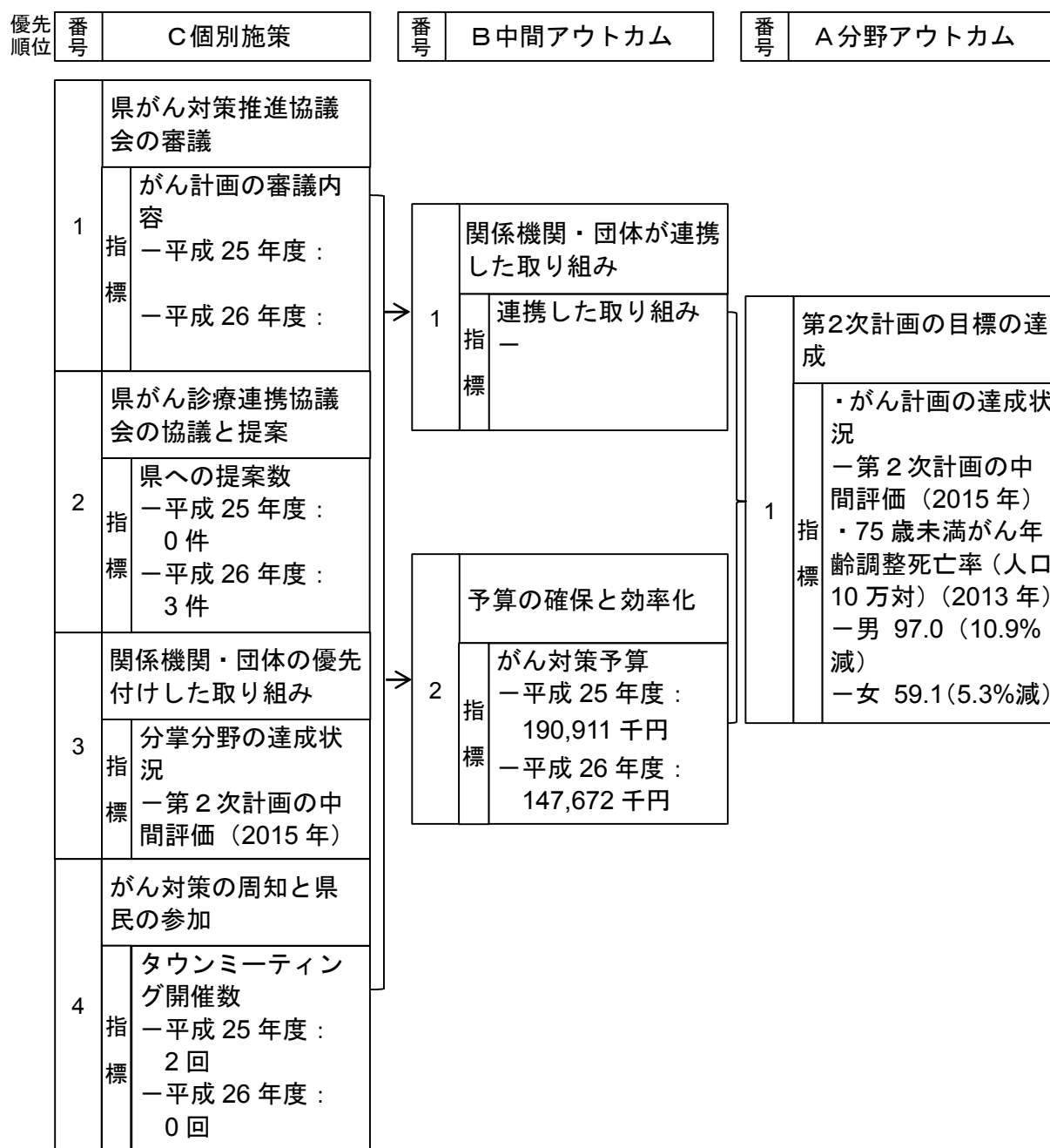
- (5) 比較的少ないがん（我が国に多い5部位のがん以外のがん）
- 5. 世代別がん対策の進捗状況
  - (1) 小児（15歳未満）・AYA世代（15歳～29歳）のがん
  - (2) 高齢者（75歳以上）のがん

## V 沖縄県がん対策推進計画（第2次）の見直し

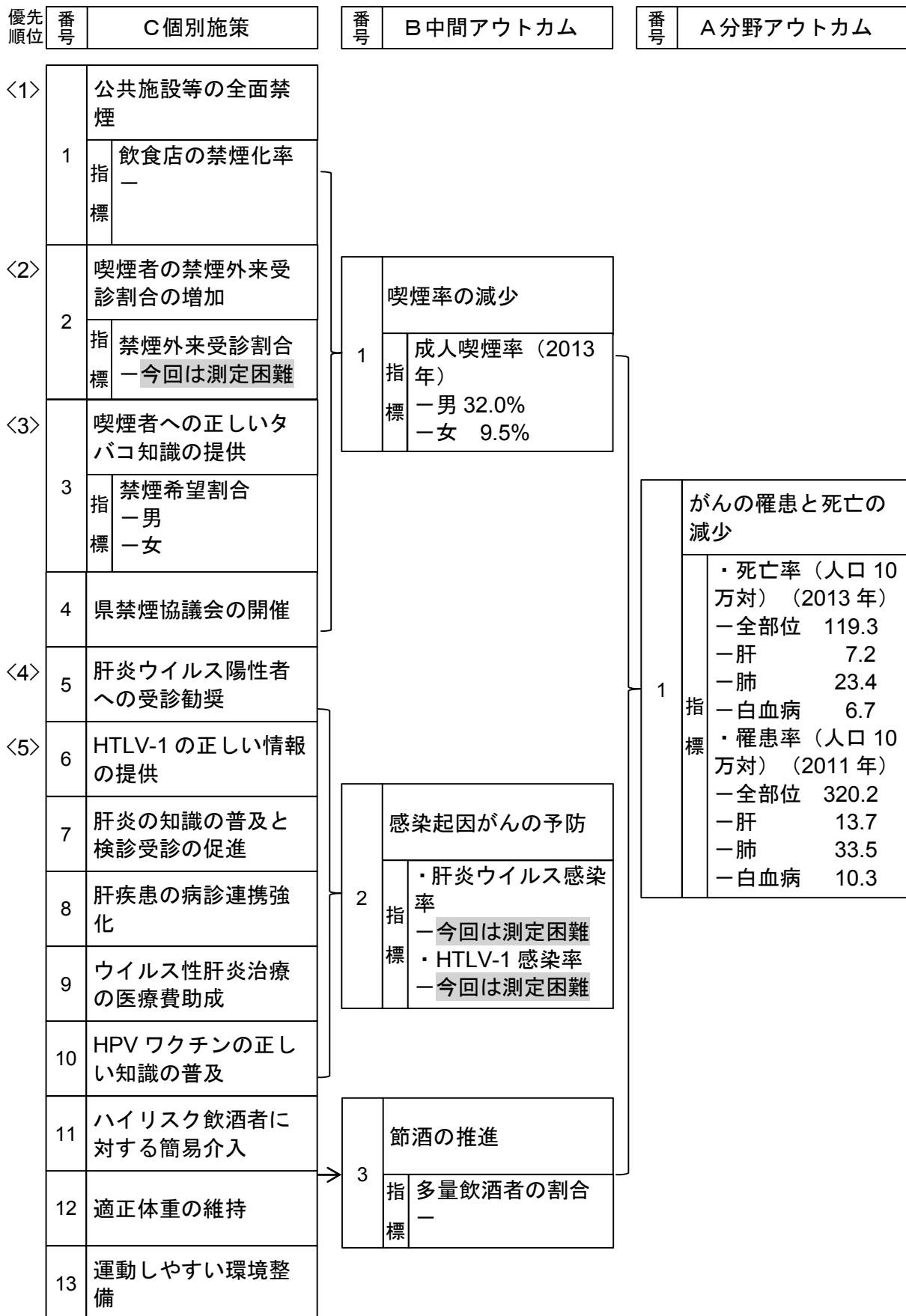
## VI 各種資料

(案)

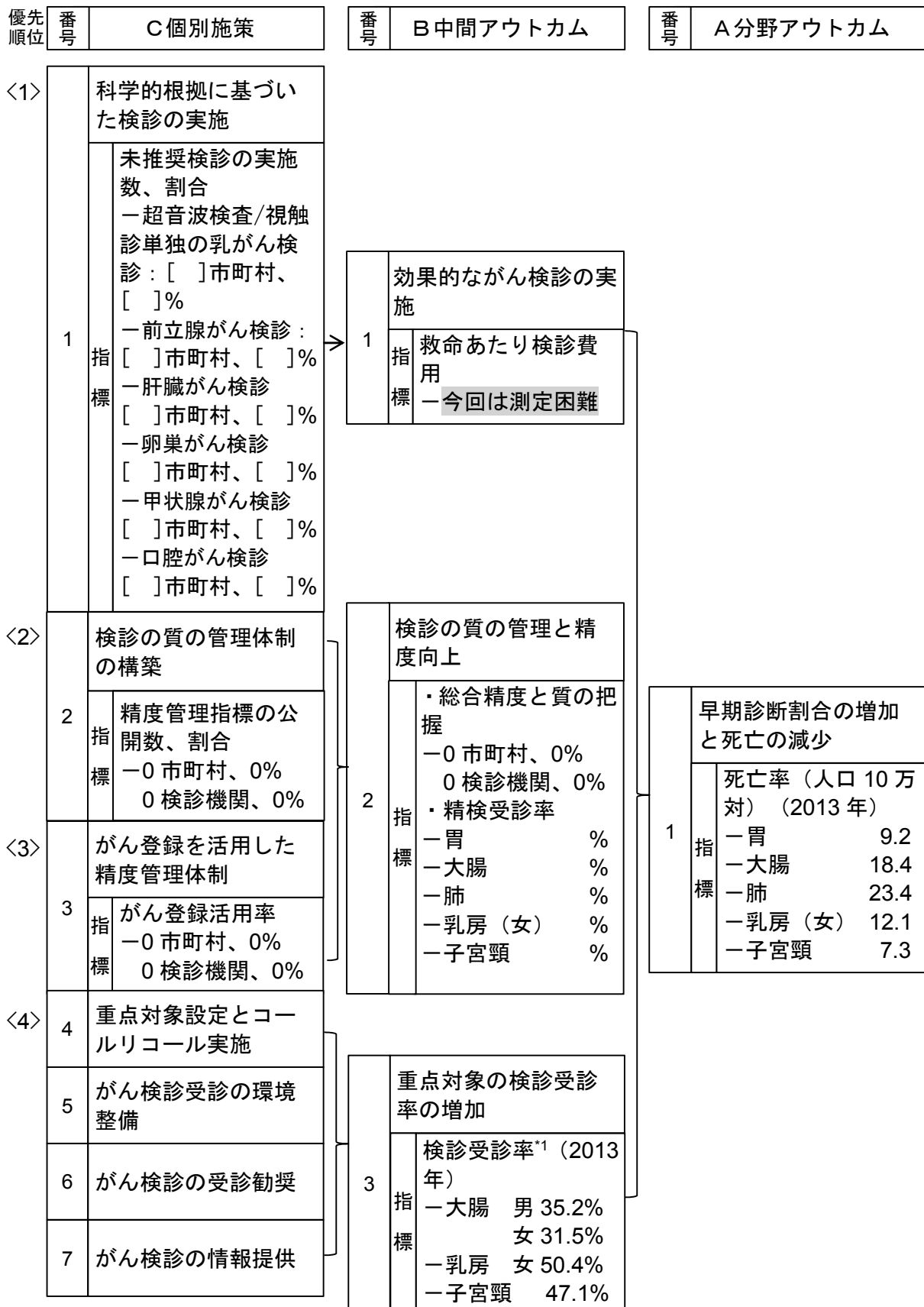
## 施策・指標マップーがん対策の総合的推進



施策・指標マップーがんの予防



施策・指標マップーがんの早期発見

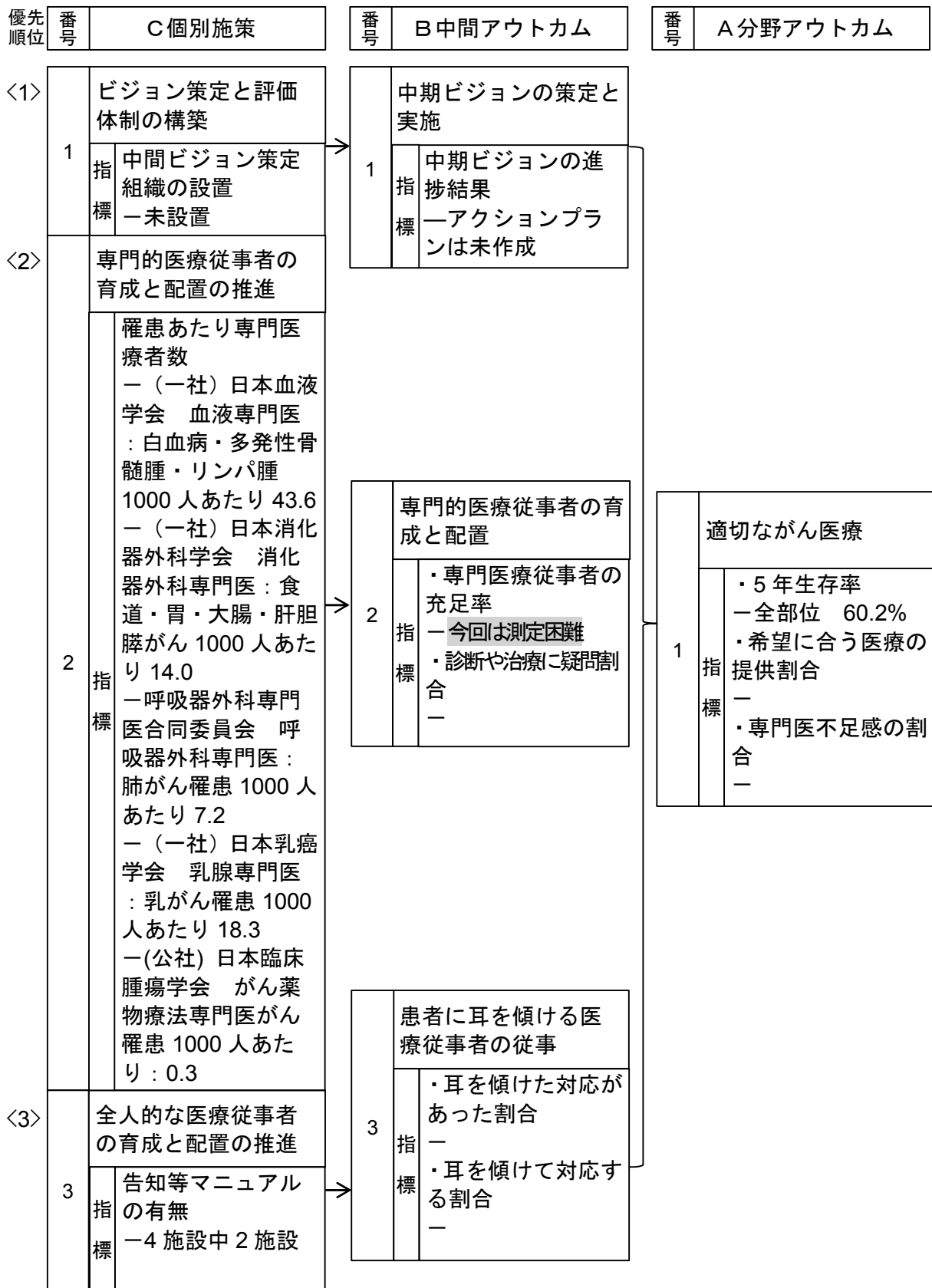


\*1 子宮頸は 20-69 歳、他は 40-69 歳の検診受診率

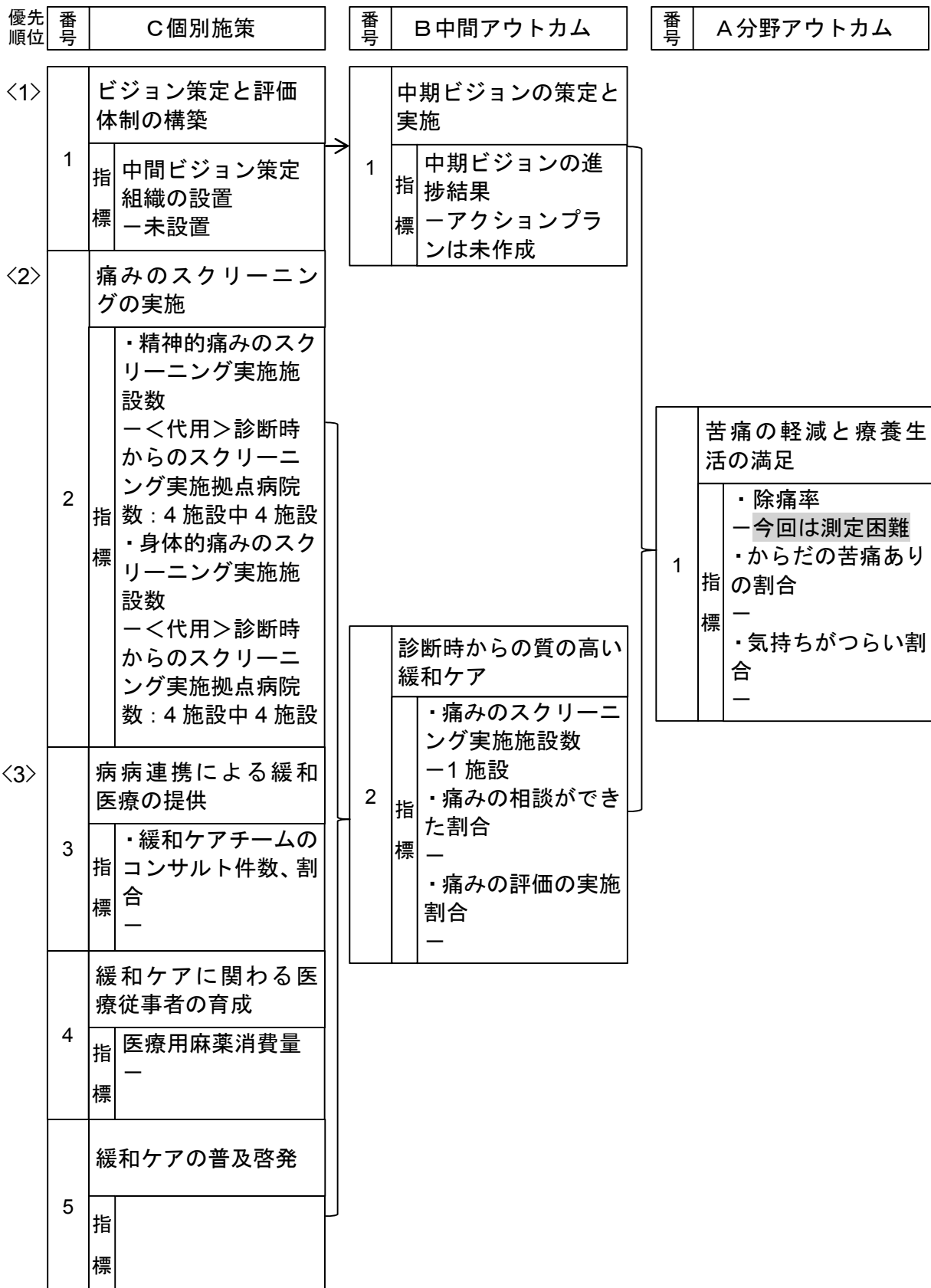
施策・指標マップーがん医療 ①放射線療法、化学療法、手術療法の充実とチーム医療の推進

優先順位	番号	C個別施策	番号	B中間アウトカム	番号	A分野アウトカム
〈1〉	1	ビジョン策定と評価体制の構築	1	中期ビジョンの策定と実施	1	安心・安全な質の高い医療
		指標 中間ビジョン策定組織の設置 ー未設置		指標 中期ビジョンの進捗結果ーアクションプランは未作成		
	2	放射線療法、化学療法、手術療法の充実	2	チーム医療の実践		
		指標 ・レジメン審査率100%の医療機関数 ー0施設 ・レジメン登録率100%の医療機関数 ー0施設		指標 ・標準治療実施率 ー大腸がん術後化学療法実施率：38.7% ー胃癌術後化学療法実施率：71.4% ー肺癌術後化学療法実施率：42.1% ー乳房温存術後全乳房照射実施率：34.5% ー肝切前ICG15実施率：89.3% ・カンサーボード開催数、症例割合 ・チーム医療の受療割合 ー ・医療スタッフが医師に意見できる割合 ー ・医療スタッフに医師が耳を傾ける割合 ー		
	3	チーム医療の推進と整備		1		
指標 多職種参加のIC実施の医療機関数 ー4施設中1施設		指標 ・5年生存率 ー全部位 60.2% ー胃 58.9% ー大腸 64.8% ー肝 25.3% ー肺 30.0% ー乳房 91.9% ・受けた医療の評価 ー				
4	地域連携体制の強化	4		がん種別診療実績の共有 ー院内がん登録2012年集計報告書. 2015年3月		
	指標 適時で質の高いリハビリテーション		指標 リハ科の有無、年間件数 ー琉球大学医学部附属病院：あり、0件 ー那覇市立病院：あり、2358件 ー沖縄県立中部病院：なし、0件 ー沖縄県立宮古病院：なし、-			
5	専門施設への集約と連携体制	5	指標 紹介医療機関を支援なく受診できた割合 ー ・医療機関連携に困難感ありの割合 ー			

施策・指標マップーがん医療 ②がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成及び確保

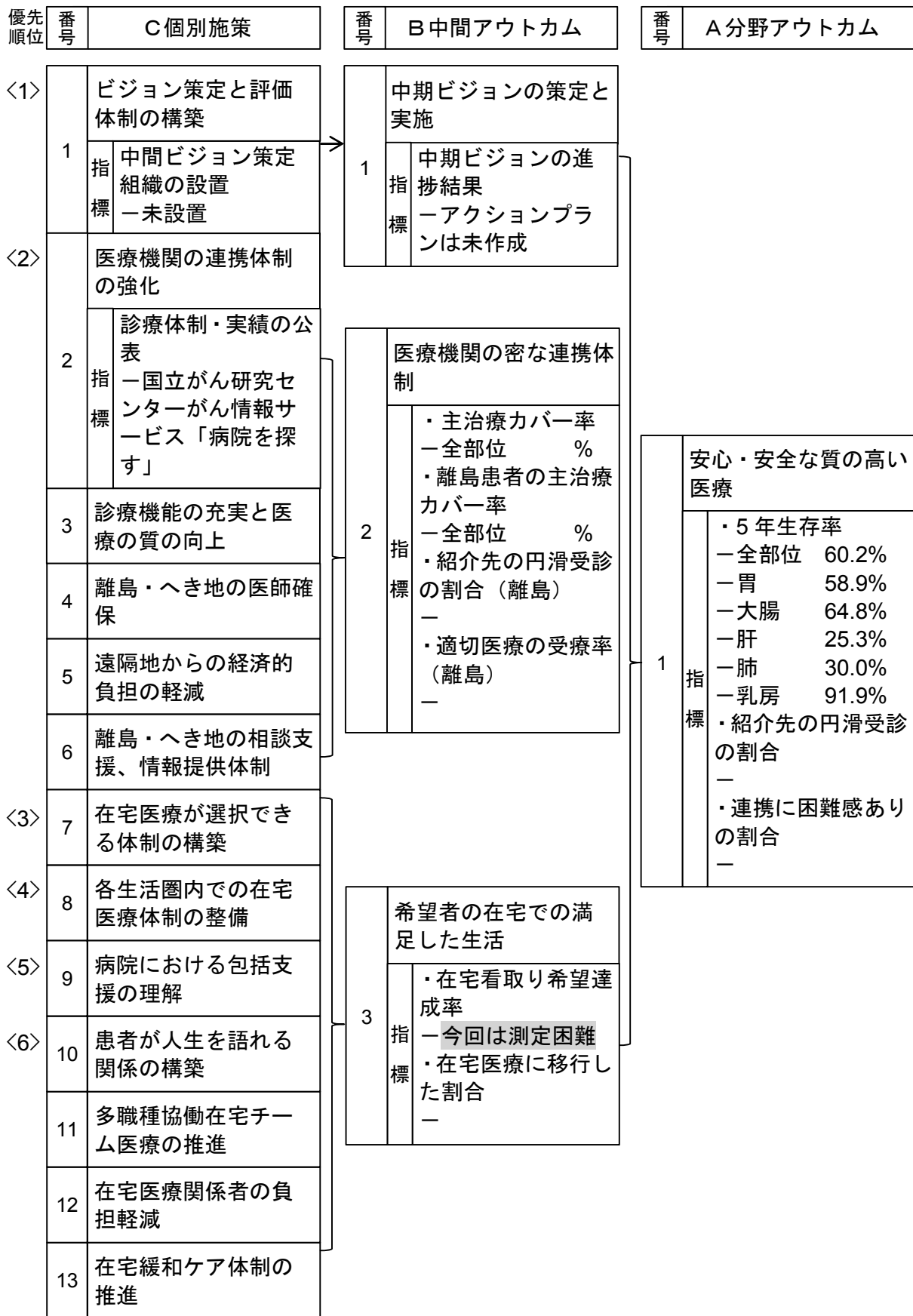


施策・指標マップーがん医療 ③緩和ケアの推進

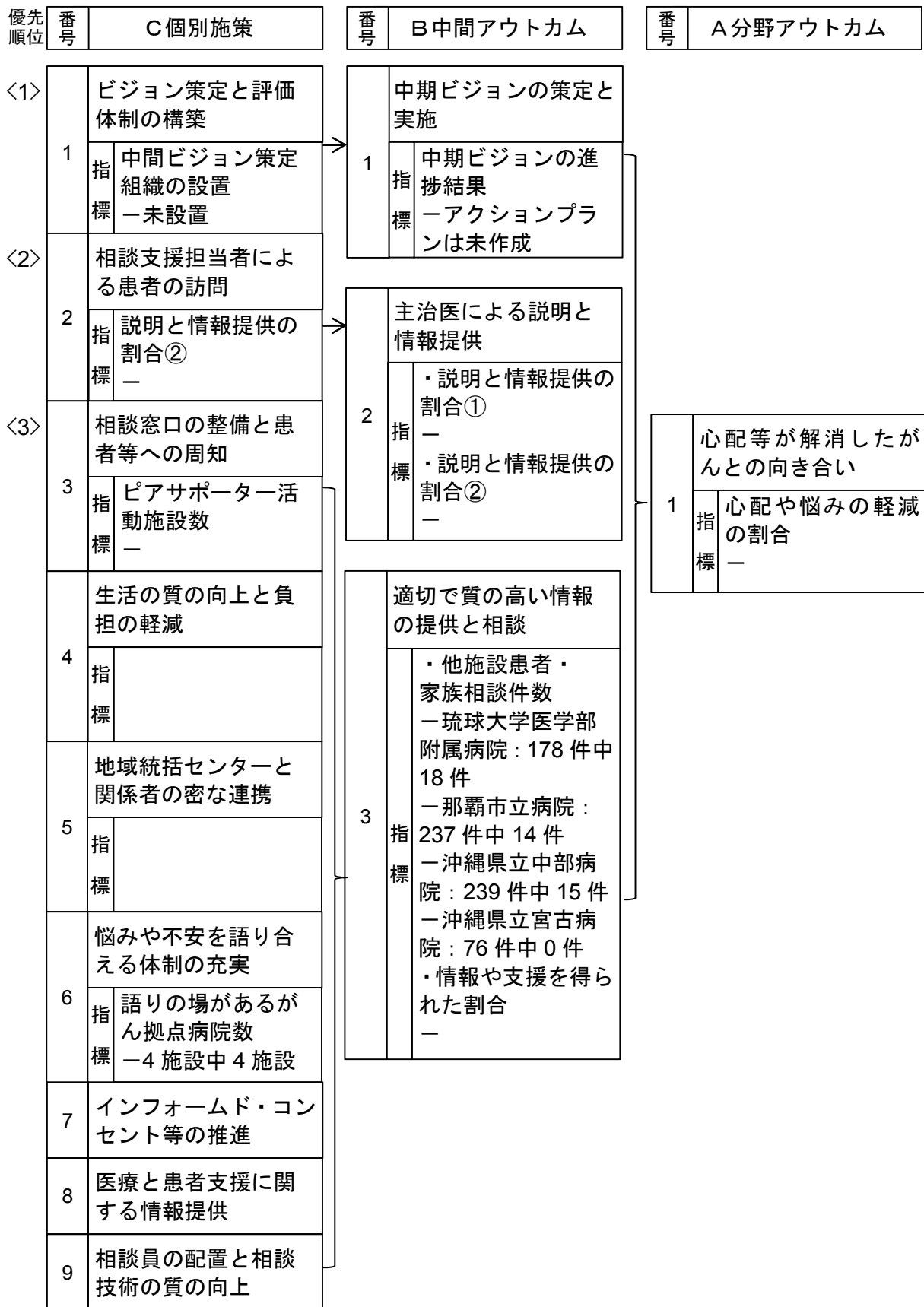




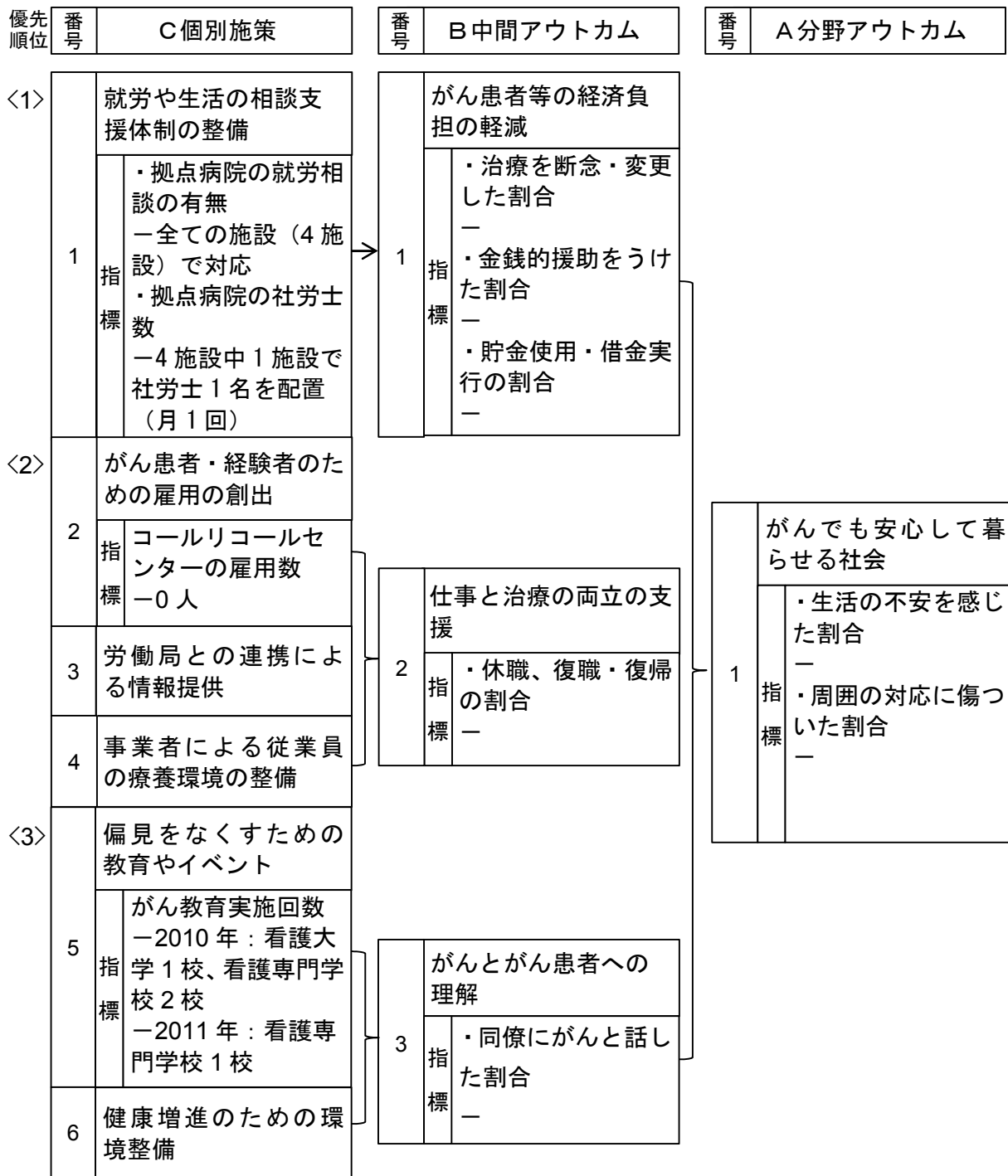
施策・指標マップーがん医療 ④地域の医療提供体制の推進



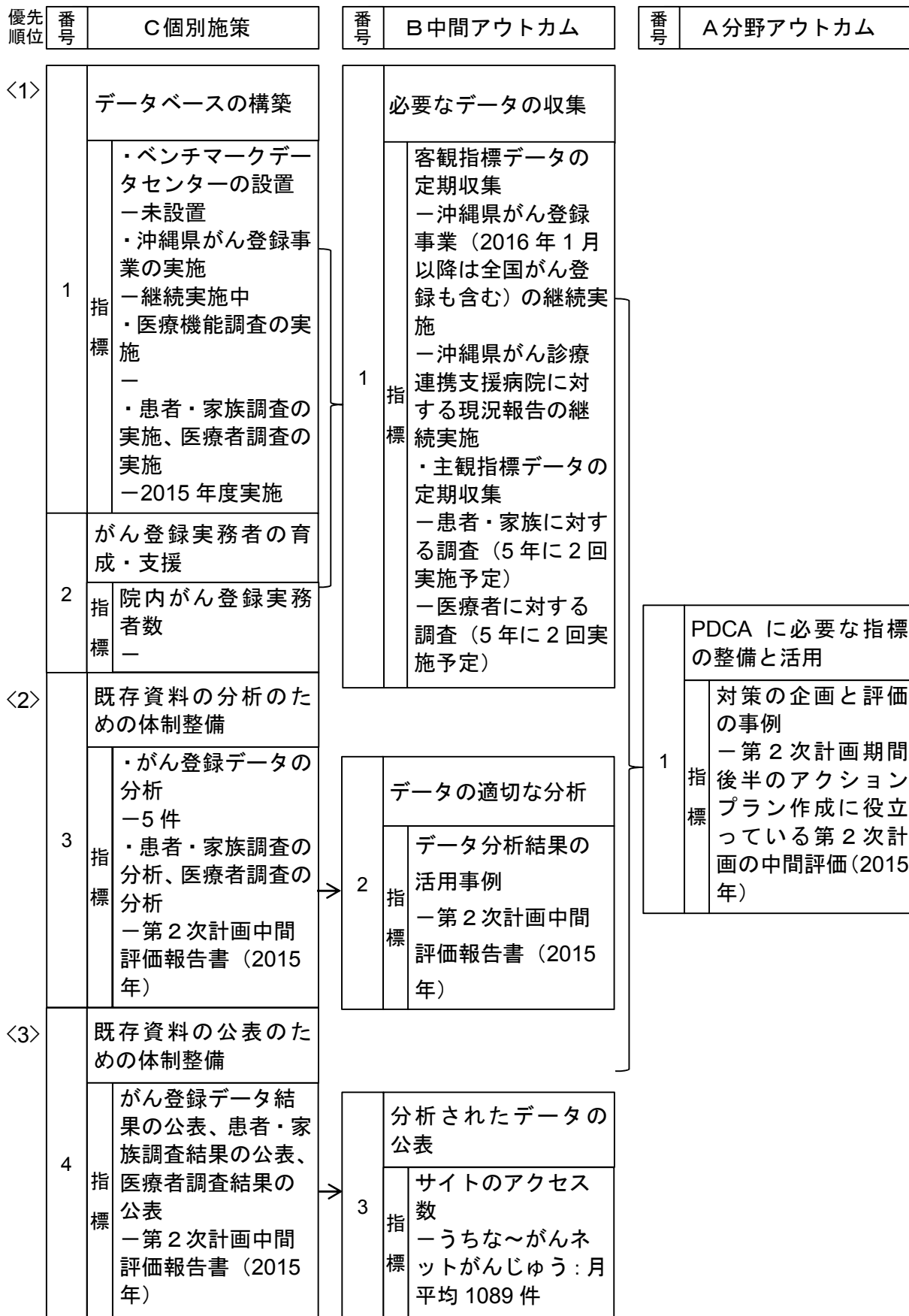
施策・指標マップーがん医療 ⑤相談支援及び情報提供体制の推進



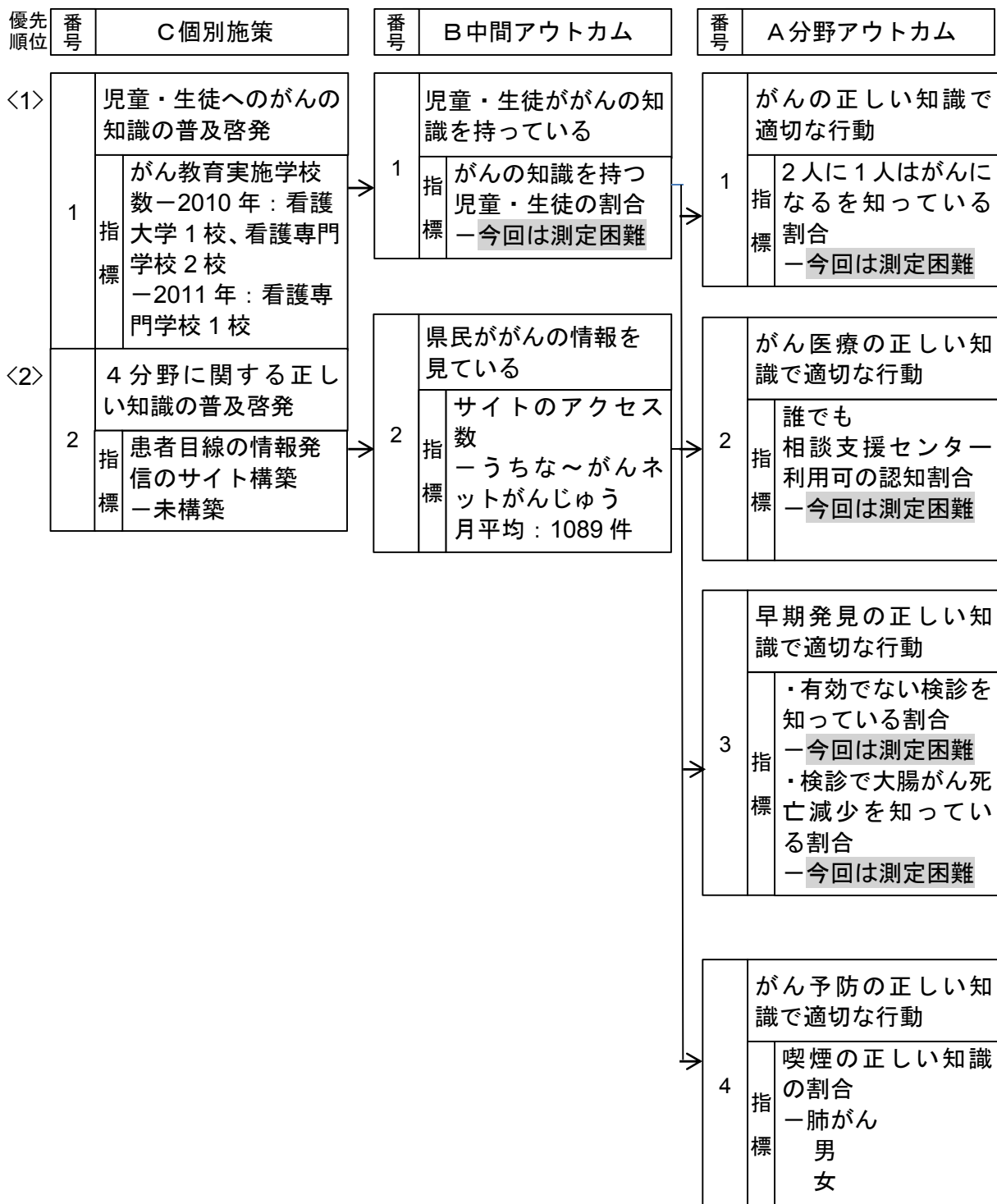
施策・指標マップーがん医療 ⑥がん患者の就労を含めた社会的な問題



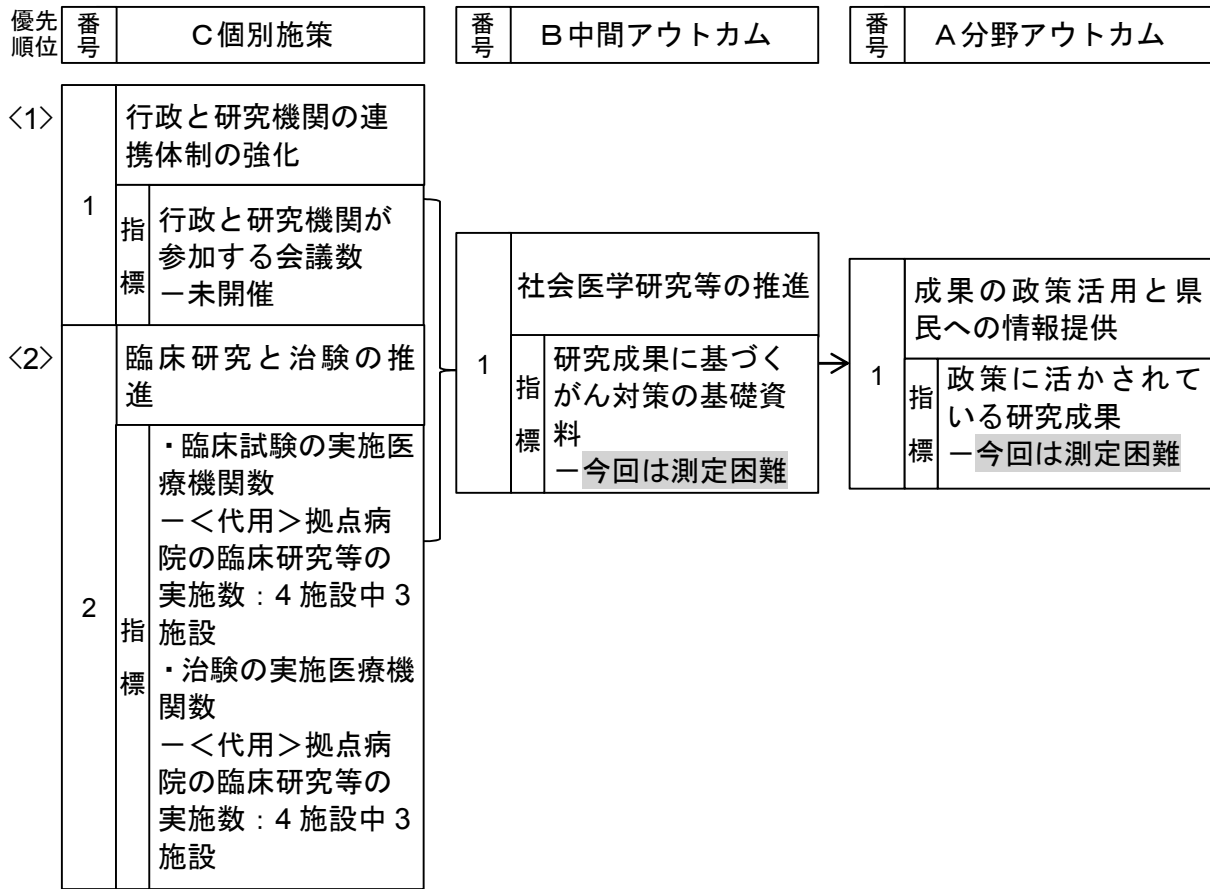
施策・指標マップー基盤的分野 ①モニタリング体制の充実（「がん登録」を含む）



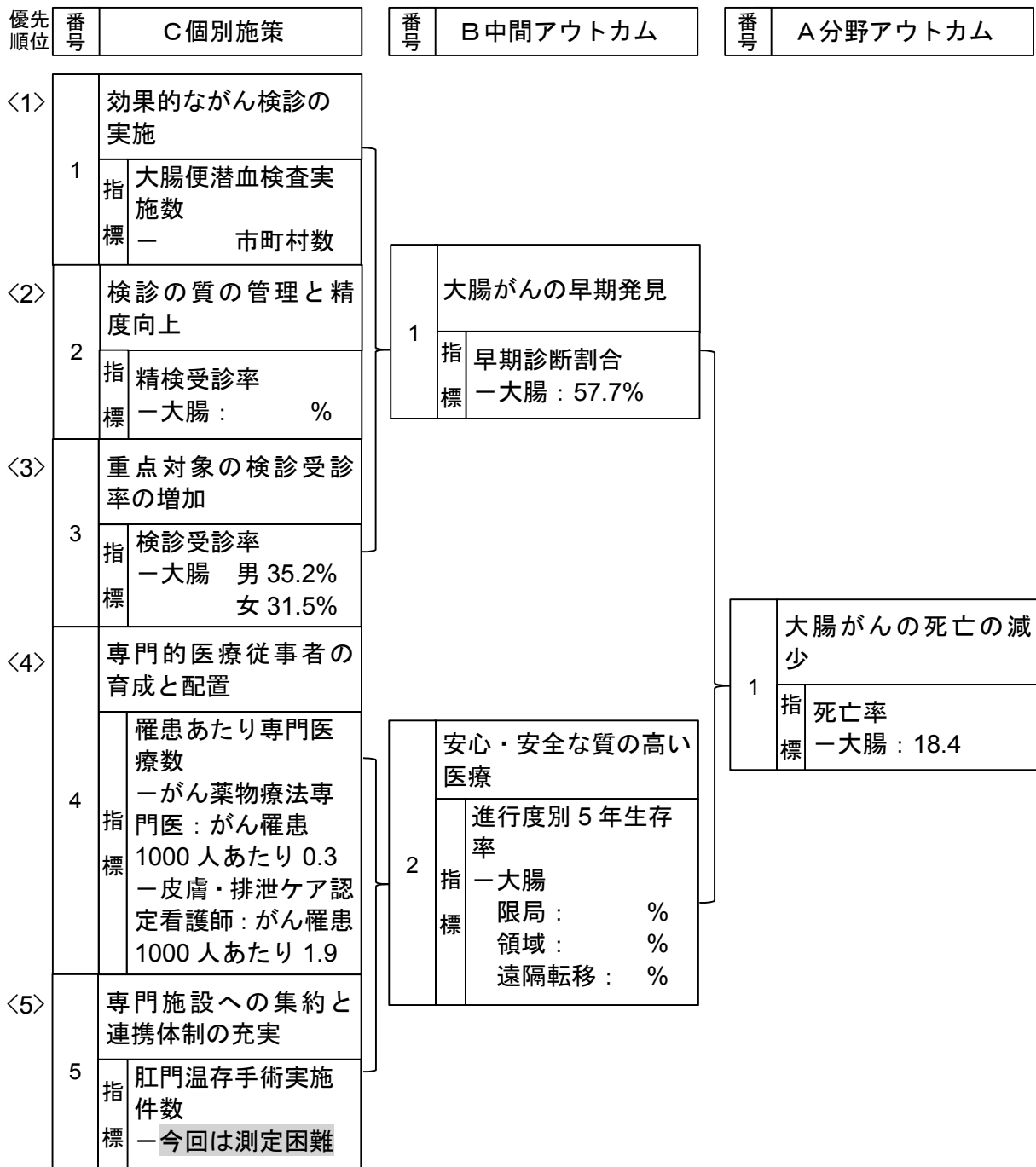
施策・指標マップー基盤的分野 ②がんの教育・普及啓発



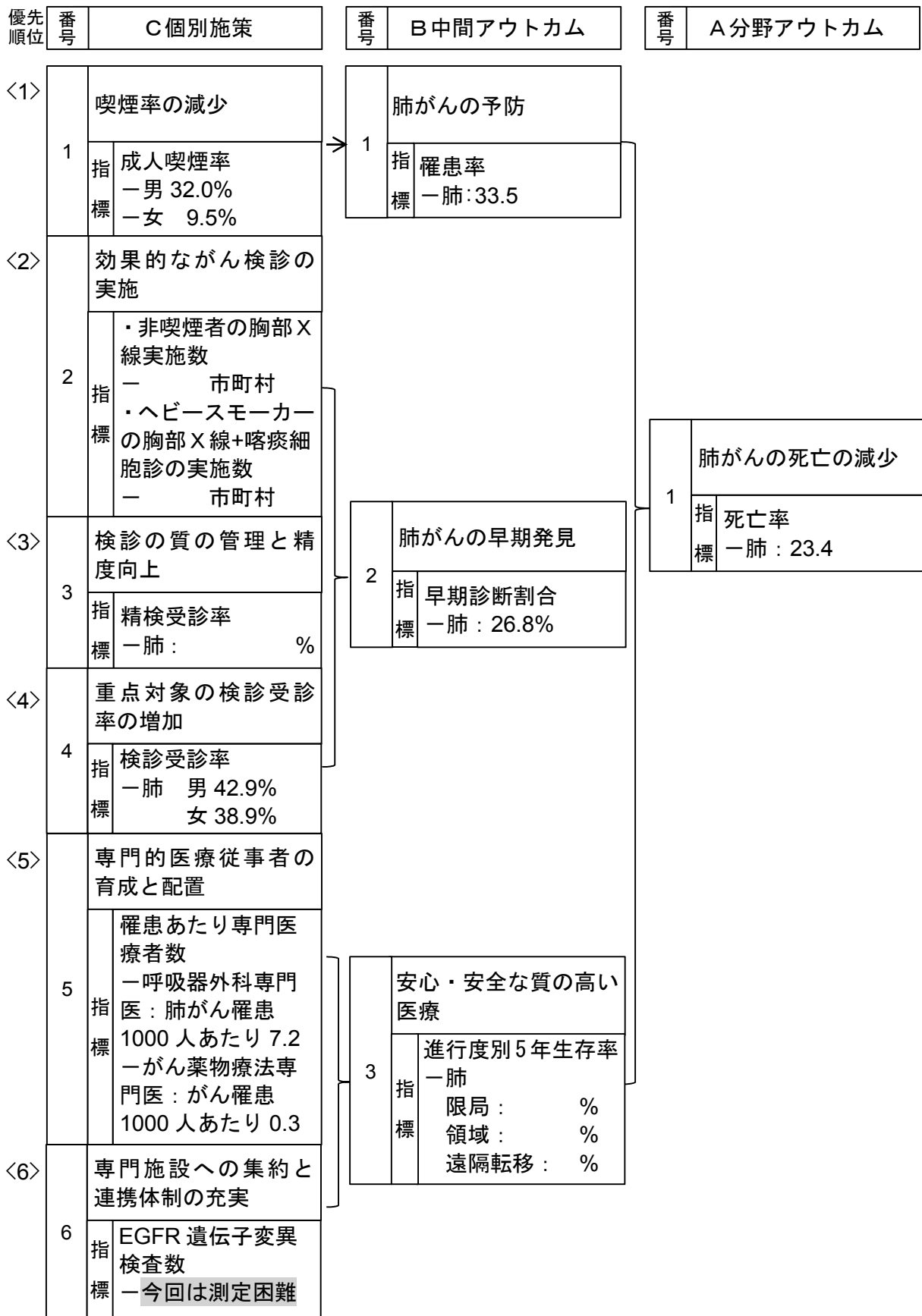
施策・指標マップー基盤的分野 ③がん研究



施策・指標マップーがん種別がん対策 ①大腸がん

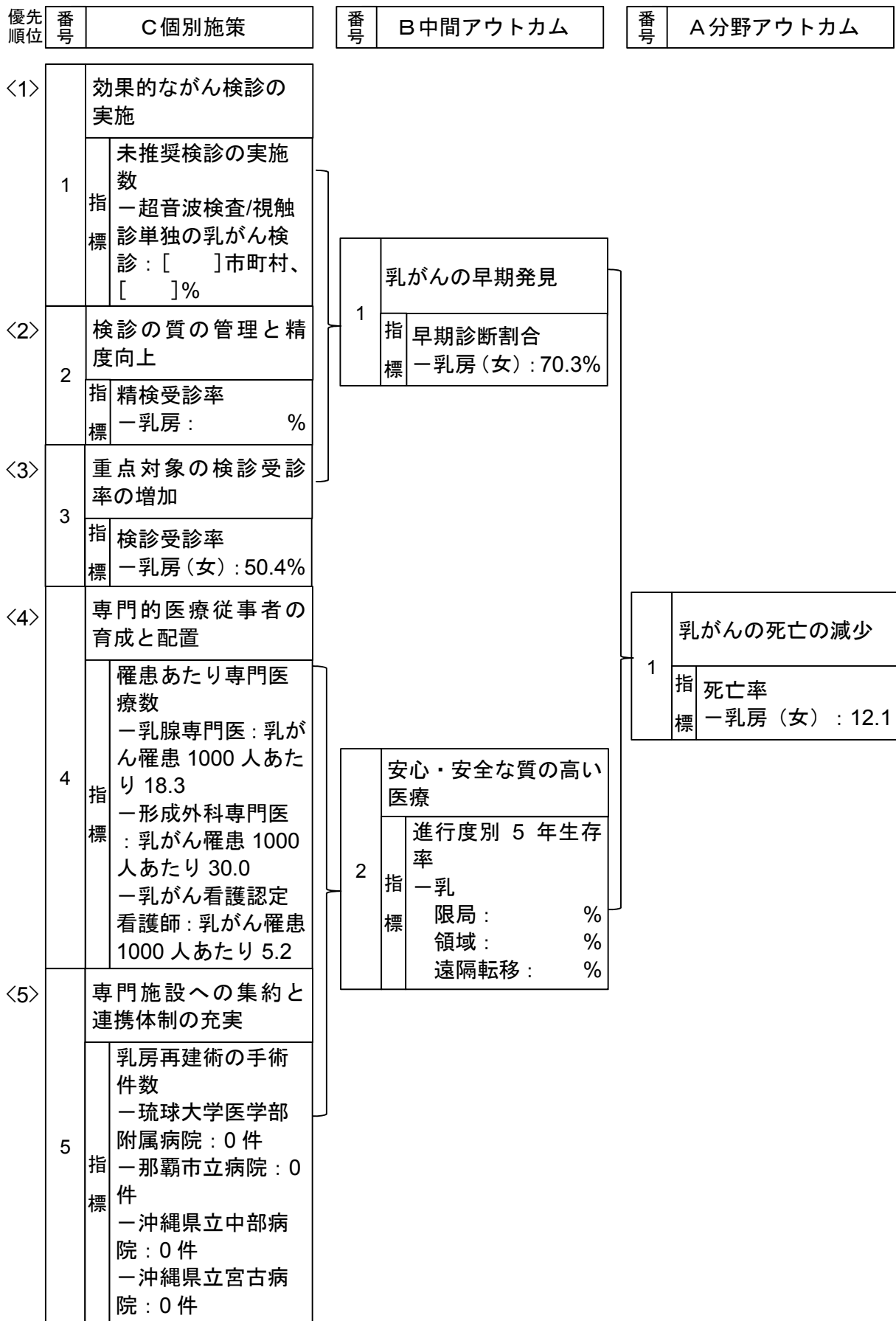


施策・指標マップーがん種別がん対策 ②肺がん

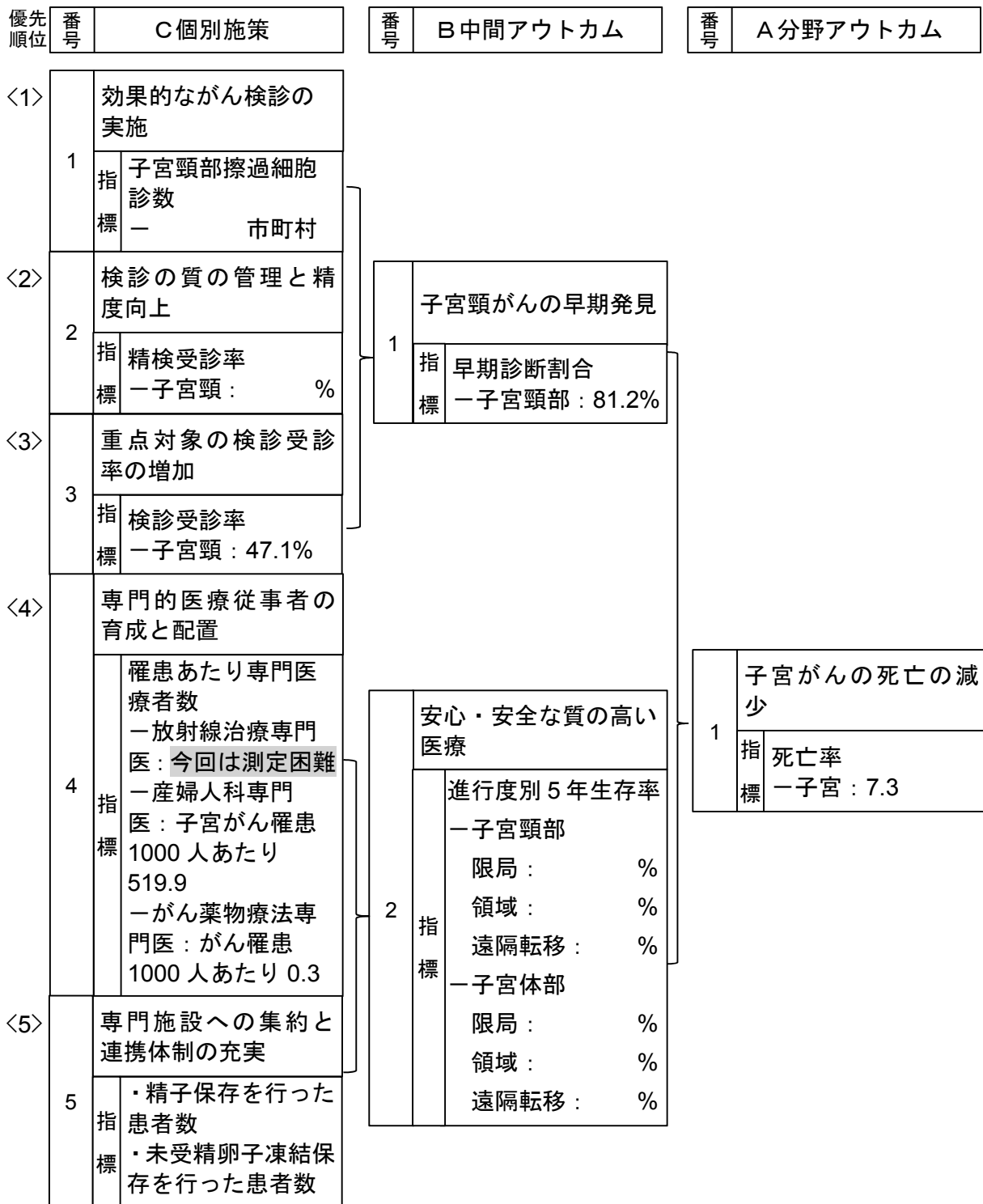




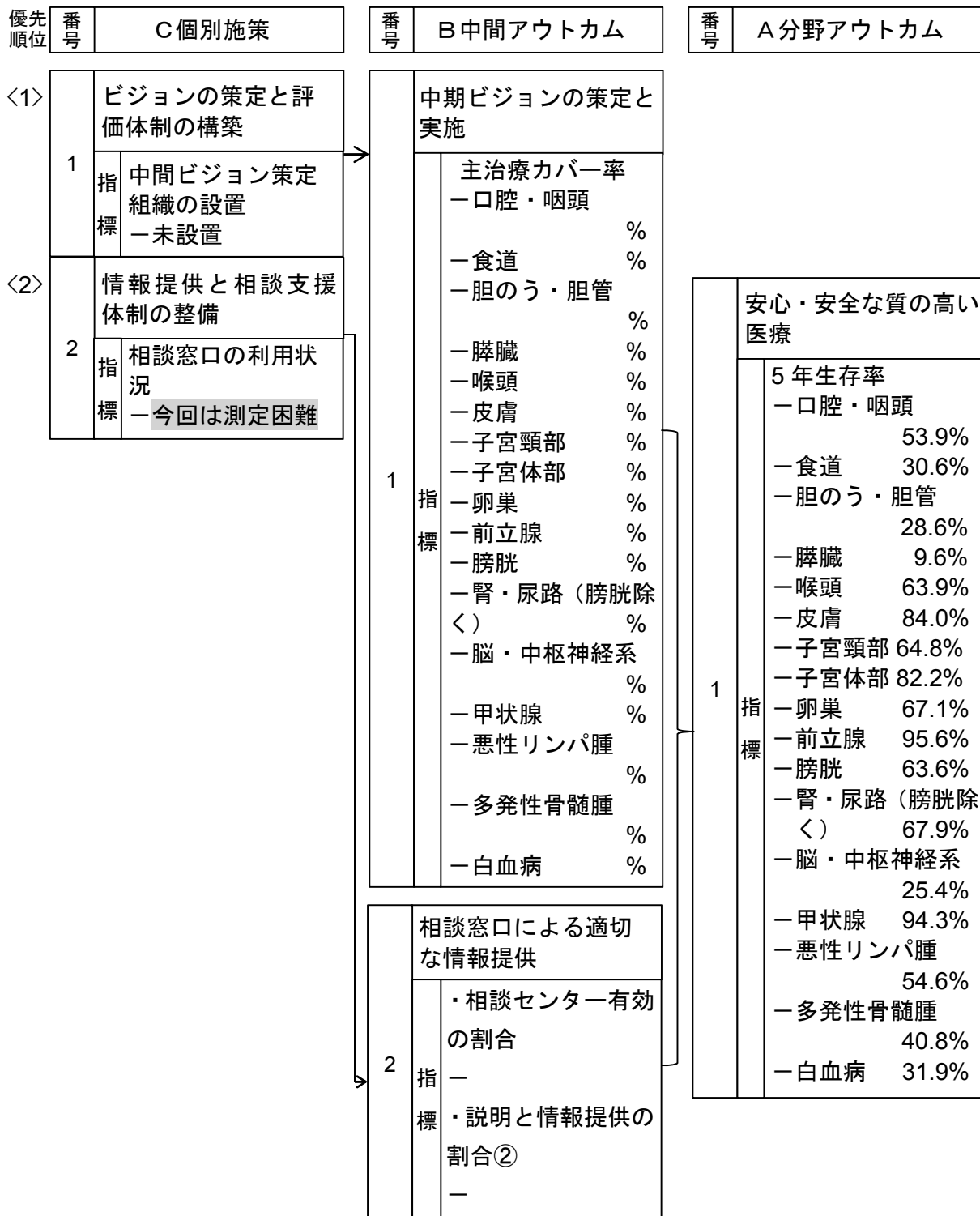
施策・指標マップーがん種別がん対策 ③乳がん



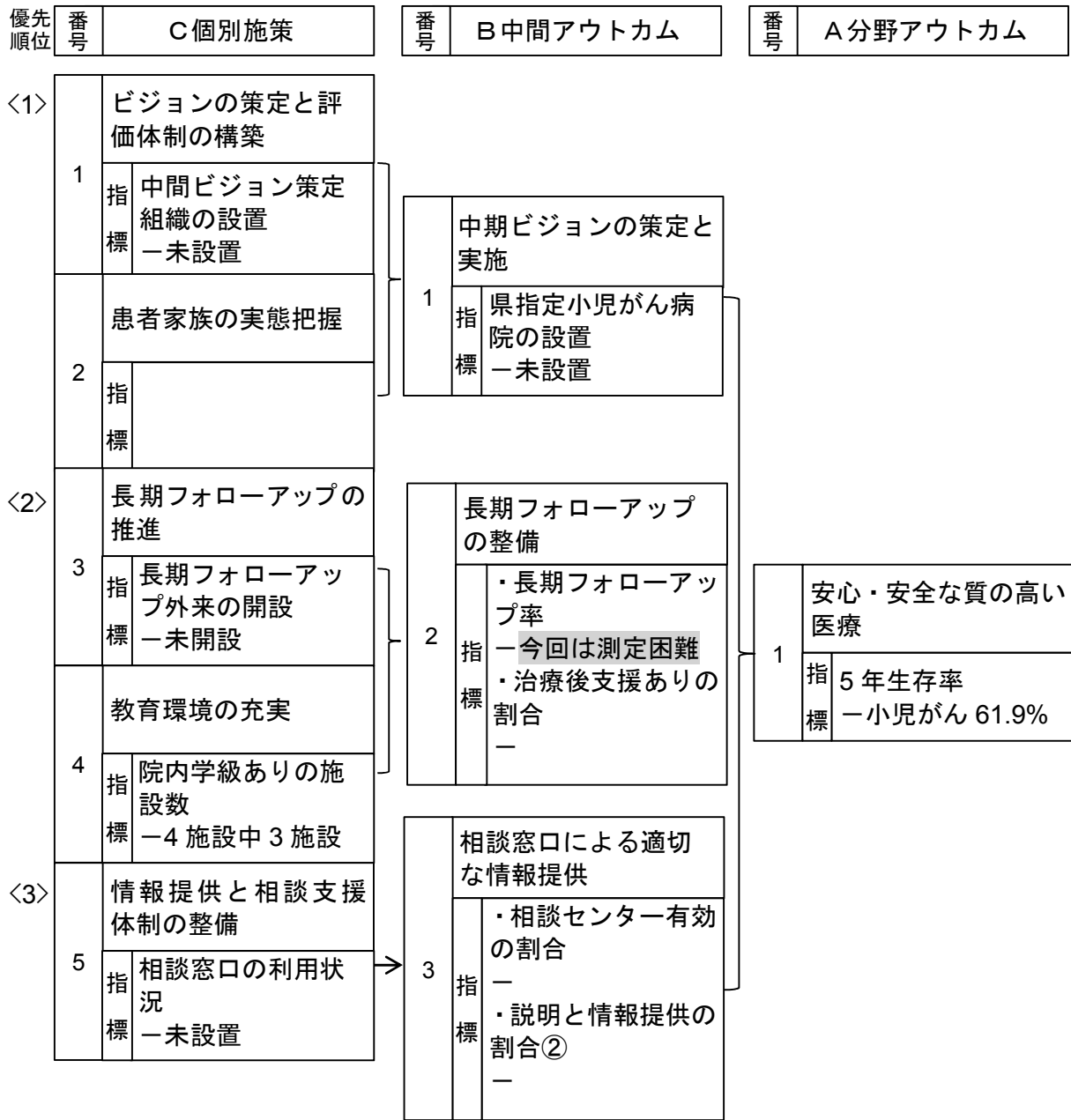
施策・指標マップーがん種別がん対策 ④子宮がん



施策・指標マップーがん種別がん対策 ⑤比較的少ないがん



施策・指標マップー小児（15歳未満）・AYA世代（15～29歳）のがん



(案)

## 1. がん対策の総合的推進

## 分野アウトカム・中間アウトカム・個別施策の一覧

番号	略称	内容	備考
A1	第2次計画の目標の達成	沖縄県がん対策推進計画(第2次)に示されている施策が円滑に遂行され、目標を達成している。	
B1	関係機関・団体が連携した取り組み	沖縄県がん対策推進協議会、沖縄県がん診療連携協議会(専門部会を含む。)、関係機関・団体が連携して、がん対策に取り組んでいる。また、がん対策を効果的に総合的に推進するために、協議会やタウンミーティングを活用して、継続的に意見交換が行われている。	
B2	予算の確保と効率化	全体目標を達成するための予算の確保と限られた予算の効率化が遂行されている。	
C1	県がん対策推進協議会の審議	沖縄県がん対策推進協議会は、がん対策の進捗報告に基づき、がん計画の評価や見直しに関する事項を審議する。	
C2	県がん診療連携協議会の協議と提案	沖縄県がん診療連携協議会(専門部会を含む。)は、がん対策の進捗報告に基づき、がん診療の質の向上及びがん診療の連携協力体制の構築に関わる事項を協議する。また、これらに関わる必要な予算を沖縄県に提案する。	
C3	関係機関・団体の優先付けした取り組み	行政、沖縄県医師会、県歯科医師会、県病院薬剤師会、県看護協会等の関係機関・団体は、沖縄県がん対策推進協議会および沖縄県がん診療連携協議会(専門部会を含む。)での議論を共有し、優先順位の高い施策から取り組む。	
C4	がん対策の周知と県民の参加	行政、沖縄県医師会、県歯科医師会、県病院薬剤師会、県看護協会等の関係機関・団体は、県民に対してがん対策に関する活動を積極的に広報し、がん対策への県民の参加を促す。	

## 2. がんの予防

### 分野アウトカム・中間アウトカム・個別施策の一覧

番号	略称	内容	備考
A1	がんの罹患と死亡の減少	がん種別の罹患が減少し、死亡も減少している。	
B1	喫煙率の減少	喫煙率の減少が加速している。	
B2	感染起因がんの予防	感染に起因するがんが予防されている。	
B3	節酒の推進	節酒（1日1合未満）が進んでいる。	
C1	公共施設等の全面禁煙	多くの者が利用する施設及びそれ以外の施設において、全面禁煙を推進する。	
C2	喫煙者の禁煙外来受診割合の増加	喫煙者における、禁煙外来の受診割合を増加させる。	
C3	喫煙者への正しいタバコ知識の提供	喫煙者の行動に影響する人達から、喫煙者に対して、タバコと禁煙に関する正しい知識を伝える。	
C4	県禁煙協議会の開催	保健医療関係者は、沖縄県禁煙協議会を開催し、タバコ対策に関する取組を協議するよう努めます。	4(1)① <sup>+</sup>
C5	肝炎ウイルス陽性者への受診勧奨	肝炎ウイルス陽性者に対して、精検受診の勧奨や肝疾患専門医療機関への受診勧奨を行い、肝がん発生の予防に取り組む。	
C6	HTLV-1の正しい情報の提供	ヒト細胞白血病ウイルス1型に関する正しい情報の提供（授乳など）を行う。	
C7	肝炎の知識の普及と検診受診の促進	県は、ウイルス性肝炎に関する正しい知識の普及啓発を行うとともに、肝炎ウイルス検査の受検促進を図ります。	4(1)④
C8	肝疾患の病診連携強化	県は、肝疾患診療連携拠点病院を中心とした肝疾患に関する専門医療機関とかかりつけ医による連携強化を図ります。	4(1)④
C9	ウイルス性肝炎治療の医療費助成	県は、ウイルス性肝炎治療の医療費助成を引き続き実施します。	4(1)④
C10	HPVワクチンの正しい知識の普及	県は、子宮頸がん発症の主な原因となるヒトパピローマウイルス（HPV）に対するワクチン接種の正しい知識等の普及啓発に取り組みます。	4(1)④
C11	ハイリスク飲酒者に対する簡易介入	県は、問題のある飲酒をしている人に対しては、市町村や職場等において、必要に応じて簡易介入を行えるよう体制整備を図ります。 市町村は、問題のある飲酒をしている人に対し、必	4(1)③ 4(1)③

		要に応じて簡易介入の実施に努めます。	
C12	適正体重の維持	<p>県は、適正体重を維持するため、肥満予防の県民の行動指針である「1日1回体重測定」が県民に定着するよう関係機関・団体等と連携し、普及啓発を実施します。</p> <p>市町村は、適正体重維持のため、毎日の体重測定を呼びかけるとともに、BMI 25以上が肥満であることの普及啓発に努めます。</p> <p>関係機関・団体等は、適正体重維持のため、毎日の体重測定を呼びかけるとともに、BMI 25以上が肥満であることの普及啓発に努めます。</p>	<p>4(1)②</p> <p>4(1)②</p> <p>4(1)②</p>
C13	運動しやすい環境整備	<p>県は、青年期から高年期までの全ての世代において歩数増加と運動習慣者増加のために、運動しやすい環境整備に取り組むため、関係機関と連携し情報提供を行います。</p>	4(1)②

† 沖縄県. 目次 III対策. 沖縄県がん対策推進計画 (第2次). 平成25年4月

### 3. がんの早期発見

#### 分野アウトカム・中間アウトカム・個別施策の一覧

番号	略称	内容	備考
A1	早期診断割合の増加と死亡の減少	科学的根拠に基づいた効果的ながん検診を有するがんについて、早期診断割合が増加し死亡率が減少している。	
B1	効果的ながん検診の実施	科学的根拠に基づいた効果的ながん検診が行われている。	
B2	検診の質の管理と精度向上	精度管理体制（精検受診率、がん検診の偽陰性率等の把握と公表）が確立し、精度が向上している。	
B3	重点対象の検診受診率の増加	対象の重点化戦略が実施され、対象の検診受診率が増加している。	
C1	科学的根拠に基づいた検診の実施	市町村は、科学的根拠に基づいたがん検診の実施体制の整備に努めます。	4(2) <sup>+</sup>
C2	検診の質の管理体制の構築	<p>精度管理指標の公開、標準的な精密検査の実施、精検受診率の向上などを推進し、精度管理体制を構築する。</p> <p>《第2次計画では次のとおり記述》</p> <p>県は、沖縄県生活習慣病検診管理協議会におけるがん検診の実施方法及び精度管理等の検討及び市町村、検診機関への助言・情報提供のほか検診従事者への研修などの技術的な支援を行います。</p> <p>県は、がん検診の効果・効率等を向上させるため、国の示す「市町村事業におけるがん検診の事業評価の手法について」に基づき「事業評価のためのチェックリスト」や精度管理指標などを用いて、市町村および検診実施団体別の精度管理の実態や指標を定期的に評価・公開するなど、事業評価の実施を推進します。</p> <p>市町村は、がん検診の精度管理・事業評価を実施に努めます。</p>	<p>4(2)</p> <p>4(2)</p> <p>4(2)</p>
C3	がん登録を活用した精度管理体制	沖縄県がん登録資料を活用した、がん検診の精度管理体制を構築する。	
C4	重点対象設定とコールリコール実施	重点対象者層を設定し、その対象者層を中心にコールリコールの実施などの取り組みをする。	



		<p>《第2次計画では次のとおり記述》</p> <p>県は、市町村に対しては、がん検診及び精密検査未受診者の把握とコールリコールなどの受診勧奨の取り組みを推進するよう働きかけます。</p> <p>市町村は、がん検診及び精密検査の未受診者の把握とコールリコールなどの受診勧奨の取り組みを推進に努めます。</p>	<p>4(2)</p> <p>4(2)</p>
C5	がん検診受診の環境整備	<p>市町村は、検診機会の確保、受診環境の整備など、がん検診の実施体制を整備に努めます。</p> <p>保健医療関係者は、がん検診機関においては、検診を受けやすい環境の整備に努めます。</p> <p>関係機関・団体等は、がん検診を受けやすい環境づくりに努めます。</p> <p>関係機関・団体等は、市町村と連携し、従業員が必要に応じて市町村でのがん検診や健康教育を受けられる体制の整備に努めます。</p>	<p>4(2)</p> <p>4(2)</p> <p>4(2)</p> <p>4(2)</p>
C6	がん検診の受診勧奨	保健医療関係者は、医療機関を訪れる患者に対するがん検診の受診勧奨を行うよう努めます。	4(2)
C7	がん検診の情報提供	関係機関・団体等は、がん検診に関する情報提供に努めます。	4(2)

† 沖縄県. 目次 III対策. 沖縄県がん対策推進計画（第2次）. 平成25年4月

4. がん医療 ①放射線療法、化学療法、手術療法の充実とチーム医療の推進

分野アウトカム・中間アウトカム・個別施策の一覧

番号	略称	内容	備考
A1	安心・安全な質の高い医療	住んでいる地域にかかわらず、すべてのがん患者が、安心して安全な質の高い医療を受けられている。	
B1	中期ビジョンの策定と実施	放射線療法、化学療法、手術療法、チーム医療の中期（5年）ビジョンが策定され、そのビジョンの実現に向けて組織的に活動している。	
B2	チーム医療の実践	医療従事者が患者のためのチーム医療を実践できている（医師とその他医療者間におけるコミュニケーションの充実、など）。	
B3	専門施設への集約と連携体制	専門施設への集約や、医療機関の連携体制ができている。	
C1	ビジョン策定と評価体制の構築	放射線療法、化学療法、手術療法、チーム医療の中期ビジョンを策定する組織を設置し、ビジョンの策定や評価をするための体制を構築する。	
C2	放射線療法、化学療法、手術療法の充実	放射線療法、化学療法、手術療法を充実する。 ≪第2次計画では次のとおり記述≫ 県は、放射線療法、化学療法の充実に資する取組みを推進します。 県は、市町村、保健医療関係者、関係機関・団体等と連携し、がん患者が適切ながん医療を受けることができるよう、施策を推進します。 県は、本県のがん医療の質の向上に係る取組みを推進します。 市町村は、県、保健医療関係者、関係機関・団体等と連携し、がん診療機能の充実及びがん医療の質の向上に係る施策への協力に努めます。 保健医療関係者は、県、市町村、関係機関・団体等と連携し、がん診療機能の向上及びがん医療の質の向上に努めます。 県は、がん診療（連携拠点）病院*1及びがん診療連携支援病院*2の機能の充実を図ります。	4(4)④ <sup>†</sup> 4(4)④ 4(4)④ 4(4)④ 4(4)④ 4(4)④
C3	チーム医療の推進と整備	医療従事者がチーム医療の正しい知識をもち、多職種でのチーム医療を推進し、整備する。	
C4	地域連携体制の強	県は、がん診療（連携拠点）病院*1とその他の医療	4(4)④

	化	<p>機関との連携強化を図ります。</p> <p>がん診療（連携拠点）病院*1はその他の医療機関と連携し、がん診療連携体制の構築に努めます。</p> <p>保健医療関係者は、がん診療（連携拠点）病院*1が実施するがん診療連携体制の充実及びがん医療の質の向上に係る取組みへの協力に努めます。</p>	<p>4(4)④</p> <p>4(4)④</p>
C5	適時で質の高いリハビリテーション	<p>保健医療関係者は、必要な患者へ、適切な時期にリハビリテーションが実施されるよう努めます。</p> <p>専門的ながん診療施設は、がん患者に対して、質の高いがんリハビリテーションを提供するよう努めます。</p>	<p>4(4)④</p> <p>4(4)④</p>

† 沖縄県. 目次 III対策. 沖縄県がん対策推進計画（第2次）. 平成25年4月

\*1 都道府県がん診療連携拠点病院：琉球大学医学部附属病院  
地域がん診療連携拠点病院：那覇市立病院、沖縄県立中部病院  
地域がん診療病院：沖縄県立宮古病院

\*2 がん診療連携支援病院：北部地区医師会病院、沖縄県立八重山病院

5. がん医療 ②がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成及び確保

分野アウトカム・中間アウトカム・個別施策の一覧

番号	略称	内容	備考
A1	適切ながん医療	各医療圏で、専門性に基づいた全人的ながん医療を提供できる医療従事者により、適切ながん医療を受けることができる。	
B1	中期ビジョンの策定と実施	がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成及び確保の中期（5年）ビジョンが策定され、そのビジョンの実現に向けて組織的に活動している。	
B2	専門的医療従事者の育成と配置	がん医療に携わる専門的な医療従事者を育成し配置する。	
B3	患者に耳を傾ける医療従事者の従事	患者の声に耳を傾け、がん患者及びその家族が置かれている状況を踏まえ、対応できる医療従事者が従事している。	
C1	ビジョン策定と評価体制の構築	がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成及び確保の中期ビジョンを策定する組織を設置し、ビジョンの策定や評価をするための体制を構築する。	
C2	専門的医療従事者の育成と配置の推進	がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成と配置を推進する。  ≪第2次計画では次のとおり記述≫ 県は、がん診療（連携拠点）病院*1、がん診療連携支援病院*2、その他の医療機関と連携し、手術療法、放射線療法、化学療法その他のがん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師、その他の医療従事者の育成及び確保を図るため、必要な施策を推進します。 保健医療関係者は、がん患者及びその家族が置かれている状況を踏まえ、がん医療の提供に努めます。 がん診療（連携拠点）病院は、がん医療の充実を図るため、専門の臨床医、病理医、看護師等必要な人材の配置に努めます。	4(4)① <sup>†</sup>          4(4)①   4(4)①
C3	全人的な医療従事者の育成と配置の推進	全人的能力を有する医療従事者の育成と配置を推進する。	

† 沖縄県. 目次 III対策. 沖縄県がん対策推進計画（第2次）. 平成25年4月

\*1 都道府県がん診療連携拠点病院：琉球大学医学部附属病院

地域がん診療連携拠点病院：那覇市立病院、沖縄県立中部病院

地域がん診療病院：沖縄県立宮古病院

\*2 がん診療連携支援病院：北部地区医師会病院、沖縄県立八重山病院

## 6. がん医療 ③緩和ケアの推進

### 分野アウトカム・中間アウトカム・個別施策の一覧

番号	略称	内容	備考
A1	苦痛の軽減と療養生活の満足	すべてのがん患者とその家族が、(基本的または専門的な) 緩和ケアを実践できる医療従事者や、患者の状態に応じた切れ目のない連携体制によって、がんと診断されたときから質の高い緩和ケアを受け、身体的・精神心理的・社会的苦痛が軽減され、療養生活に満足している。	
B1	中期ビジョンの策定と実施	緩和ケアの中期(5年)ビジョンが策定され、そのビジョンの実現に向けて組織的に活動している。	
B2	診断時からの質の高い緩和ケア	すべてのがん患者とその家族が、がんと診断されたときから質の高い緩和ケアを受けている。	
C1	ビジョン策定と評価体制の構築	緩和ケアの中期ビジョンを策定する組織を設置し、ビジョンの策定や評価をするための体制を構築する。	
C2	痛みのスクリーニングの実施	がん診療(連携拠点)病院*1を中心に、精神的痛みを含む痛みのスクリーニングを実施する。	
C3	病病連携による緩和医療の提供	がん診療(連携拠点)病院の緩和ケアチームが中心となって、他の医療機関との相互連携による患者及び家族の利便性を重視した緩和医療を提供する。	
C4	緩和ケアに関わる医療従事者の育成	県は、がん診療(連携拠点)病院、がん診療連携支援病院*2、その他の医療機関、関係機関・団体等と連携し、緩和ケアに関する知識及び技術を有する医療従事者の育成を図り、がん患者、その家族の状況に応じ、がんと診断されたときからの緩和ケアの提供体制を推進します。	4(4)② <sup>†</sup>
C5	緩和ケアの普及啓発	県は、緩和ケアに関する普及啓発を推進します。 市町村は、県、医療機関等と連携し、その管轄地域において、地域住民への緩和ケアに関する普及啓発に努めます。	4(4)② 4(4)②

† 沖縄県. 目次 III対策. 沖縄県がん対策推進計画(第2次). 平成25年4月

\*1 都道府県がん診療連携拠点病院：琉球大学医学部附属病院  
地域がん診療連携拠点病院：那覇市立病院、沖縄県立中部病院  
地域がん診療病院：沖縄県立宮古病院

\*2 がん診療連携支援病院：北部地区医師会病院、沖縄県立八重山病院

7. がん医療 ④地域の医療提供体制の推進

分野アウトカム・中間アウトカム・個別施策の一覧

番号	略称	内容	備考
A1	安心・安全な質の高い医療	住んでいる地域にかかわらず、すべてのがん患者が、安心して安全な質の高い医療を受けられている。	
B1	中期ビジョンの策定と実施	地域の医療提供体制の中期（5年）ビジョンが策定され、そのビジョンの実現に向けて組織的に活動している。	
B2	医療機関の密な連携体制	がん診療（連携拠点）病院*1とその他の医療機関の連携体制ができています。	
B3	希望者の在宅での満足した生活	在宅医療を希望するがん患者とその家族が、適切な意思決定支援のもと、希望する場所で、必要な支援を受けて最後まで満足した状態で生活することができる。	
C1	ビジョン策定と評価体制の構築	地域の医療提供体制の中間ビジョンを策定する組織を設置し、ビジョンの策定や評価をするための体制を構築する。	
C2	医療機関の連携体制の強化	がん種別にがん診療（連携拠点）病院及び専門医療機関の診療実績を把握、会議等で共有し、医療機関の連携体制を強化する。	
C3	診療機能の充実と医療の質の向上	<p>県は、市町村、保健医療関係者、関係機関・団体等と連携し、がん患者が適切ながん医療を受けることができるよう、施策を推進します。</p> <p>県は、がん診療連携支援病院*2の機能強化を推進します。</p> <p>県は、本県のがん医療の質の向上に係る取組みを推進します。</p> <p>市町村は、県、保健医療関係者、関係機関・団体等と連携し、がん診療機能の充実及びがん医療の質の向上に係る施策への協力に努めます。</p> <p>保健医療関係者は、県、市町村、関係機関・団体等と連携し、がん診療機能の向上及びがん医療の質の向上に努めます。</p> <p>県は、市町村、保健医療関係者、がん患者等関係者及び関係機関・団体等と連携し、離島及びへき地におけるがん医療の確保及びがん患者等関係者への支援等に関し必要な施策を推進します。</p>	<p>4(4)④<sup>+</sup></p> <p>4(6)</p> <p>4(4)④</p> <p>4(4)④</p> <p>4(4)④</p> <p>4(6)</p>

		<p>県は、離島・へき地の医療機関とがん診療（連携拠点）病院等との連携体制を推進します。</p> <p>離島・へき地を管轄する市町村は、県、保健医療関係者、がん患者等関係者及び関係機関・団体等と連携して、施策の推進に努めます。</p> <p>離島・へき地を管轄する市町村は、離島・へき地におけるがん診療体制の推進に努めます。</p> <p>保健医療関係者は、県、市町村、がん患者等関係者及び関係機関・団体等と連携して、施策の推進に努めます。</p>	<p>4(6)</p> <p>4(6)</p> <p>4(6)</p> <p>4(6)</p>
C4	離島・へき地の医師確保	<p>県は、医学生等に対し修学資金等を貸与し、将来、離島・へき地の医療機関等において従事する医師の確保を図ります。</p>	4(6)
C5	遠隔地からの経済的負担の軽減	<p>県は、離島地域からの渡航費の低減やファミリーハウスなどの活用により、遠隔地からの治療に伴う経済的負担の軽減を図ります。</p> <p>離島・へき地を管轄する市町村は、治療及び検査等に伴う航空機や船舶での移動等による負担軽減のための施策を推進し、管轄する地域住民の経済的な負担の軽減に努めます。</p>	<p>4(6)</p> <p>4(6)</p>
C6	離島・へき地の相談支援、情報提供体制	<p>県は、離島地域におけるがん医療に関する情報提供を推進します。</p> <p>県は、離島・へき地における効率的かつ効果的な情報提供体制を推進します。</p> <p>県は、がん関連図書資源の効果的な配置転換を推進します。</p> <p>県は、がん患者等関係者や保健医療関係者等が協働で実施する相談会等の取組みを推進します。</p> <p>離島・へき地を管轄する市町村は、離島・へき地におけるがん患者等関係者の相談支援、情報提供体制の充実に努めます。</p>	<p>4(6)</p> <p>4(6)</p> <p>4(6)</p> <p>4(6)</p> <p>4(6)</p>
C7	在宅医療が選択できる体制の構築	<p>意思決定に必要な情報の提供がなされた上で適切なプロセスで話し合いが行われ、患者の意向に寄り添った意思決定の元に在宅医療が選択できる体制を構築する。</p>	
C8	各生活圏内での在宅医療体制の整備	<p>家庭、地域等ががん医療を受ける体制（設備・人材・予算）を整備する（在宅を支える人材や体制が患者の生活圏内にある）。</p>	



		<p>《第2次計画では次のとおり記述》</p> <p>県は、がん患者の意向により、住み慣れた家庭、地域等でがん医療を受けることができるよう、必要な施策を実施します。</p> <p>県は、地域における支援機関（病院、在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション、薬局、地域包括支援センター、市町村、保健所等）がお互いの役割を担い連携が図れるよう支援します。</p> <p>市町村は、がん患者の意向により、住み慣れた家庭、地域等でがん医療・介護サービスを受けることができるよう、包括支援センターや在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション等と連携し、管轄する地域の在宅医療の連携体制の推進に努めます。</p>	<p>4(4)③</p> <p>4(4)③</p> <p>4(4)③</p>
C9	病院における包括支援の理解	病院における医療従事者が在宅医療を理解し、介護・福祉を含めた包括支援の理解に努める。	
C10	患者が人生を語る関係の構築	患者と支える人達の間で患者本人が人生を語る、支える側はそれを聞くことができる関係を構築する。	
C11	多職種協働在宅チーム医療の推進	県は、多職種協働による在宅チーム医療を推進します。	4(4)③
C12	在宅医療関係者の負担軽減	<p>県は、在宅医療に携わる医師の負担軽減のため、訪問看護ステーションなどと連携したバックアップ体制を推進します。</p> <p>県は、訪問看護ステーションの経営効率の改善、看護師等医療従事者への負担の軽減のための取組みを推進します。</p>	<p>4(4)③</p> <p>4(4)③</p>
C13	在宅緩和ケア体制の推進	県は、住み慣れた家庭、地域等で緩和ケアを受けることができる体制を推進します。	4(4)②

† 沖縄県. 目次 III対策. 沖縄県がん対策推進計画（第2次）. 平成25年4月

\*1 都道府県がん診療連携拠点病院：琉球大学医学部附属病院  
地域がん診療連携拠点病院：那覇市立病院、沖縄県立中部病院  
地域がん診療病院：沖縄県立宮古病院

\*2 がん診療連携支援病院：北部地区医師会病院、沖縄県立八重山病院

8. がん医療 ⑤相談支援及び情報提供体制の推進

分野アウトカム・中間アウトカム・個別施策の一覧

番号	略称	内容	備考
A1	心配等が解消した がんと向き合い	がん患者やその家族が、がんにより生じた心配、悩みなどが解消され、がんと向き合えるようになっている。	
B1	中期ビジョンの策 定と実施	相談支援及び情報提供体制の中期（5年）ビジョンが策定され、そのビジョンの実現に向けて組織的に活動している。	
B2	主治医による説明 と情報提供	主治医を主体とした医療従事者が、がん患者とその家族の不要な悩みが生じないように、タイムリーに必要な説明と情報を提供している。	
B3	適切で質の高い情 報の提供と相談	がん患者及びその家族が、いつでもどこでも適切で質の高い情報の提供や相談が受けられる。すなわち、医療機関では、相談支援センターを中心とする、質が高く活用しやすい情報提供・相談支援体制ができています。医療機関外では、ピアサポート等による情報提供・相談支援体制ができています。	
C1	ビジョン策定と評 価体制の構築	相談支援及び情報提供体制の中期ビジョンを策定する組織を設置し、ビジョンの策定や評価をするための体制を構築する。	
C2	相談支援担当者に よる患者の訪問	がん診療（連携拠点）病院*1及びがん診療連携支援病院*2では、がん患者及びその家族の不要な悩みが生じないように、患者ごとに相談支援センターの担当者を決め、その担当者が通院または入院時に患者と家族を訪問する体制を構築する。	
C3	相談窓口の整備と 患者等への周知	相談できる窓口（相談支援センターやピアサポート）を整備し、がん患者及びその家族に対して周知するため、主治医からの説明を必須にするなどの仕組みを構築する。  ≪第2次計画では次のとおり記述≫ 県は、がん患者及びその家族に対する相談支援体制の充実を図ります。 県は、がん患者支援のモデル事業として、宮古、八重山地域のがん患者等関係者、行政関係者、保健医療関係者等と連携したがんに関する相談会を実施	4(4)⑥ <sup>+</sup>  4(4)⑥

		<p>しており、本事業の評価を踏まえ、今後の相談支援の効果的な施策を検討していきます。</p> <p>県は、沖縄県がん対策推進計画の推進につながる、がん患者等関係者の取組みを促進します。</p> <p>保健医療関係者は、がん患者やその家族の不安、悩みの軽減のための相談支援を実施できる体制の構築に努めます。</p> <p>県は、がん患者等関係者の経験を活用した支援活動を推進します。</p> <p>県は、がん患者等関係者の不安、悩みの軽減のため、がん診療（連携拠点）病院*1、がん診療連携支援病院*2、がん診療を行っている専門医療機関等のピアサポート提供体制を推進します。</p> <p>県は、ピアサポート活動を実施するピアサポーターを育成します。</p> <p>県は、県民に対し、がん患者等支援に関する相談支援体制の周知を図ります。</p>	<p>4(4)⑥</p> <p>4(4)⑥</p> <p>4(4)⑥</p> <p>4(4)⑥</p> <p>4(4)⑥</p> <p>4(4)⑥</p>
C4	生活の質の向上と負担の軽減	<p>県は、市町村、保健医療関係者、がん患者等関係者及び関係機関・団体等と連携し、がん患者及びその家族の療養生活の質の維持向上並びに身体的、精神的及び経済的な負担の軽減するための施策を推進します。</p> <p>市町村は、県、保健医療関係者、がん患者等関係者及び関係機関・団体等と連携し、がん患者及びその家族の療養生活の質の維持向上並びに身体的、精神的及び経済的な負担の軽減に資するための対策の推進に努めます。</p> <p>保健医療関係者は、県、市町村、がん患者等関係者及び関係機関・団体等と連携し、がん患者及びその家族の療養生活の維持向上並びに身体的、精神的及び経済的な負担の軽減に努めます。</p>	<p>4(4)⑥</p> <p>4(4)⑥</p> <p>4(4)⑥</p>
C5	地域統括センターと関係者の密な連携	<p>県は、地域統括相談支援センターと医療機関及びがん患者等関係者の連携を推進します。</p>	4(4)⑥
C6	悩みや不安を語り合える体制の充実	<p>県は、がん患者等関係者が悩みや不安を語り合い、交流することのできる体制の充実を図ります。</p>	4(4)⑥
C7	インフォームド・コンセント等の推進	<p>県は、がんに関わる医師が十分なインフォームド・コンセントを行い、セカンドオピニオンを推奨し、</p>	4(4)⑥

		かつ実施できる体制を推進します。	
C8	医療と患者支援に関する情報提供	<p>県は、市町村、保健医療関係者、がん患者等関係者及び関係機関・団体等と連携し、県民に対し、がん医療及びがん患者支援に関する情報を提供するため、必要な施策を推進します。</p> <p>県は、がん診療（連携拠点）病院、がん診療連携支援病院の機能及び役割について県民に周知します。</p> <p>市町村は、県、保健医療関係者、がん患者等関係者及び関係機関・団体等と連携し、その管轄する地域の住民に対し、がん医療及びがん患者支援に関する情報を提供するため、必要な施策の推進に努めます。</p> <p>市町村は、住民へのがん医療及びがん患者支援に関する情報提供に努めます。</p> <p>保健医療関係者は、県、市町村、がん患者等関係者及び関係機関・団体等と連携し、がん患者やその家族に対し、がん医療及びがん患者支援に関する情報の提供に努めます。</p>	<p>4(4)⑥</p> <p>4(4)⑥</p> <p>4(4)⑥</p> <p>4(4)⑥</p> <p>4(4)⑥</p>
C9	相談員の配置と相談技術の質の向上	がん診療（連携拠点）病院、がん診療連携支援病院、がん診療を行っている専門医療機関等は、医療ソーシャルワーカー等必要な相談員の配置と相談技術の質の向上に努めます。	4(4)⑥

† 沖縄県. 目次 III対策. 沖縄県がん対策推進計画（第2次）. 平成25年4月

- \*1 都道府県がん診療連携拠点病院：琉球大学医学部附属病院  
地域がん診療連携拠点病院：那覇市立病院、沖縄県立中部病院  
地域がん診療病院：沖縄県立宮古病院

- \*2 がん診療連携支援病院：北部地区医師会病院、沖縄県立八重山病院

9. がん医療 ⑥がん患者の就労を含めた社会的な問題

分野アウトカム・中間アウトカム・個別施策の一覧

番号	略称	内容	備考
A1	がんでも安心して暮らせる社会	がんになっても安心して暮らせる社会が構築されている。	
B1	がん患者等の経済負担の軽減	がん患者とその家族等の経済負担が軽減されている。	
B2	仕事と治療の両立の支援	がん患者・経験者とその家族等の仕事と治療の両立をする力が高まるように、支援が行われている。	
B3	がんとうがん患者への理解	国・地方公共団体、関係者および県民等が、がんやがん患者・経験者への理解を深めている。	
C1	就労や生活の相談支援体制の整備	<p>就労や生活に関する相談支援体制を整備する。</p> <p>《第2次計画では次のとおり記述》</p> <p>県は、県、市町村、保健医療関係者、事業者等及び関係機関・団体等が連携し、がん検診受診の働きかけや雇用相談窓口等における生活支援を含めた就労サポート体制づくりに取組みます。</p> <p>県は、がん診療（連携拠点）病院*1、がん診療連携支援病院*2、がん診療を行っている専門医療機関等の相談支援センターの就労面のサポート体制を推進します。</p> <p>市町村は、市町村、県、保健医療関係者、事業者及び関係機関・団体等が連携し、がん検診受診の働きかけや雇用相談窓口等における生活支援を含めた就労サポート体制づくりに努めます。</p> <p>がん診療（連携拠点）病院、がん診療連携支援病院、がん診療を行っている専門医療機関等は、相談支援センター等でがん患者等関係者の就労面のサポートに関する支援体制の推進に努めます。</p> <p>関係機関・団体等は、関係機関・団体等、県、市町村、保健医療関係者及び事業者等と連携し、がん検診受診の働きかけや雇用相談窓口等における生活支援を含めた就労サポート体制づくりに努めます。</p>	<p>4(7) +</p> <p>4(7)</p> <p>4(7)</p> <p>4(7)</p> <p>4(7)</p>
C2	がん患者・経験者のための雇用の創出	がん患者・経験者のための雇用の創出する（がん検診のコールリコールセンターの創設など）。	
C3	労働局との連携に	県は、がん患者及びその家族ががんに関する情報を	4(7)

	よる情報提供	得る事ができるよう、労働局等との連携により、相談窓口への情報提供を推進します。	
C4	事業者による従業員の療養環境の整備	事業者は、従業員ががんに罹患した場合において、当該従業員が安心して治療し、又は療養することができる環境の整備に努めます。 事業者は、従業員の家族ががんに罹患した場合において、当該従業員が安心して当該家族を看護することができる環境の整備に努めます。	4(7) 4(7)
C5	偏見をなくすための教育やイベント	がんやがん患者・経験者への理解を深めるための教育やイベント等を開催し、偏見のない社会を目指す。	
C6	健康増進のための環境整備	事業者は、従業員ががんの予防のため、健康な生活習慣の重要性を知り、健康の増進に努めることができる環境の整備に努めます。 事業者は、従業員ががん検診を容易に受診することができる環境の整備に努めます。	4(7) 4(7)

† 沖縄県. 目次 III対策. 沖縄県がん対策推進計画(第2次). 平成25年4月

\*1 都道府県がん診療連携拠点病院：琉球大学医学部附属病院  
地域がん診療連携拠点病院：那覇市立病院、沖縄県立中部病院  
地域がん診療病院：沖縄県立宮古病院

\*2 がん診療連携支援病院：北部地区医師会病院、沖縄県立八重山病院

10. 基盤的分野 ①モニタリング体制の充実（「がん登録」を含む）

分野アウトカム・中間アウトカム・個別施策の一覧

番号	略称	内容	備考
A1	PDCA に必要な指標の整備と活用	がん対策のPDCA（計画・実行・評価・改善）サイクルの管理と総合的推進のために必要なストラクチャー（構造）指標、プロセス（過程）指標、アウトカム（成果）指標がそろっている。また、これらが県民（患者関係者を含む）・医療者・行政の役に立っている。	
B1	必要なデータの収集	県民（患者関係者を含む）・医療者・行政にとって、必要なデータが収集されている。	
B2	データの適切な分析	県民（患者関係者を含む）・医療者・行政に資するために、データが適切に分析されている。	
B3	分析されたデータの公表	県民（患者関係者を含む）・医療者・行政に資するために、分析されたデータが公表されている。	
C1	データベースの構築	がん対策の企画と評価に必要なデータベースを構築する。  《第2次計画では次のとおり記述》 県は、専門的及び標準的ながん診療を行う医療機関へ地域がん登録の周知と協力依頼を行い、地域がん登録へ協力を行う医療機関の増加を図り、がん対策の計画に必要な正確な基礎データの把握を行っていきます。 がん診療を行う医療機関において地域がん登録へ協力を行う医療機関の増加	4(5) <sup>+</sup>  4(5)
C2	がん登録実務者の育成・支援	県は、がん登録実務者の育成・支援を行いがん登録制度の向上を図ります。	4(5)
C3	既存資料の分析のための体制整備	既存資料（人口動態統計、沖縄県がん登録資料、県独自調査等）の分析のための体制を整備する。	
C4	既存資料の公表のための体制整備	既存資料（人口動態統計、沖縄県がん登録資料、県独自調査等）の公表のための体制を整備する。  《第2次計画では次のとおり記述》 県は、地域がん登録事業でまとめたデータを報告書に作成しホームページ等で公開していきます。また、がん登録から罹患集計までの期間短縮に努めま	4(5)

		す。	
--	--	----	--

† 沖縄県. 目次 III対策. 沖縄県がん対策推進計画 (第2次). 平成25年4月



1 1. 基盤的分野 ②がんの教育・普及啓発

分野アウトカム・中間アウトカム・個別施策の一覧

番号	略称	内容	備考
A1	がんの正しい知識で適切な行動	県民ががんに関する正しい知識を持ち、適切な判断、行動することができる。	
A2	がん医療の正しい知識で適切な行動	県民ががん医療に関する正しい知識を持ち、安心して安全な質の高い医療を受けるために、適切な判断、行動することができる。	
A3	早期発見の正しい知識で適切な行動	県民ががんの早期発見・早期治療に関する正しい知識を持ち、適切な判断、行動することができる。	
A4	がん予防の正しい知識で適切な行動	県民ががんの予防に関する正しい知識を持ち、適切な判断、行動することができる。	
B1	児童・生徒ががんの知識を持っている	児童・生徒が、がんの理解及び予防につながる知識を持っている。	
B2	県民ががんの情報を見ている	県民ががんの正しい情報を見ている。	
C1	児童・生徒へのがんの知識の普及啓発	県は、県教育委員会等と連携し、児童・生徒に対するがんの理解及び予防につながる知識の普及啓発を推進します。	4(3) †
C2	4分野に関する正しい知識の普及啓発	<p>「がん」「がん医療」「がんの早期発見・早期治療」「がんの予防」に関する正しい知識を、県民に対して普及啓発する。</p> <p>《第2次計画では次のとおり記述》</p> <p>県は、がんの発症と関係している喫煙、食生活、飲酒、運動その他の生活習慣や生活環境について、正しい知識や情報を県民へより積極的に提供します。国立がん研究センターが科学的な根拠に基づき行動指針として作成した「がん予防指針（8か条）」の実践普及を推進します。</p>	4(3)

† 沖縄県. 目次 III対策. 沖縄県がん対策推進計画（第2次）. 平成25年4月

## 1 2. 基盤的分野 ③がん研究

### 分野アウトカム・中間アウトカム・個別施策の一覧

番号	略称	内容	備考
A1	成果の政策活用と 県民への情報提供	研究成果が沖縄県の政策に活かされている。また、 県民目線で情報提供され、県民に情報が行き渡る。	
B1	社会医学研究等の 推進	社会医学研究や臨床研究等を推進することにより、 沖縄県の特長、疾病及び医療の現状等が明らかになるなど、 がん対策の基礎資料が整備されている。	
C1	行政と研究機関の 連携体制の強化	行政と研究機関等が、定期的に会議等で施策や研究 の現状や課題を共有し、議論することで、関係諸機 関の連携体制を強化する。	
C2	臨床研究と治験の 推進	医療機関における臨床研究と治験を推進する。	

### 1 3. がん種別がん対策 ①大腸がん

#### 分野アウトカム・中間アウトカム・個別施策の一覧

番号	略称	内容	備考
A1	大腸がんの死亡の減少	大腸がんの死亡率が減少する。	
B1	大腸がんの早期発見	大腸がんを早期発見する。	
B2	安心・安全な質の高い医療	住んでいる地域にかかわらず、すべての大腸がん患者が、安心して安全な質の高い医療を受けられている。	
C1	効果的ながん検診の実施	科学的根拠に基づいた効果的ながん検診を行う。	
C2	検診の質の管理と精度向上	精度管理体制（精検受診率、がん検診の偽陰性率等の把握と公表）を確立し、精度を向上させる。	
C3	重点対象の検診受診率の増加	対象の重点化戦略が実施され、対象の検診受診率を増加させる。	
C4	専門的医療従事者の育成と配置	がん医療に携わる専門的な医療従事者を育成し配置する。	
C5	専門施設への集約と連携体制の充実	患者のための専門施設への集約や、医療機関の連携体制を充実する。	

#### 1 4. がん種別がん対策 ②肺がん

##### 分野アウトカム・中間アウトカム・個別施策の一覧

番号	略称	内容	備考
A1	肺がんの死亡の減少	肺がんの死亡率が減少する。	
B1	肺がんの予防	肺がんを予防する。	
B2	肺がんの早期発見	肺がんを早期発見する。	
B3	安心・安全な質の高い医療	住んでいる地域にかかわらず、すべての肺がん患者が、安心して安全な質の高い医療を受けられている。	
C1	喫煙率の減少	喫煙率の減少を加速させる。	
C2	効果的ながん検診の実施	科学的根拠に基づいた効果的ながん検診を行う。	
C3	検診の質の管理と精度向上	精度管理体制（精検受診率、がん検診の偽陰性率等の把握と公表）を確立し、精度を向上させる。	
C4	重点対象の検診受診率の増加	対象の重点化戦略が実施され、対象の検診受診率を増加させる。	
C5	専門的医療従事者の育成と配置	がん医療に携わる専門的な医療従事者を育成し配置する。	
C6	専門施設への集約と連携体制の充実	患者のための専門施設への集約や、医療機関の連携体制を充実する。	

15. がん種別がん対策 ③乳がん

分野アウトカム・中間アウトカム・個別施策の一覧

番号	略称	内容	備考
A1	乳がんの死亡の減少	乳がんの死亡率が減少する。	
B1	乳がんの早期発見	乳がんを早期発見する。	
B2	安心・安全な質の高い医療	住んでいる地域にかかわらず、すべての乳がん患者が、安心して安全な質の高い医療を受けられている。	
C1	効果的ながん検診の実施	科学的根拠に基づいた効果的ながん検診を行う。	
C2	検診の質の管理と精度向上	精度管理体制（精検受診率、がん検診の偽陰性率等の把握と公表）を確立し、精度を向上させる。	
C3	重点対象の検診受診率の増加	対象の重点化戦略が実施され、対象の検診受診率を増加させる。	
C4	専門的医療従事者の育成と配置	がん医療に携わる専門的な医療従事者を育成し配置する。	
C5	専門施設への集約と連携体制の充実	患者のための専門施設への集約や、医療機関の連携体制を充実する。	

## 16. がん種別がん対策 ④子宮がん

### 分野アウトカム・中間アウトカム・個別施策の一覧

番号	略称	内容	備考
A1	子宮がんの死亡の減少	子宮がんの死亡率が減少する。	
B1	子宮頸がんの早期発見	子宮頸がんを早期発見する。	
B2	安心・安全な質の高い医療	住んでいる地域にかかわらず、すべての子宮がん患者が、安心して安全な質の高い医療を受けられている。	
C1	効果的ながん検診の実施	科学的根拠に基づいた効果的ながん検診を行う。	
C2	検診の質の管理と精度向上	精度管理体制（精検受診率、がん検診の偽陰性率等の把握と公表）を確立し、精度を向上させる。	
C3	重点対象の検診受診率の増加	対象の重点化戦略が実施され、対象の検診受診率を増加させる。	
C4	専門的医療従事者の育成と配置	がん医療に携わる専門的な医療従事者を育成し配置する。	
C5	専門施設への集約と連携体制の充実	患者のための専門施設への集約や、医療機関の連携体制を充実する。	

17. がん種別がん対策 ⑤比較的少ないがん

分野アウトカム・中間アウトカム・個別施策の一覧

番号	略称	内容	備考
A1	安心・安全な質の高い医療	住んでいる地域にかかわらず、すべての比較的少ないがんの患者が、安心して安全な質の高い医療を受けられている。	
B1	中期ビジョンの策定と実施	比較的少ないがんの医療の中期（5年）ビジョンが策定され、そのビジョンの実現に向けて組織的に活動している。	
B2	相談窓口による適切な情報提供	比較的少ないがんの相談窓口（患者、医療者向け）で適切な情報提供がなされ、比較的少ないがんの患者が、安心して安全な質の高い医療を受けられている。	
C1	ビジョンの策定と評価体制の構築	比較的少ないがんの医療の中期ビジョンを策定する組織を設置し、ビジョンの策定や評価をするための体制を構築する。	
C2	情報提供と相談支援体制の整備	比較的少ないがんの情報提供及び相談支援体制を整備する。	

18. 小児（15歳未満）・AYA世代（15～29歳）のがん

分野アウトカム・中間アウトカム・個別施策の一覧

番号	略称	内容	備考
A1	安心・安全な質の高い医療	住んでいる地域にかかわらず、すべての小児およびAYA世代のがん患者が、安心して安全な質の高い医療を受けられている。	
B1	中期ビジョンの策定と実施	小児およびAYA世代のがん医療の中期（5年）ビジョンが策定され、そのビジョンの実現に向けて組織的に活動している。	
B2	長期フォローアップの整備	長期フォローアップを含む、小児およびAYA世代のがん患者の医療体制が整備されている。	
B3	相談窓口による適切な情報提供	小児およびAYA世代のがんの相談窓口（患者、医療者向け）で適切な情報提供がなされ、小児およびAYA世代のがん患者が、安心して安全な質の高い医療を受けられている。	
C1	ビジョンの策定と評価体制の構築	小児およびAYA世代のがん医療の中期ビジョンを策定する組織を設置し、ビジョンの策定や評価をするための体制を構築する。	
C2	患者家族の実態把握	県は、患者家族の実態把握（患者家族、がんのこどもを守る会沖縄県支部との意見交換会等）に努めます。	4(4)⑤ <sup>+</sup>
C3	長期フォローアップの推進	沖縄県立南部医療センターと沖縄県立こども医療センターとの連携を強化し、長期フォローアップを推進する。  ≪第2次計画では次のとおり記述≫ 県は、がん診療（連携拠点）病院*1、がん診療連携支援病院*2、がん診療を行っている専門医療機関等と国が指定する小児がん拠点病院との連携を推進します。 がん診療（連携拠点）病院、がん診療連携支援病院、がん診療を行っている専門医療機関等は国が指定する小児がん拠点病院との連携の推進に努めます。	4(4)⑤  4(4)⑤
C4	教育環境の充実	県は、小児がん患者への教育環境の充実を図ります。	4(4)⑤
C5	情報提供と相談支援体制の整備	小児・AYA世代のがんの情報提供及び相談支援体制を整備する。  ≪第2次計画では次のとおり記述≫ 県は、治療や医療機関に関する情報収集を実施しま	4(4)⑤



		<p>す。</p> <p>県は、心理的社会的問題への対応を含めた相談支援体制の充実を図ります。</p> <p>がん診療（連携拠点）病院、がん診療連携支援病院等の相談支援センターでは、小児がん患者やその家族の不安、悩みの軽減のための相談支援を実施できる体制の構築に努めます。</p>	<p>4(4)⑤</p> <p>4(4)⑤</p>
--	--	--	---------------------------

† 沖縄県. 目次 III対策. 沖縄県がん対策推進計画（第2次）. 平成25年4月

- \*1 都道府県がん診療連携拠点病院：琉球大学医学部附属病院  
地域がん診療連携拠点病院：那覇市立病院、沖縄県立中部病院  
地域がん診療病院：沖縄県立宮古病院

- \*2 がん診療連携支援病院：北部地区医師会病院、沖縄県立八重山病院

(案)

## 指標リストーがん対策の総合的推進

	略称	内容	数値など	目標
A1	がん計画の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん計画の達成状況</li> <li>－第2次計画の中間評価（2015年）<sup>*1</sup></li> <li>・75歳未満がん年齢調整死亡率（人口10万対）（2013年）</li> </ul>	男 97.0 （10.9%減） <sup>*2</sup> 女 59.1 （5.3%減）	
B1	連携した取り組み	関係機関・団体が連携した取り組み状況		
B2	がん対策予算	がん対策予算 <sup>*3</sup> －平成25年度 平成26年度	190,911 千円 147,672 千円	
C1	がん計画の審議内容	がん計画の審議内容 －平成25年度 平成26年度		
	-	県がん対策推進協議会の開催数 －平成25年度 平成26年度		
C2	県への提案数	県がん診療連携協議会の県への提案数 －平成25年度 平成26年度	0 件 3 件	
	-	県がん診療連携協議会の開催数 <sup>*4</sup> －平成25年度 平成26年度	4 回 4 回	
C3	分掌分野の達成状況	専門部会の分掌分野の達成状況 －第2次計画の中間評価（2015年） <sup>*1</sup>	-	
	-	専門部会の開催数 <sup>*4</sup> －平成25年度 平成26年度	26 回 28 回	
C4	タウンミーティング開催数	県のがん対策に関するタウンミーティング開催数 －平成25年度 平成26年度	2 回 0 回	

<sup>\*1</sup> 沖縄県. 沖縄県がん対策推進計画（第2次）中間評価報告書. 平成28年3月

\*2 計画策定時（男 108.9、女 62.4 , 2005 年）との比較

\*3

\*4

指標リストーがんの予防

	略称	内容	数値など	目標
A1	死亡率	年齢調整死亡率（人口 10 万対）（2013年、()内は 2010 年） <sup>*1</sup> ー全部位 ー口唇、口腔・咽頭（喫煙関連がん） ー食道（喫煙関連がん、飲酒関連がん） ー胃（喫煙関連がん） ー肝（喫煙関連がん、感染に起因するがん、飲酒関連がん） ー膵臓（喫煙関連がん） ー喉頭（喫煙関連がん） ー肺（喫煙関連がん） ー子宮（喫煙関連がん） ー膀胱（喫煙関連がん） ー白血病（感染に起因するがん） ー乳房（女）（飲酒関連がん）	119.3 (119.3) 3.0 (3.2) 3.2 (3.8) 9.2 (8.6) 7.2 (8.7) 8.3 (7.0) 0.3 (0.3) 23.4 (23.5) 7.3 (7.6) 1.8 (1.4) 6.7 (6.3) 12.1(13.5)	
	-	年齢調整死亡率年平均変化率 ー全部位 ー口唇、口腔・咽頭 ー食道 ー胃 ー肝 ー膵臓 ー喉頭 ー肺 ー子宮	男 -1.3 <sup>+</sup> 女 -0.6 <sup>+</sup> 男 -0.5 女 0.88 男 -3.6 <sup>+</sup> 女 -0.2 男 -3.4 <sup>+</sup> 女 -2.8 <sup>+</sup> 男 -0.8 <sup>+</sup> 女 -1.9 <sup>+</sup> 男 1.3 <sup>+</sup> 女 2.3 <sup>+</sup> 男 -5.2 <sup>+</sup> 女 - 男 -2.4 <sup>+</sup> 女 -2.4 <sup>+</sup> 0.3	

	略称	内容	数值など	目標
A1	-	年齢調整死亡率年平均変化率 －膀胱  －白血病  －乳房（女）	男 -0.6 女 1.2 男 -2.5 <sup>+</sup> 女 -1.7 <sup>+</sup> 2.2 <sup>+</sup>	
	-	医療圏別超過死亡数 －全部位 ○○医療圏 △△医療圏	人 人	
	-	市町村別超過死亡数 －全部位 ○○市 △△町	人 人	
	罹患率	年齢調整罹患率（人口 10 万対）（2011年、()内は 2007 年） <sup>*2</sup> －全部位 －口腔・咽頭 －食道 －胃 －肝 －膵臓 －喉頭 －肺 －子宮頸 －膀胱 －腎・尿路 －白血病 －乳房（女）	320.2 (271.1) 9.5 (9.7) 5.6 (6.7) 27.2 (19.1) 13.7 (10.2) 10.3 (8.6) 1.6 (1.5) 33.5 (43.5) 16.8 (16.3) 4.5 (3.6) 9.4 (7.5) 10.3 (10.5) 87.0 (77.2)	
-	年齢調整罹患率平均変化率 －全部位 －口腔・咽頭 －食道 －胃 －肝 －膵臓 －喉頭			

	略称	内容	数値など	目標
A1	-	年齢調整罹患率平均変化率 ー肺 ー子宮頸 ー膀胱 ー腎・尿路 ー白血病 ー乳房（女）		
	-	医療圏別超過罹患数 ー全部位 ○○医療圏 △△医療圏	人 人	
	-	市町村別超過罹患数 ー全部位 ○○市 △△町	人 人	
B1	成人喫煙率	成人喫煙率（2013年、()内は2010年） *3	男 32.0% (32.2) 女 9.5% (9.3)	20.0% 5.0%
	-	妊娠中の喫煙率（()内は計画策定時）	[ ]% (4.6%)	0%
	-	未成年者の喫煙率（()内は2011年）	男[ ]% (1.8%) 女[ ]% (2.0%)	} 0%
	-	県民一人あたりの年間タバコ消費本数 （()内は計画策定時）	[ ]本(1657本)	減少
B2	肝炎ウイルス感染率	B型・C型肝炎ウイルス感染率	今回は 測定困難	
	HTLV-1感染率	ヒトT細胞白血病ウイルス1型感染率	今回は 測定困難	
B3	多量飲酒者の割合	多量飲酒者の割合*4		
C1	飲食店の禁煙化率	県内飲食店の終日全面禁煙状況		
	-	公立学校における敷地内全面禁煙実施率（()内は計画策定時）	[ ]% (97.4%)	100%
	-	官公庁の建物内／敷地内禁煙状況		

	略称	内容	数値など	目標
C1	-	県内医療機関の建物内／敷地内禁煙状況		
	-	沖縄県禁煙施設認定推進制度における認定施設数（()内は2012年11月現在）	[ ]施設 (898施設)	増加
C2	禁煙外来受診割合	喫煙者の禁煙外来受診割合	今回は 測定困難	
C3	禁煙希望割合	喫煙者のうち禁煙しようと思う人（()内は2011年）	男[ ]% (74.4%) 女[ ]% (81.7%)	増加
C3	-	喫煙の健康影響について正しい知識を持つ人の割合（()内は2011年） 一肺がん  一喘息  一心臓病  一脳卒中  一胃潰瘍  一妊娠関連の異常	男[ ]% (87.0%) 女[ ]% (91.2%) 男[ ]% (75.0%) 女[ ]% (79.6%) 男[ ]% (67.9%) 女[ ]% (68.6%) 男[ ]% (65.3%) 女[ ]% (63.8%) 男[ ]% (42.2%) 女[ ]% (45.7%) 男[ ]% (75.5%) 女[ ]% (87.0%)	増加

	略称	内容	数値など	目標
C3	-	喫煙の健康影響について正しい知識を持つ人の割合（()内は2011年） 一歯周病	男[ ]% (48.3%) 女[ ]% (52.1%)	増加
	-	喫煙の健康影響を周知する市町村（()内は計画策定時）	[ ]市町村 (41市町村)	
C4				
C5	肝炎治療完遂率	肝炎ウイルス治療完遂率	今回は 測定困難	
		<代用>ウイルス性肝炎治療の医療費助成件数		
	-	精検受診率		
C6	HTLV-1 情報提供実施数	妊婦教室等で HTLV-1 の情報提供をしている市町村数		
	-	HTLV-1 は白血病を引き起こす可能性があることを知っている人の割合	今回は 測定困難	
	-	HTLV-1 は授乳で感染することを知っている人の割合	今回は 測定困難	
C7	肝炎ウイルス検査数	肝炎ウイルス検査数（B型・C型）（()内は2011年）	B型[ ]件 C型[ ]件 (742件)	1000件
	-	肝炎ウイルス検診累積受診率	今回は 測定困難	
C8				
C9	肝炎治療の医療費助成件数	ウイルス性肝炎治療の医療費助成件数		
C10				
C11	節度ある飲酒量の認知割合	「節度ある適度な飲酒量」を知っている人の割合（()内は2011年）	男[ ]% (31.0%) 女[ ]% (22.9%)	100%



	略称	内容	数値など	目標
C12	肥満者の割合	肥満者の割合（男 20～60 歳代、女 40～60 歳代）（()内は 2011 年）	男[ ]% (46.3%) 女[ ]% (37.5%)	} 25.0%
	-	野菜摂取量（成人 1 日あたり）（()内は 2011 年）	[ ]g (282.6g)	
	-	果物接種量（成人 1 日あたり）（()内は 2011 年）	[ ]g (63.2g)	130g
C13				

†P 値<0.05

\*1 国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター  
[http://gdb.ganjoho.jp/graph\\_db/index](http://gdb.ganjoho.jp/graph_db/index)

\*2 沖縄県福祉保健部健康増進課、沖縄県環境生活部衛生環境研究所、平成 22 年度沖縄県がん登録事業報告（平成 19 年の罹患集計）、平成 23 年 9 月  
 沖縄県保健医療部、平成 27 年度沖縄県がん登録事業報告（平成 23 年（2011 年）の罹患集計）、平成 27 年 7 月

\*3 国民生活基礎調査(2010 年)、国民生活基礎調査(2013 年)

\*4 1 日に平均純アルコールで約 60g を超え多量に飲酒する人の割合

指標リストーがんの早期発見

	略称	内容	数値など	目標
A1	死亡率	年齢調整死亡率(人口 10 万対)(2013 年、 ( )内は 2010 年) *1 ー胃 ー大腸 ー肺 ー乳房(女) ー子宮頸	9.2 (8.6) 18.4 (17.8) 23.4 (23.5) 12.1 (13.5) 7.3 (7.6)	
	-	がん年齢調整死亡率年平均変化率 ー胃 ー大腸 ー肺 ー乳房(女) ー子宮頸	男 女 男 0.7 女 0.4 男 女	
	-	医療圏別超過死亡数 ー〇〇医療圏 ●● ー△△医療圏 ●●	人 人	
	-	市町村別超過死亡数 ー〇〇市 ●● ー△△町 ●●	人 人	
	-	早期診断割合(上皮内がん+限局割合、 2011 年、( )内は 2007 年) *2 ー胃 ー大腸 ー肺	55.4% (49.1) 【最良県*3 : 59.1%】 57.7% (47.7) 【最良県 : 60.6%】 26.8% (30.2) 【最良県 : 36.6%】	

	略称	内容	数値など	目標
A1		ー乳房（女）  ー子宮頸	70.3% (67.1) 【最良県： 64.0%】 81.2% (67.9) 【最良県： 78.2%】	
B1	救命あたり検診費用	がん救命あたりの検診費用	今回は測定困難	
	-	「有効性が確認・推奨されていない検診」 実施の市町村数、割合 ー超音波検査/視触診単独の乳がん検診  ー前立腺がん検診  ー肝臓がん検診  ー卵巣がん検診  ー甲状腺がん検診  ー口腔がん検診	[ ]市町村、 [ ]%  [ ]市町村、 [ ]%  [ ]市町村、 [ ]%  [ ]市町村、 [ ]%  [ ]市町村、 [ ]%	0市町村
B2	総合精度と質の把握	がん検診の偽陰性率（感度）、偽陽性率（特異度）の把握市町村数・割合、検診機関数・割合	0市町村、0% 0検診機関、0%	
	-	がん検診率数のグレード別人数	今回は測定困難	
	精検受診率	精検受診率（2012年度、()内は2009年実施分） <sup>*4</sup> ー胃 ー大腸 ー肺 ー乳房 ー子宮頸	[ ]% (65.3) [ ]% (56.4) [ ]% (47.8) [ ]% (74.9) [ ]% (60.0)	100%

	略称	内容	数値など	目標
B2	-	精検受診率の目標値 90%以上*5 を達成している市町村数、割合 ー胃 ー大腸 ー肺 ー乳房 ー子宮頸	[ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村 [ ]% [ ]市町村 [ ]% [ ]市町村 [ ]% [ ]市町村 [ ]%	
	-	未把握率の目標値 5%以下*5 を達成している市町村数、割合 ー胃 ー大腸 ー肺 ー乳房 ー子宮頸	[ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村、 [ ]%	
	-	精検未受診率の目標値 5%以下*5 を達成している市町村数、割合 ー胃 ー大腸 ー肺 ー乳房 ー子宮頸	[ ]市町村 [ ]% [ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村、 [ ]%	

	略称	内容	数値など	目標
B2	-	精検未受診・未把握率の目標値 10%以下 <sup>*5</sup> を達成している市町村数、割合 ー胃 ー大腸 ー肺 ー乳房 ー子宮頸	[ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村、 [ ]%	
	-	要精検率の許容値 <sup>*5</sup> を達成している市町村数、割合 ー胃 ー大腸 ー肺 ー乳房 ー子宮頸	[ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村、 [ ]%	
	-	がん発見率の許容値 <sup>*5</sup> を達成している市町村数、割合 ー胃 ー大腸 ー肺 ー乳房 ー子宮頸	[ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村、 [ ]%	

	略称	内容	数値など	目標
B2	-	陽性反応適中度の許容値 <sup>*5</sup> を達成している市町村数、割合 ー胃 ー大腸 ー肺 ー乳房 ー子宮頸	[ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村、 [ ]%	
B3	検診受診率	検診受診率（子宮頸は 20-69 歳、他は 40-69 歳の受診率）（2013 年、()内は 2010 年） <sup>*6</sup> ー胃 ー大腸 ー肺 ー乳房 ー子宮頸	男 43.2% (32.7) 女 37.4% (28.7) 男 35.2% (24.0) 女 31.5% (22.7) 男 42.9% (23.6) 女 38.9% (25.1) 50.4% (44.9) 47.1% (41.8)	40% 50%
	-	コールリコール対象者におけるがん発生数と救命数	今回は 測定困難	
C1	未推奨検診の実施数、割合	「有効性が確認・推奨されていない検診」実施の市町村数、割合 ー超音波検査/視触診単独の乳がん検診 ー前立腺がん検診	[ ]市町村、 [ ]% [ ]市町村、 [ ]%	0 市町村

	略称	内容	数値など	目標	
C1	未推奨検診の実施数、割合	「有効性が確認・推奨されていない検診」実施の市町村数、割合 －肝臓がん検診  －卵巣がん検診  －甲状腺がん検診  －口腔がん検診	[ ]市町村、 [ ]%  [ ]市町村、 [ ]%  [ ]市町村、 [ ]%  [ ]市町村、 [ ]%	0 市町村	
	-	「胃×線検査」実施の市町村数、割合	[ ]市町村、 [ ]%		41 市町村
	-	「大腸便潜血検査」実施の市町村数、割合	[ ]市町村、 [ ]%		41 市町村
	-	「非喫煙者に対する胸部×線検査」実施の市町村数、割合	[ ]市町村、 [ ]%		41 市町村
	-	「ヘビースモーカーに対する胸部×線検査+喀痰細胞診」実施の市町村数、割合	[ ]市町村、 [ ]%		41 市町村
	-	「乳房マンモグラフィ検査」実施の市町村数、割合	[ ]市町村、 [ ]%		41 市町村
	-	「子宮頸部擦過細胞診」実施の市町村数、割合	[ ]市町村、 [ ]%		41 市町村
C2	精度管理指標の公開数、割合	精度管理の実態や指標を定期的に評価・公開している、市町村数・割合、検診実施団体数・割合	0市町村、0% 0検診機関、0%		
	-	国の示す「市町村事業におけるがん検診の事業評価の手法について」に基づいた、事業評価をしている市町村数・割合（()内は2010年10月現在）	[ ]市町村、 [ ]%  (13市町村、31.7%)	増加	
C3	がん登録利用率	沖縄県がん登録資料を活用した精度管理を実施している市町村数・割合、検診機関数・割合	0市町村、0% 0検診機関、0%		
C4	コールリコール実施数、割合	コールリコール実施市町村数、割合	[ ]市町村、 [ ]%		
C5					

	略称	内容	数値など	目標
C6				
C7				

\*1 国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター

[http://gdb.ganjoho.jp/graph\\_db/index](http://gdb.ganjoho.jp/graph_db/index)

\*2 沖縄県福祉保健部健康増進課、沖縄県環境生活部衛生環境研究所、平成 22 年度沖縄県がん登録事業報告（平成 19 年の罹患集計）、平成 23 年 9 月

沖縄県保健医療部、平成 27 年度沖縄県がん登録事業報告（平成 23 年（2011 年）の罹患集計）、平成 27 年 7 月

\*3 「既存統計資料に基づくがん対策進捗の評価手法に関する実証的研究」平成 23 年度報告書、

2012、進行度分布最良県は、胃と肺では新潟、大腸と子宮頸では長崎、乳房では宮城（罹患率は 2004 年 - 2006 年）

\*4 平成 25 年度地域保健・健康増進事業報告（健康増進編）

\*5 今後の我が国におけるがん検診事業評価の在り方について（報告書）、平成 20 年 3 月

\*6 平成 22 年国民生活基礎調査（健康票）、平成 25 年国民生活基礎調査（健康票）



指標リストーがん医療 ①放射線療法、化学療法、手術療法の充実とチーム医療の推進

	略称	内容	数値など	目標
A1	5年生存率	5年相対生存率（2007-2008年診断） <sup>*1</sup> ー全部位 ー胃 ー大腸 ー肝 ー肺 ー乳房	60.2% 58.9% 64.8% 25.3% 30.0% 91.9%	
	-	がん診療（連携拠点）病院 <sup>*2</sup> 及びがん診療連携支援病院 <sup>*3</sup> 、専門医療機関の主治療カバー率（2011年） <sup>*1、4</sup> ー全部位 ー胃 ー大腸 ー肝 ー肺 ー乳房	[ ]% [ ]% [ ]% [ ]% [ ]% [ ]%	
	受けた医療の評価	自分の受けた医療を100点満点中で評価するなら、100点満点中何点（問6） <sup>*5</sup>		
B1	中期ビジョンの進捗結果	中期（5年）ビジョンの進捗結果	アクションプランは未作成	
B2	標準治療実施率	標準的治療実施率（2012年、沖縄県、7施設） <sup>*6</sup> ー大腸がん術後化学療法実施率 ー胃がん術後化学療法実施率 ー早期肺がん外科・定位放射実施率 ー肺がん術後化学療法実施率 ー乳房温存術後全乳房照射実施率 ー乳切後放射線療法実施率 ー肝切前 ICG 15 実施率 ー高リスク催吐化学療法制吐剤処方率 ー外来麻薬鎮痛開始時緩下剤	38.7% 71.4% 今回は測定困難 42.1% 34.5% 今回は測定困難 89.3% 今回は測定困難 今回は測定困難	

	略称	内容	数値など	目標
B2	がん診療（連携拠点）病院における、 キャンサーボード開催数、 症例割合	がん診療（連携拠点）病院における、 キャンサーボードの開催数、新規治療開始 患者のうち検討症例の割合（平成 26 年 6 月 1 日～7 月 31 日） <sup>*7</sup> －琉球大学医学部附属病院  －那覇市立病院  －沖縄県立中部病院  －沖縄県立宮古病院	2 回、全がん 25%未満実施 8 回、乳がん 全例実施、消 化器がん 25%未満実施 9 回、胃・大 腸・肝胆膵が ん 75%以上 100%未満実 施 -	
	チーム医療の 受療割合	「チーム医療（診断・治療に関わる医師、 看護師、他の医療スタッフが連携した医 療）を受けられた」と回答した患者の割 合（問 7） <sup>*5</sup>		
	医療スタッフ が医師に意見 できる割合	「がん患者のケアに関して、自分の意見 を医師に対して自由に言える」と回答し た医師以外の医療者の割合（問 27） <sup>*8</sup>		
	医療スタッフ に医師が耳を 傾ける割合	「他の医療スタッフの話に耳を傾けてい る」と回答した医師の割合（問 28） <sup>*8</sup>		
	-	「異職種間で自由に意見できる雰囲気 がある」と回答した医療者の割合（問 5） <sup>*8</sup>		
	-	「医師は必要な情報を医療スタッフと共 有している」と回答した医療者の割合（問 6） <sup>*8</sup>		
	-	「必要に応じて自分の職種以外の役割 を、補いつつ仕事をするようつとめてい る」と回答した医療者の割合（問 7） <sup>*8</sup>		
	-	治療方針（告知等）の説明の際に、医師 以外の職種も参加している割合（問 8） <sup>*8</sup>		

	略称	内容	数値など	目標
B3	紹介医療機関を支障なく受診できた割合	「何ら支障なく、紹介先の医療機関を受診できた」と回答した患者の割合（問 8） <sup>*5</sup>		
	医療機関連携に困難感ありの割合	「がん医療を行っていくうえで、他の医療機関との連携に困難感がある」と回答した医療者の割合（問 9） <sup>*8</sup>		
	-	「専門医療機関に対してがん患者を紹介したときに受け入れてもらえる」と回答した医療者の割合（問 10） <sup>*8</sup>		
	-	「他院へ患者を紹介した際にその後の経過について紹介先医療機関からの情報提供がある」と回答した医療者の割合（問 11） <sup>*8</sup>		
	-	「他院から患者が紹介されてきた際に、その後の診療を継続するのに患者にとって十分な情報が紹介元医療機関から提供されている」と回答した医療者の割合（問 12） <sup>*8</sup>		
	-	「より専門的な医療機関へがん患者を紹介するときに、どの医療機関に紹介するかを決めるための情報が足りない」と回答した医療者の割合（問 13） <sup>*8</sup>		
	-	「がん患者を定期的なフォローアップのために紹介するときに、どの医療機関に紹介するかを決めるための情報が足りない」と回答した医療者の割合（問 14） <sup>*8</sup>		
	-	都道府県がん診療連携拠点病院である琉球大学医学部附属病院は、がん診療連携拠点病院の指定要件に示された役割を十分に担っていると回答した医療者の割合（問 15 ①） <sup>*8</sup>		
	-	地域がん診療連携拠点病院である那覇市立病院は、がん診療連携拠点病院の指定要件に示された役割を十分に担っていると回答した医療者の割合（問 15 ②） <sup>*8</sup>		

	略称	内容	数値など	目標
B3	-	地域がん診療連携拠点病院である沖縄県立中部病院は、がん診療連携拠点病院の指定要件に示された役割を十分に担っていると回答した医療者の割合（問 15 ③） <sup>*8</sup>		
	-	地域がん診療病院である沖縄県立宮古病院は、がん診療病院の指定要件に示された役割を十分に担っていると回答した医療者の割合（問 15 ④） <sup>*8</sup>		
	-	北部地区医師会病院は、がん診療連携支援病院の役割を十分に担っていると回答した医療者の割合（問 15 ⑤） <sup>*8</sup>		
	-	沖縄県立八重山病院は、がん診療連携支援病院の役割を十分に担っていると回答した医療者の割合（問 15 ⑥） <sup>*8</sup>		
	-	都道府県がん診療連携拠点病院である琉球大学医学部附属病院は、県内のがん診療の連携体制の整備構築の役割を十分に担っていると回答した医療者の割合（問 15 ⑦） <sup>*8</sup>		
C1	中間ビジョン策定組織の設置	中間ビジョンを策定する組織の設置	未設置	
C2	レジメン審査率 100%の医療機関数	レジメン審査率 100%の医療機関数	0 施設	
	レジメン登録率 100%の医療機関数	レジメン登録率 100%の医療機関数	0 施設	
	-	NCD データの利用	未利用	
	-	NCD データを用いた手術件数の公開	未公開	
	-	全てのがんを対象とした、体外照射ののべ患者数（平成 25 年 1 月 1 日～12 月 31 日） <sup>*7</sup> — 琉球大学医学部附属病院 — 那覇市立病院 — 沖縄県立中部病院	617 人 247 人 377 人	

	略称	内容	数値など	目標
C2	-	全てのがんを対象とした、体外照射ののべ患者数（平成 25 年 1 月 1 日～12 月 31 日） <sup>*7</sup> － 沖縄県立宮古病院	0 人	
	-	放射線の実施率	今回は測定困難	
	-	強度変調放射線治療（IMRT）実施件数 <sup>*7</sup> － 琉球大学医学部附属病院 － 那覇市立病院 － 沖縄県立中部病院 － 沖縄県立宮古病院	1702 人 19 人 31 人 0 人	
	-	強度変調放射線治療（IMRT）実施率	今回は測定困難	
	-	医薬品の普及度	今回は測定困難	
	-	医療機器の普及度	今回は測定困難	
	-	外来化学療法ののべ患者数、のべ処方件数（内服のみのレジメンは対象外。2014 年 4 月 1 日～7 月 31 日） <sup>*7</sup> － 琉球大学医学部附属病院 － 那覇市立病院 － 沖縄県立中部病院 － 沖縄県立宮古病院	244 人、794 件 98 人、414 件 460 人、597 件 34 人、274 件	
	-	がん治療で生じた安全上の問題について事例を収集するシステムがあり、かつ、収集された事例を院内医療安全管理部門等で最低 2 ヶ月に 1 度検討の場を設けていると回答した、がん診療（連携拠点）病院数 <sup>*7</sup>	4 施設中 2 施設	
	-	手術・化学療法・放射線クリティカルパスに対し、1 年に 1 回以上バリエーション分析を行っているがん診療（連携拠点）病院数 <sup>*7</sup>	4 施設中 2 施設	
C3	多職種参加の IC 実施の医療機関数	がん患者に対するインフォームドコンセントの際、医師以外の職種が必ず参加することが原則となっているがん診療（連携拠点）病院数（平成 26 年 6 月 1 日～7 月 31 日） <sup>*7</sup>	4 施設中 1 施設	

	略称	内容	数値など	目標
C3	-	がん患者における、多職種参加のインフォームドコンセントを受けた患者の占める割合	今回は測定困難	
C4	がん種別診療実績の共有	がん種別診療実績の把握と共有	院内がん登録 2012年集計 報告書. 2015 年3月	
C5	リハ科の有無、年間件数	がん診療（連携拠点）病院における、がん患者リハビリテーション科の有無、年間件数（2013年1月1日～12月31日） <sup>*7</sup>  <ul style="list-style-type: none"> <li>－琉球大学医学部附属病院</li> <li>－那覇市立病院</li> <li>－沖縄県立中部病院</li> <li>－沖縄県立宮古病院</li> </ul>	あり、0件 あり、2358件 なし、0件 なし、-	
	-	リハビリテーションが必要な患者で、リハビリテーション科を受診した患者の占める割合	今回は測定困難	
	-	がん診療（連携拠点）病院における、がん患者リハビリテーション科以外のリハビリテーションががん患者に対して提供された件数（2014年4月1日～7月31日） <sup>*7</sup>  <ul style="list-style-type: none"> <li>－琉球大学医学部附属病院</li> <li>－那覇市立病院</li> <li>－沖縄県立中部病院</li> <li>－沖縄県立宮古病院</li> </ul>	1219件 944件 272件 0件	
	-	リハビリテーションが必要な患者で、リハビリテーション科以外を受診した患者の占める割合	今回は測定困難	

<sup>\*1</sup> 沖縄県がん登録資料

<sup>\*2</sup> 都道府県がん診療連携拠点病院：琉球大学医学部附属病院

地域がん診療連携拠点病院：那覇市立病院、沖縄県立中部病院

地域がん診療病院：沖縄県立宮古病院

<sup>\*3</sup> がん診療連携支援病院：北部地区医師会病院、沖縄県立八重山病院

$$*4 \text{ 主治療カバー率} = \frac{\text{当該治療機関における治療件数}}{\text{沖縄県全体の新発届出患者数}} \times 100$$

\*5 沖縄県保健医療部保健医療政策課. 「患者さん・ご家族のみなさんへ」(2015年版). 2015年●月～●月

\*6 国立がん研究センターがん対策情報センター. 院内がん登録-DPC突合データ

\*7 厚生労働省. 「新規指定・指定更新推薦書」または「現況報告書」. 2014年10月

\*8 沖縄県保健医療部保健医療政策課. 「医療者のみなさんへ」(2015年版). 2015年●月～●月

指標リストーがん医療 ②がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成及び確保

	略称	内容	数値など	目標
A1	5年生存率	5年相対生存率（2007-2008年診断） <sup>*1</sup> －全部位	60.2%	
	-	標準的治療実施率（2012年、沖縄県、7施設） <sup>*2</sup> －大腸がん術後化学療法実施率 －胃がん術後化学療法実施率 －早期肺がん外科・定位放射実施率 －肺がん術後化学療法実施率 －乳房温存術後全乳房照射実施率 －乳切後放射線療法実施率 －肝切前 ICG 15 実施率 －高リスク催吐化学療法制吐剤処方率 －外来麻薬鎮痛開始時緩下剤	38.7% 71.4% 今回は測定困難 42.1% 34.5% 今回は測定困難 89.3% 今回は測定困難 今回は測定困難	
	希望に合う医療の提供割合	「医療スタッフは、自分の希望に沿った医療を提供してくれた」と回答した患者の割合（問9） <sup>*3</sup>		
	専門医不足感の割合	「沖縄県でがん医療を提供するとき、専門医の不足を感じる」と回答した医療者の割合（問16） <sup>*4</sup>		
	-	「沖縄県でがん医療を提供するとき、医師以外の専門的な医療従事者（がん化学療法看護認定看護師、緩和ケア認定看護師、がん薬物療法認定薬剤師、など）の不足を感じる」と回答した医療者の割合（問17） <sup>*4</sup>		
B1	中期ビジョンの進捗結果	中期（5年）ビジョンの進捗結果	アクションプランは未作成	
B2	専門医療従事者の充足率	各専門医療従事者の充足率 －（公社）日本医学放射線学会 放射線治療専門医 －（一社）日本病理学会 病理専門医 －（一社）日本肝臓学会 肝臓専門医 －（一社）日本血液学会 血液専門医 －（一社）日本消化器外科学会 消化器外科専門医	今回は測定困難	



	略称	内容	数値など	目標
B2	専門医療従事者の充足率	各専門医療従事者の充足率 ー呼吸器外科専門医合同委員会 呼吸器外科専門医 ー（一社）日本乳癌学会 乳腺専門医 ーNPO法人 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医 ー（一社）日本がん治療認定医機構 がん治療認定医	今回は測定困難	
	診断や治療に疑問割合	「これまで診断や治療に疑問をいただいたことがあった」と回答した患者の割合（問10） <sup>*3</sup>		
B3	耳を傾けた対応があった割合	「医療スタッフは耳を傾け、自分が置かれている状況を踏まえ対応してくれた」と回答した患者の割合（問11） <sup>*3</sup>		
	耳を傾けて対応する割合	「患者の話に耳を傾け、患者が置かれている状況を踏まえ対応している」と回答した医療者の割合（問18） <sup>*4</sup>		
C1	中間ビジョン策定組織の設置	中間ビジョンを策定する組織の設置	未設置	
C2	罹患あたり専門医療者数	県における、がん罹患（2011年） <sup>*5</sup> 1000人あたりの各専門医療従事者数 ー（一社）日本血液学会 血液専門医 白血病・多発性骨髄腫・リンパ腫 1000人あたり ー（一社）日本消化器外科学会 消化器外科専門医 食道・胃・大腸・肝胆膵がん 1000人あたり ー呼吸器外科専門医合同委員会 呼吸器外科専門医 肺がん罹患 1000人あたり ー（一社）日本乳癌学会 乳腺専門医 乳がん罹患 1000人あたり	43.6 (20) <sup>*6</sup>  14.0 (37、6065) <sup>*8</sup>  7.2 (6、1338) <sup>*9</sup>  18.3 (14、1334) <sup>*10</sup>	34 <sup>*7</sup>  60  14  11

	略称	内容	数値など	目標
C2	罹患あたり専門医療者数	県における、がん罹患（2011年）1000人あたりの各専門医療従事者数 <sup>*5</sup>		
		－（公社）日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医 がん罹患 1000人あたり	0.3 (2、1032) <sup>*11</sup>	8
		－（公社）日本医学放射線学会 放射線治療専門医	今回は測定困難	
		－（一社）日本病理学会 病理専門医 がん罹患 1000人あたり	3.4 (23、2259) <sup>*12</sup>	23
		－（一社）日本肝臓学会 肝臓専門医 肝がん罹患 1000人あたり	73.0 (23) <sup>*13</sup>	58
		－（一社）日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 がん罹患 1000人あたり	18.9 (127、14011) <sup>*14</sup>	121
		－（一社）日本がん治療認定医機構 がん治療認定医（歯科口腔外科） がん罹患 1000人あたり	0.1 (1、355) <sup>*15</sup>	3
		－（公社）日本看護協会 がん看護専門看護師 がん罹患 1000人あたり	0.6 (4、581) <sup>*16</sup>	5
		－（公社）日本看護協会 皮膚・排泄ケア認定看護師 <sup>*17</sup> がん罹患 1000人あたり	1.9 (13、2040) <sup>*17</sup>	20
－（公社）日本看護協会 緩和ケア認定看護師 がん罹患 1000人あたり	1.9 (13、1641) <sup>*18</sup>	15		

	略称	内容	数値など	目標
C2	罹患あたり専門医療者数	県における、がん罹患（2011年） <sup>*5</sup> 1000人あたりの各専門医療従事者数		
		－（公社）日本看護協会 がん化学療法看護認定看護師 がん罹患 1000人あたり	1.6 (11、1282) <sup>*19</sup>	12
		－（公社）日本看護協会 がん性疼痛看護認定看護師がん罹患 1000人あたり	0.4 (3、741) <sup>*20</sup>	8
		－（公社）日本看護協会 乳がん看護認定看護師 乳がん罹患 1000人あたり	5.2 (4、1244) <sup>*21</sup>	3
		－（公社）日本看護協会 がん放射線療法看護認定看護師 がん罹患 1000人あたり	0.1 (1、177) <sup>*22</sup>	2
		－（公社）日本看護協会 手術看護認定看護師 がん罹患 1000人あたり	0.1 (1、1314) <sup>*23</sup>	2
C3	告知等マニュアルの有無	がん告知や余命告知等を行う際のコミュニケーションに関するマニュアルがある がん診療（連携拠点）病院 <sup>*24</sup> 数 <sup>*25</sup>	4施設中2施設	
	-	がん告知や余命告知等を行う際のコミュニケーション研修を1年に最低1回でも実施しているがん診療（連携拠点）病院数 <sup>*24</sup>	4施設中1施設	

<sup>\*1</sup> 沖縄県がん登録資料

<sup>\*2</sup> 国立がん研究センターがん対策情報センター. 院内がん登録－DPC突合データ

<sup>\*3</sup> 沖縄県保健医療部保健医療政策課. 「患者さん・ご家族のみなさんへ」（2015年版）. 2015年●月～●月

<sup>\*4</sup> 沖縄県保健医療部保健医療政策課. 「医療者のみなさんへ」（2015年版）. 2015年●月～●月

<sup>\*5</sup> 沖縄県保健医療部. 平成27年度沖縄県がん登録事業報告（平成23年（2011年）の罹患集計）. 平成27年7月

\*<sup>6</sup> ()内は沖縄の専門医数。平成 27 年 6 月 1 日現在。

\*<sup>7</sup> 沖縄県におけるがん医療に携わる医療従事者数

\*<sup>8</sup> ()内は沖縄、全国の専門医数。2015 年 6 月 25 日現在。

\*<sup>9</sup> ()内は沖縄、全国の専門医数。2015 年 6 月現在。

\*<sup>10</sup> ()内は沖縄、全国の専門医数。2015 年 4 月 21 日現在。

\*<sup>11</sup> ()内は沖縄、全国の専門医数。2015 年 7 月 14 日現在。

\*<sup>12</sup> ()内は沖縄、全国の専門医数。2015 年 4 月 1 日現在。

\*<sup>13</sup> ()内は沖縄の専門医数。平成 27 年 7 月 8 日現在。

\*<sup>14</sup> ()内は沖縄、全国の認定医数。2015 年 4 月 1 日現在。

\*<sup>15</sup> ()内は沖縄、全国の認定医数。2015 年 4 月 1 日現在。

\*<sup>16~\*23</sup>()内は沖縄、全国の登録者数。2015 年 7 月 14 日現在。

\*<sup>24</sup> 都道府県がん診療連携拠点病院：琉球大学医学部附属病院

地域がん診療連携拠点病院：那覇市立病院、沖縄県立中部病院

地域がん診療病院：沖縄県立宮古病院

\*<sup>25</sup> 厚生労働省。「新規指定・指定更新推薦書」または「現況報告書」。2014 年 10 月

指標リストーがん医療 ③緩和ケアの推進

	略称	内容	数値など	目標
A1	除痛率	除痛率	今回は 測定困難	
	からだの苦痛 ありの割合	からだの苦痛があると回答した患者の割合（問 14 ①） <sup>*1</sup>		
	気持ちがつらい割合	気持ちがつらいと回答した患者の割合（問 14 ②） <sup>*1</sup>		
	-	「治療中および治療後の痛みに、医療スタッフが対応した」と回答した患者の割合（問 15） <sup>*1</sup>		
	-	「療養中に身体的・精神的・社会的苦痛が軽減された上で、かつ今の療養生活に満足している」と回答した患者の割合（問 13） <sup>*1</sup>		
B1	中期ビジョンの進捗結果	中期（5年）ビジョンの進捗結果	アクションプランは未作成	
B2	痛みのスクリーニング実施施設数	身体的痛みのスクリーニングを、全ての入院患者に対して連日行っている医療機関数	1施設	
	-	身体的痛みのスクリーニングを、全ての外来患者に対して毎回行っている医療機関数	0施設	
	-	がん患者における、身体的痛みのスクリーニングを受けた患者の占める割合	今回は 測定困難	
	痛みの相談ができた割合	「痛みがあったらすぐに医療スタッフに痛みを相談できた」と回答した患者の割合（問 16） <sup>*1</sup>		
	痛みの評価の実施割合	担当するがん患者の精神的痛みを含む痛みの評価を実施している割合（問 21） <sup>*2</sup>		
	-	「従事している施設の緩和ケアレベルが3年前より向上した」と回答した医療者の割合（問 19） <sup>*2</sup>		
	-	「従事している施設でがん患者に対する意思決定支援が実践されている」と回答した医療者の割合（問 20） <sup>*2</sup>		

	略称	内容	数値など	目標
C1	中間ビジョン 策定組織の設置	中間ビジョンを策定する組織の設置	未設置	
C2	精神的痛みのスクリーニング実施施設数	精神的痛みのスクリーニングを実施している医療機関数 <代用> 身体的苦痛や精神心理的苦痛、社会的苦痛などのスクリーニングを外来および病棟において診断時から行っている <sup>*3</sup> 、がん診療（連携拠点）病院 <sup>*4</sup> －琉球大学医学部附属病院 －那覇市立病院 －沖縄県立中部病院 －沖縄県立宮古病院	行っている 行っている 行っている 行っている	
	身体的痛みのスクリーニング実施施設数	身体的痛みのスクリーニングを実施している医療機関数 <代用> 身体的苦痛や精神心理的苦痛、社会的苦痛などのスクリーニングを外来および病棟において診断時から行っている、がん診療（連携拠点）病院 －琉球大学医学部附属病院 －那覇市立病院 －沖縄県立中部病院 －沖縄県立宮古病院	行っている 行っている 行っている 行っている	
C3	緩和チームのコンサル件数、割合	がん診療（連携拠点）病院の緩和ケアチームのコンサルト件数、割合		
	-	活動している緩和ケアチームの数、割合 <代用> がん診療（連携拠点）病院の緩和ケアチームの状況 <sup>*3</sup>	4施設中4施設に緩和ケアチームあり	
	-	診療報酬が算定できる緩和ケアチームの数		

	略称	内容	数値など	目標
	-	緩和ケアチームの日本医療学会登録数( )内は計画策定時)	[ ] (0)	全ての緩和ケアチーム
C4	医療用麻薬消費量	医療用麻薬の消費量 ( ) 内は 2010 年)	[ ] (36.5g/千人)	41.4g/千人
	-	沖縄県緩和ケア研修会修了者数 ( )内は 2013 年 3 月現在)	[ ]人 (505 人)	1000 人
C5				

\*1 沖縄県保健医療部保健医療政策課. 「患者さん・ご家族のみなさんへ」(2015 年版). 2015 年●月～●月

\*2 沖縄県保健医療部保健医療政策課. 「医療者のみなさんへ」(2015 年版). 2015 年●月～●月

\*3 厚生労働省. 「新規指定・指定更新推薦書」または「現況報告書」. 2014 年 10 月

\*4 都道府県がん診療連携拠点病院：琉球大学医学部附属病院  
地域がん診療連携拠点病院：那覇市立病院、沖縄県立中部病院  
地域がん診療病院：沖縄県立宮古病院

指標リストーがん医療 ④地域の医療提供体制の推進

	略称	内容	数値など	目標
A1	5年生存率	5年相対生存率（2007-2008年診断） <sup>*1</sup> ー全部位 ー胃 ー大腸 ー肝 ー肺 ー乳房	60.2% 58.9% 64.8% 25.3% 30.0% 91.9%	
	-	沖縄県における標準的治療実施率 <代用>標準的治療実施率（2012年、沖縄県、7施設） <sup>*2</sup> ー大腸がん術後化学療法実施率 ー胃がん術後化学療法実施率 ー早期肺がん外科・定位放射実施率 ー肺がん術後化学療法実施率 ー乳房温存術後全乳房照射実施率 ー乳切後放射線療法実施率 ー肝切前ICG15実施率 ー高リスク催吐化学療法制吐剤処方率 ー外来麻薬鎮痛開始時緩下剤	38.7% 71.4% 今回は測定困難 42.1% 34.5% 今回は測定困難 89.3% 今回は測定困難 今回は測定困難	
	紹介先の円滑受診の割合	何ら支障なく、紹介先の医療機関を受診できたと回答した患者の割合（問8） <sup>*3</sup>		
	連携に困難感ありの割合	「がん医療を行っていくうえで、他の医療機関との連携に困難感がある」と回答した医療者の割合（問9） <sup>*4</sup>		
	-	「専門医療機関に対してがん患者を紹介したときに受け入れてもらえる」と回答した医療者の割合（問10） <sup>*4</sup>		
	-	「他院へ患者を紹介した際に、その後の経過について紹介先医療機関からの情報提供がある」と回答した医療者の割合（問11） <sup>*4</sup>		



	略称	内容	数値など	目標
A1	-	「他院から患者が紹介されてきた際に、その後の診療を継続するのに患者にとって十分な情報が紹介元医療機関から提供されている」と回答した医療者の割合(問12) *4		
	-	「より専門的な医療機関へがん患者を紹介するときに、どの医療機関に紹介するかを決めるための情報が足りない」と回答した医療者の割合(問13) *4		
	-	「がん患者を定期的なフォローアップのために紹介するときに、どの医療機関に紹介するかを決めるための情報が足りない」と回答した医療者の割合(問14) *4		
B1	中期ビジョンの進捗結果	中期(5年)ビジョンの進捗結果	アクションプランは未作成	
B2	主治療カバー率	がん診療(連携拠点)病院 <sup>5</sup> 及びがん診療連携支援病院 <sup>6</sup> 、専門医療機関の主治療カバー率(2011年) *1, 7 ー全部位 ー胃 ー大腸 ー肝 ー肺 ー乳房	[ ]% [ ]% [ ]% [ ]% [ ]% [ ]%	
	離島患者の主治療カバー率	[別掲] 離島在住患者の、がん診療(連携拠点)病院及びがん診療連携支援病院、専門医療機関の主治療カバー率(2011年) *1, 7 ー全部位 ー胃 ー大腸 ー肝 ー肺 ー乳房	[ ]% [ ]% [ ]% [ ]% [ ]% [ ]%	
		紹介状持参率	今回は測定困難	

	略称	内容	数値など	目標
B2	紹介先の円滑受診の割合（離島）	何ら支障なく、紹介先の医療機関を受診できたと回答した離島患者の割合（問 8） <sup>*3</sup>		
	適切医療の受療率（離島）	「離島に居住しているがん患者が、適切な医療を受けている」と回答した医療者の割合（問 22） <sup>*4</sup>		
	-	離島に居住しているがん患者のうち、より専門的な医療機関へ紹介したい場合、大きな支障なく紹介できた症例の割合（問 23） <sup>*4</sup>		
	-	離島に居住しているがん患者のフォローアップのために、地元の医療機関へ紹介したい場合、大きな支障なく紹介できた症例の割合（問 24） <sup>*4</sup>		
B3	在宅看取り希望達成率	在宅看取り希望達成率	今回は測定困難	
	在宅医療に移行した割合	担当するがん患者で、在宅医療を希望された患者のうち、在宅医療に移行した症例の割合（問 25） <sup>*4</sup>		
C1	中間ビジョン策定組織の設置	中間ビジョンを策定する組織の設置	未設置	
C2	診療体制・実績の公表	がん診療（連携拠点）病院及び専門医療機関における診療体制・実績の公表 －国立がん研究センターがん情報サービス「病院を探す」 <sup>*8</sup>	-	
C3	罹患あたり専門医療者数	県における、がん罹患（2011 年） <sup>*9</sup> 1000 人あたりの各専門医療従事者数 －（一社）日本血液学会 血液専門医 白血病・多発性骨髄腫・リンパ腫 1000 人あたり	43.6 (20) <sup>*10</sup>	34 <sup>*11</sup>
		－（一社）日本消化器外科学会 消化器外科専門医 食道・胃・大腸・肝胆膵がん 1000 人あたり	14.0 (37、6065) <sup>*12</sup>	60

	略称	内容	数値など	目標
C3	罹患あたり専門医療者数	県における、がん罹患（2011年） <sup>*9</sup> 1000人あたりの各専門医療従事者数		
		－呼吸器外科専門医合同委員会 呼吸器外科専門医 肺がん罹患 1000人あたり	7.2 (6、1338) <sup>*13</sup>	14
		－（一社）日本乳癌学会 乳腺専門医 乳がん罹患 1000人あたり	18.3 (14、1334) <sup>*14</sup>	11
		－（公社）日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医 がん罹患 1000人あたり	0.3 (2、1032) <sup>*15</sup>	8
		－（公社）日本医学放射線学会 放射線治療専門医	今回は測定困難	
		－（一社）日本病理学会 病理専門医 がん罹患 1000人あたり	3.4 (23、2259) <sup>*16</sup>	23
		－（一社）日本肝臓学会 肝臓専門医 肝がん罹患 1000人あたり	73.0 (23) <sup>*17</sup>	58
		－（一社）日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 がん罹患 1000人あたり	18.9 (127、14011) <sup>*18</sup>	121
		－（一社）日本がん治療認定医機構 がん治療認定医（歯科口腔外科） がん罹患 1000人あたり	0.1 (1、355) <sup>*19</sup>	3
		－（公社）日本看護協会 がん看護専門看護師 がん罹患 1000人あたり	0.6 (4、581) <sup>*20</sup>	5
－（公社）日本看護協会 皮膚・排泄ケア認定看護師 がん罹患 1000人あたり	1.9 (13、2040) <sup>*21</sup>	20		

	略称	内容	数値など	目標
C3	罹患あたり専門医療者数	県における、がん罹患（2011年） <sup>*9</sup> 1000人あたりの各専門医療従事者数		
		－（公社）日本看護協会 緩和ケア認定看護師 がん罹患 1000人あたり	1.9 (13、1641) <sup>*22</sup>	15
		－（公社）日本看護協会 がん化学療法看護認定看護師 がん罹患 1000人あたり	1.6 (11、1282) <sup>*23</sup>	12
		－（公社）日本看護協会 がん性疼痛看護認定看護師がん罹患 1000人あたり	0.4 (3、741) <sup>*24</sup>	8
		－（公社）日本看護協会 乳がん看護認定看護師 乳がん罹患 1000人あたり	5.2 (4、1244) <sup>*25</sup>	3
		－（公社）日本看護協会 がん放射線療法看護認定看護師 がん罹患 1000人あたり	0.1 (1、177) <sup>*26</sup>	2
		－（公社）日本看護協会 手術看護認定看護師 がん罹患 1000人あたり	0.1 (1、1314) <sup>*27</sup>	2
-	地域連携クリティカルパスの参加医療機関数（専門施設）（()内は2012年）			
	－胃	[ ](14施設)	} 増加	
	－大腸	[ ](14施設)		
	－肝	[ ](12施設)		
	－肺	[ ](13施設)		
	－乳	[ ](15施設)		
	－前立腺	[ ](5施設)		
	地域連携クリティカルパスの参加医療機関数（かかりつけ施設）（()内は2012年）			
	－胃	[ ](53施設)	} 増加	
	－大腸	[ ](51施設)		

	略称	内容	数値など	目標
C3	-	地域連携クリティカルパスの参加医療機関数（かかりつけ施設）（()内は2012年） －肝 －肺 －乳 －前立腺	[ ](47施設) [ ](42施設) [ ](39施設) [ ](17施設)	増加
C4				
C5	低額で活用できる施設数	ファミリーハウス等低額で活用できる施設数（()内は計画策定時）	[ ] (1施設)	増加
C6	離島医療資源の調査と公開	離島地域における医療資源を調査し、ウェブサイトへ公開	離島ハンドブックを作成中	
C7	意思決定支援実践の割合	「従事している施設でがん患者に対する意思決定支援が実践されている」と回答した医療者の割合（問20） <sup>*4</sup>		
C8	在宅死亡割合	在宅（自宅及び老人ホーム）での死亡割合（()内は2010年）	[ ] (14%)	16.1%
	-	在宅療養支援診療所の数（()内は計画策定時）	[ ] (89施設)	増加
	-	訪問看護ステーションの数（()内は計画策定時）	[ ] (53施設)	増加
	-	老人ホームでの死亡割合（()内は2010年）	[ ] (2.1%)	3.5%
C9	在宅医療に移行した割合	担当するがん患者で、在宅医療を希望された患者のうち、在宅医療に移行した症例の割合（問25） <sup>*4</sup>		
C10	在宅看取り希望達成率	<代用>在宅看取り希望達成率	今回は測定困難	
C11				
C12				
C13	在宅緩和ケアマップの更新	沖縄在宅緩和ケアマップ <sup>*28</sup> の更新	適宜更新	

<sup>\*1</sup> 沖縄県がん登録資料

<sup>\*2</sup> 国立がん研究センターがん対策情報センター．院内がん登録－DPC突合データ

\*3 沖縄県保健医療部保健医療政策課. 「患者さん・ご家族のみなさんへ」(2015年版). 2015年●月～●月

\*4 沖縄県保健医療部保健医療政策課. 「医療者のみなさんへ」(2015年版). 2015年●月～●月

\*5 都道府県がん診療連携拠点病院：琉球大学医学部附属病院

地域がん診療連携拠点病院：那覇市立病院、沖縄県立中部病院

地域がん診療病院：沖縄県立宮古病院

\*6 がん診療連携支援病院：北部地区医師会病院、沖縄県立八重山病院

\*7 主治療カバー率 =  $\frac{\text{当該治療機関における治療件数}}{\text{沖縄県全体の新発届出患者数}} \times 100$

\*8 <http://hospdb.ganjoho.jp/kyoten/>

\*9 沖縄県保健医療部. 平成27年度沖縄県がん登録事業報告(平成23年(2011年)の罹患集計). 平成27年7月

\*10 ()内は沖縄の専門医数。平成27年6月1日現在。

\*11 沖縄県におけるがん医療に携わる医療従事者数

\*12 ()内は沖縄、全国の専門医数。2015年6月25日現在。

\*13 ()内は沖縄、全国の専門医数。2015年6月現在。

\*14 ()内は沖縄、全国の専門医数。2015年4月21日現在。

\*15 ()内は沖縄、全国の専門医数。2015年7月14日現在。

\*16 ()内は沖縄、全国の専門医数。2015年4月1日現在。

\*17 ()内は沖縄の専門医数。平成27年7月8日現在。

\*18 ()内は沖縄、全国の認定医数。2015年4月1日現在。

\*19 ()内は沖縄、全国の認定医数。2015年4月1日現在。

\*20~\*27 ()内は沖縄、全国の登録者数。2015年7月14日現在。

\*28 [http://www.okican.jp/index\\_caremap.jsp](http://www.okican.jp/index_caremap.jsp)

指標リストーがん医療 ⑤相談支援及び情報提供体制の推進

	略称	内容	数値など	目標
A1	心配や悩みの軽減の割合	「がんと診断されたことによる心配や悩みは、何らかの支援によって現在は軽減された」と回答した患者の割合（問 17） *1		
B1	中期ビジョンの進捗結果	中期（5年）ビジョンの進捗結果	アクションプランは未作成	
B2	説明と情報提供の割合①	主治医が病状や治療等について十分な説明と情報提供をしてくれた割合（問 12） *1		
	説明と情報提供の割合②	医師ががん患者とその家族に、治療の説明など必要な説明と情報を提供している割合（問 26）*2		
B3	他施設患者・家族相談件数	他施設患者・家族の相談件数*3（2014年6月1日～7月31日） －琉球大学医学部附属病院  －那覇市立病院 －沖縄県立中部病院 －沖縄県立宮古病院	178件中18件 237件中14件 239件中15件 76件中0件	
	-	ピアサポート数 ＜代用＞地域統括相談支援センターのピアサポート相談件数（）内は2012年） －平成25（2013）年度  －平成26（2014）年度	220件 （175件） 181件	増加
	情報や支援を得られた割合	「自分が思うような日常生活を送るのに必要な情報や支援を得られた」と回答した患者の割合（問 18）*1		
	-	「がん相談支援センター（またはがんについての相談窓口）を利用して、欲しいと思った情報や希望に沿った支援が得られた」と回答した患者の割合（問 20）*1		
	-	「ピアサポートにより、欲しいと思った情報や希望に沿った支援が得られた」と回答した患者の割合（問 22）*1		

	略称	内容	数値など	目標
C1	中間ビジョン 策定組織の設置	中間ビジョンを策定する組織の設置	未設置	
C2	説明と情報提供の割合②	医師ががん患者とその家族に、治療の説明など必要な説明と情報を提供している割合（問26） <sup>*2</sup>		
C3	ピアサポーター活動施設数	ピアサポーターが活動している医療機関数	4 施設中 1 施設	
	-	がん患者における、ピアサポートを受けた患者の占める割合	今回は測定困難	
	-	土日及び夜間に電話相談ができる相談窓口 <sup>*3</sup>	がん診療（連携拠点）病院 <sup>4</sup> では該当なし	
	-	相談支援センターの相談件数（2014年6月1日～7月31日） <sup>*3</sup> －琉球大学医学部附属病院 －那覇市立病院 －沖縄県立中部病院 －沖縄県立宮古病院	178件 237件 239件 76件	
	-	ピアサポーター養成数（年間）（()内は2012年）	[            ] (9人)	40人
C4				
C5				
C6	語りの場がある拠点病院数	がん患者およびその家族が心の悩みや体験等を語り合うための場を設けている、がん診療（連携拠点）病院 <sup>4</sup> 数 <sup>*3</sup>	4 施設中 4 施設	
C7	セカンドオピニオン対応数	セカンドオピニオン対応医療機関数（()内は計画策定時）	[            ] (17 施設)	増加
	-	がん診療（連携拠点）病院におけるセカンドオピニオンの提示体制の整備 <sup>*3</sup>	全施設（4 施設）で整備済。	
C8	がんサポートブックの更新	がんサポートハンドブックの更新	第3版 2013.3.31 第4版 2014.3.31	



	略称	内容	数値など	目標
C9	相談支援センター相談員数	がん診療（連携拠点）病院の、相談支援センターに配置されている相談員 <sup>*3</sup> ー 琉球大学医学部附属病院 看護師（専従） 社会福祉士（専従） ー 那覇市立病院 看護師（専任） 社会福祉士（専従） 社会福祉士（専任） ー 沖縄県立中部病院 看護師（専従） 社会福祉士（専任） ー 沖縄県立宮古病院 看護師 社会福祉士	4名 4名 1名 1名 1名 1名 1名 - -	

<sup>\*1</sup> 沖縄県保健医療部保健医療政策課。「患者さん・ご家族のみなさんへ」（2015年版）。2015年●月～●月

<sup>\*2</sup> 沖縄県保健医療部保健医療政策課。「医療者のみなさんへ」（2015年版）。2015年●月～●月

<sup>\*3</sup> 厚生労働省。「新規指定・指定更新推薦書」または「現況報告書」。2014年10月

<sup>\*4</sup> 都道府県がん診療連携拠点病院：琉球大学医学部附属病院  
 地域がん診療連携拠点病院：那覇市立病院、沖縄県立中部病院  
 地域がん診療病院：沖縄県立宮古病院

指標リストーがん医療 ⑥がん患者の就労を含めた社会的な問題

	略称	内容	数値など	目標
A1	生活の不安を感じた割合	「がんと診断されたことを理由に、生活の不安を感じた」と回答した患者の割合（問23） <sup>*1</sup>		
	周囲の対応に傷ついた割合	「がんと診断されてから、周囲の対応が原因で傷ついたことがある」と回答した患者の割合（問25） <sup>*1</sup>		
	-	治療費用の負担が原因で「がんの治療を変更した。または断念した」と回答した患者の割合（問24 ①） <sup>*1</sup>		
	-	治療費用の負担が原因で「親戚や他の人から金銭的援助をうけた」と回答した患者の割合（問24 ②） <sup>*1</sup>		
	-	治療費用の負担が原因で「貯金をとりくずした。または借金をした」と回答した患者の割合（問24 ③） <sup>*1</sup>		
B1	-	地域別経済特性とがん統計（早期診断割合、生存率、死亡）	今回は測定困難	
	治療を断念・変更した割合	治療費用の負担が原因で「がんの治療を変更した。または断念した」と回答した患者の割合（問24 ①） <sup>*1</sup>		
	金銭的援助をうけた割合	治療費用の負担が原因で「親戚や他の人から金銭的援助をうけた」と回答した患者の割合（問24 ②） <sup>*1</sup>		
	貯金使用・借金実行の割合	治療費用の負担が原因で「貯金をとりくずした。または借金をした」と回答した患者の割合（問24 ③） <sup>*1</sup>		
B2	-	診断時に就労していたがん患者の雇用継続率	今回は測定困難	
	-	就労していたがん患者家族の離職率	今回は測定困難	
	休職、復職・復帰の割合	がんで初めて治療・療養した時、一定期間仕事を休んだ割合、また、その後復職・復帰した割合（問28）		

	略称	内容	数値など	目標
B2	-	「医療スタッフから就労を継続することに関して、必要な情報が十分得られた」と回答した患者の割合（問 29 ①）*1		
	-	「医療スタッフから、仕事をどのようにするのがよいか、何か相談にのってもらった」と回答した患者の割合（問 29 ②）*1		
	-	「そのとき働いていた職場の上司に、がんと診断されたことで勤務上の配慮をしてもらえた」と回答した患者の割合（問 29 ④）*1		
B3	同僚にがんと話した割合	「そのとき働いていた職場の同僚にがんと診断されたことを話した」と回答した患者の割合（問 29 ⑤）*1		
	-	「そのとき働いていた職場の上司にがんと診断されたことを話した」と回答した患者の割合（問 29 ③）*1		
C1	拠点病院の就労相談の有無	がん診療（連携拠点）病院 <sup>*2</sup> における、就労に関する相談の対応の有無 <sup>*3</sup>	全ての施設（4施設）で対応	
	拠点病院の社労士数	がん診療（連携拠点）病院 <sup>*2</sup> の社労士数（2015年8月現在）	4施設中1施設で社労士1名を配置（月1回）	
C2	コールリコールセンターの雇用数	がん検診のコールリコールセンターの雇用数	0人	
	-	コールリコールセンターの設置	未設置	
C3				
C4				
C5	がん教育実施回数	学校および職場等におけるがん教育実施回数 －2010年	看護大学1校、看護専門学校2校	

	略称	内容	数値など	目標
C5	がん教育実施回数	－2011年	看護専門学校 1校	
	－	がん患者の就労のための「カフェ」の開催	1回（2014年 1月）	
C6	事業者への情報冊子の提供	事業者への就労支援に関する情報冊子の作成と提供（()内は計画策定時）	「事業者と働く人のためのがん治療と仕事 その両立支援のポイント」の作成 （2014年3月）：12万部 発行（未実施）	2万事業所に 配布

\*1 沖縄県保健医療部保健医療政策課. 「患者さん・ご家族のみなさんへ」（2015年版）. 2015年●月～●月

\*2 都道府県がん診療連携拠点病院：琉球大学医学部附属病院  
地域がん診療連携拠点病院：那覇市立病院、沖縄県立中部病院  
地域がん診療病院：沖縄県立宮古病院

\*3 厚生労働省. 「新規指定・指定更新推薦書」または「現況報告書」. 2014年10月

指標リストー基盤的分野 ①モニタリング体制の充実（「がん登録」を含む）

	略称	内容	数値など	目標
A1	対策の企画と評価の事例	既存資料を活用した、がん対策の企画と評価の事例	第2次計画期間後半のアクションプラン作成に役立っている第2次計画の中間評価（2015年）	
B1	客観指標データの定期収集	客観指標関連データの定期的な収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沖縄県がん登録事業（2016年1月以降は全国がん登録も含む）の継続実施</li> <li>・ 沖縄県がん診療連携支援病院に対する現況報告の継続実施</li> <li>・ 医療機能調査の継続実施</li> </ul>	
	主観指標データの定期収集	主観指標関連データの定期的な収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者・家族に対する調査（5年に2回実施予定）</li> <li>・ 医療者に対する調査（5年に2回実施予定）</li> <li>・ 遺族に対する調査（5年に2回実施予定）</li> </ul>	

	略称	内容	数値など	目標
B2	データ分析結果の活用事例	データ分析結果の活用事例	第2次計画中間評価報告書(2015年)	
	-	沖縄県悪性新生物登録資料の利用状況(2014年度) <sup>*1</sup>	5件	
B3	サイトのアクセス数	サイトのアクセス数 ーうちな〜がんネットがんじゅう (2015年1月〜7月)	月平均 1089件	
C1	ベンチマークセンターの設置	ベンチマークデータセンターの設置	未設置	
	沖縄県がん登録事業の実施	沖縄県がん登録事業の実施状況	継続実施中	
	医療機能調査の実施	医療機能調査の実施状況		
	患者・家族調査の実施	患者・家族に対する調査の実施状況	2015年度実施	
	医療者調査の実施	医療者に対する調査の実施状況	2015年度実施	
	-	沖縄県がん登録資料の精度(2011年、()内は2008年) <sup>*1, 2</sup> ーIM比(罹患/死亡比) ーDCN(死亡情報で初めて把握された症例) ーDCO(死亡情報のみの症例)	2.37(2.12) 24.0% (35.2%) 24.0% (35.2%)	2.0以上 10%未満 5%未満
	-	琉球大学公衆衛生学講座での人材育成人数		
	-	がん登録データを分析して、生存率を把握しているがん診療(連携拠点)病院数 <sup>*3</sup> (()内は計画策定時)	4施設中1施設(3施設中2施設)	増加
-	がん診療を行う医療機関において、地域がん登録へ協力している医療機関数(2013年、()内は計画策定時) <sup>*4</sup>	23医療機関(22医療機関)	増加	

	略称	内容	数値など	目標
C1	-	院内がん登録を行う医療機関数(2013年、 ( )内は計画策定時) <sup>*4</sup>	23 医療機関 (22 医療機 関)	増加
C2	院内がん登録 実務者数	がん診療（連携拠点）病院における国立 がん研究センターによる研修を終了し た、院内がん登録実務者数 <sup>*4</sup> －琉球大学医学部附属病院  －那覇市立病院  －沖縄県立中部病院  －沖縄県立宮古病院	専従 1 名、専 任 1 名 専従 3 名、専 任 0 名 専従 3 名、専 任 4 名 専従 1 名、専 任 0 名	
C3	がん登録デー タの分析	沖縄県がん登録データの分析状況 －沖縄県悪性新生物登録資料の利用件数 (2014 年度) <sup>*1</sup>	5 件	
	患者・家族調 査の分析	患者・家族に対する調査の分析状況	第 2 次計画 中間評価報告書 (2015 年)	
	医療者調査の 分析	医療者に対する調査の分析状況	第 2 次計画 中間評価報告書 (2015 年)	
	-	既存資料（人口動態統計、沖縄県がん登 録資料、県独自調査等）の分析のための 組織の設置	未設置	
C4	がん登録デー タ結果の公表	沖縄県がん登録データの分析結果の公表 状況 <sup>*5</sup>	第 2 次計画 中間評価報告書 (2015 年)	
	患者・家族調 査結果の公表	患者・家族に対する調査の分析結果の公 表状況	第 2 次計画 中間評価報告書 (2015 年)	
	医療者調査結 果の公表	医療者に対する調査の分析結果の公表状 況	第 2 次計画 中間評価報告書 (2015 年)	

	略称	内容	数値など	目標
C4	-	公表のためのサイト構築	・ 沖縄県地域がん登録事業 <sup>*5</sup> ・ うちな〜がんネットがんじゅう <sup>*6</sup>	
	-	患者目線の情報発信のためのサイト構築	未構築	
	-	「沖縄県がん診療連携拠点病院 院内がん登録 2012 年累計 報告書」の配布	200 件	
	-	医療機能調査の公表	未公表	
	-	がん診療連携支援病院 <sup>*7</sup> の現況報告書の公表	未公表	
	-	がん登録から罹患集計までの期間	3 年 7 か月 (2011 年罹患) <sup>*1</sup>	

<sup>\*1</sup> 沖縄県保健医療部.平成 27 年度沖縄県がん登録事業報告（平成 23 年（2011 年）の罹患集計）. 平成 27 年 7 月

<sup>\*2</sup> 沖縄県福祉保健部健康増進課. 沖縄県環境生活部衛生環境研究所. 平成 23 年度沖縄県がん登録事業報告（平成 20 年の罹患集計）. 平成 24 年 8 月

<sup>\*3</sup> 都道府県がん診療連携拠点病院：琉球大学医学部附属病院  
地域がん診療連携拠点病院：那覇市立病院、沖縄県立中部病院  
地域がん診療病院：沖縄県立宮古病院

<sup>\*4</sup> 厚生労働省. 「新規指定・指定更新推薦書」または「現況報告書」. 2014 年 10 月

<sup>\*5</sup> <http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/kikaku/gantouroku/gantouroku.html>

<sup>\*6</sup> <http://www.okican.jp/index.jsp>

<sup>\*7</sup> がん診療連携支援病院：北部地区医師会病院、沖縄県立八重山病院



指標リストー基盤的分野 ②がんの教育・普及啓発

	略称	内容	数値など	目標
A1	2人に1人はがんになるを知っている割合	「2人に1人はがんになる」を知っている人の割合	今回は測定困難	
	-	がんの5年生存率（がんと診断されてから5年後の生存割合）は約60%であることを知っている人の割合	今回は測定困難	
	-	がんの種類によって5年生存率（がんと診断されてから5年後の生存割合）が異なることを知っている人の割合	今回は測定困難	
	-	がん登録を知っている人の割合	今回は測定困難	
A2	誰でも相談支援センター利用可の認知割合	医療機関に受診していなくても、がん相談支援センターを利用できることを知っている人の割合	今回は測定困難	
	-	がん診療(連携拠点)病院 <sup>1</sup> を知っている人の割合	今回は測定困難	
	-	緩和ケアを知っている人の割合	今回は測定困難	
	-	がん相談支援センター（窓口）を知っている人の割合	今回は測定困難	
	-	がん相談支援センターが無料で利用できることを知っている人の割合	今回は測定困難	
A3	有効でない検診を知っている割合	「有効性が確認されていない検診」があることを知っている人の割合	今回は測定困難	
	検診で大腸がん死亡減少を知っている割合	「大腸がん検診をうけると大腸がんで亡くなる人の数が減る」ことを知っている人の割合	今回は測定困難	
	-	「胃がん検診をうけると胃がんで亡くなる人の数が減る」ことを知っている人の割合	今回は測定困難	
	-	「乳がん検診をうけると乳がんで亡くなる人の数が減る」ことを知っている人の割合	今回は測定困難	

	略称	内容	数値など	目標
A3	-	「子宮頸がん検診をうけると子宮頸がんで亡くなる人の数が減る」ことを知っている人の割合	今回は 測定困難	
	-	がん検診で発見されたがんでは、早期のがんの割合が比較的多いことを知っている人の割合	今回は 測定困難	
A4	喫煙の正しい知識の割合	喫煙の健康影響について正しい知識を持つ人の割合（()内は2011年） ー肺がん  ー喘息  ー心臓病  ー脳卒中  ー胃潰瘍  ー妊娠関連の異常  ー歯周病	男[ ]% (87.0%) 女[ ]% (91.2%) 男[ ]% (75.0%) 女[ ]% (79.6%) 男[ ]% (67.9%) 女[ ]% (68.6%) 男[ ]% (65.3%) 女[ ]% (63.8%) 男[ ]% (42.2%) 女[ ]% (45.7%) 男[ ]% (75.5%) 女[ ]% (87.0%) 男 [ ]% (48.3%)	増加

	略称	内容	数値など	目標
A4	喫煙の正しい知識の割合	喫煙の健康影響について正しい知識を持つ人の割合（()内は2011年） －歯周病	女[ ]% (52.1%)	増加
	-	肝炎ウイルスについて正しい知識（肝がん発生予防など）を持つ人の割合	今回は測定困難	
	-	ヒトT細胞白血病ウイルス1型について正しい知識（授乳など）を持つ人の割合	今回は測定困難	
	-	飲酒の健康影響や節度ある適度な飲酒量について正しい知識を持つ人の割合	今回は測定困難	
B1	がんの知識を持つ児童・生徒の割合	がんの理解及び予防につながる知識を持っている、児童・生徒の割合	今回は測定困難	
B2	サイトのアクセス数	サイトのアクセス数 －うちな～がんネットがんじゅう (2015年1月～7月)	月平均 1089件	
C1	がん教育実施学校数	がん教育を実施している学校数 －2010年  －2011年	看護大学1校、看護専門学校2校 看護専門学校1校	
	-	学校教育における教材の整備	未整備	
	-	がん教育を実施している自治体数	0自治体	
C2	患者目線の情報発信のサイト構築	患者目線の情報発信のためのサイト構築	未構築	
	-	既存資料の公表のためのサイト構築	・沖縄県地域がん登録事業 <sup>*2</sup> ・うちな～がんネットがんじゅう <sup>*3</sup>	

<sup>\*1</sup> 都道府県がん診療連携拠点病院：琉球大学医学部附属病院  
地域がん診療連携拠点病院：那覇市立病院、沖縄県立中部病院  
地域がん診療病院：沖縄県立宮古病院

\*<sup>2</sup><http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/kikaku/gantouroku/gantouroku.html>

\*<sup>3</sup><http://www.okican.jp/index.jsp>

指標リストー基盤的分野 ③がん研究

	略称	内容	数値など	目標
A1	政策に活かされている研究成果	研究成果が政策（がん対策推進計画、医療計画等）に活かされている事例	今回は測定困難	
B1	研究成果に基づくがん対策の基礎資料	研究成果に基づいて作成された、がん対策の基礎資料	今回は測定困難	
C1	行政と研究機関が参加する会議数	行政と研究機関等が参加する会議等の開催数	未開催	
C2	臨床試験の実施医療機関数	臨床試験の実施医療機関数 <代用> がん診療(連携拠点)病院 <sup>*1</sup> で臨床研究等を行っている <sup>*2</sup>	4 施設中3 施設	
	-	臨床試験の情報提供 <代用> がん診療(連携拠点)病院で患者に対して臨床研究・治験に関する適切な情報提供に努めている <sup>*2</sup>	4 施設中3 施設	
	治験の実施医療機関数	治験の実施医療機関数 <代用> がん診療(連携拠点)病院で臨床研究等を行っている	4 施設中3 施設	
	-	治験の情報提供 <代用> がん診療(連携拠点)病院で患者に対して臨床研究・治験に関する適切な情報提供に努めている	4 施設中3 施設	
	-	がん診療（連携拠点）病院における臨床試験と治験のプロトコル件数（平成25年1月1日～12月31日） <sup>*2</sup> ー 琉球大学医学部附属病院 ー 那覇市立病院	臨床試験8件、 治験4件 臨床試験16件、 治験0件	

	略称	内容	数値など	目標
C2	-	がん診療（連携拠点）病院における臨床試験と治験のプロトコール件数（平成 25 年 1 月 1 日～12 月 31 日）*2 ー 沖縄県立中部病院  ー 沖縄県立宮古病院	臨床試験 4 件、 治験 1 件 臨床試験 - 、 治験 -	目標

\*1 都道府県がん診療連携拠点病院：琉球大学医学部附属病院

地域がん診療連携拠点病院：那覇市立病院、沖縄県立中部病院

地域がん診療病院：沖縄県立宮古病院

\*2 厚生労働省、「新規指定・指定更新推薦書」または「現況報告書」。2014 年 10 月

指標リストー大腸がん

	略称	内容	数値など	目標
A1	死亡率	年齢調整死亡率(人口 10 万対)(2013 年、 ( )内は 2010 年) *1—大腸	18.4 (17.8)	
B1	早期診断割合	早期診断割合(上皮内がん+限局割合、 2011 年、( )内は 2007 年) *2、3—大腸	57.7% (47.7) 【最良県*4： 60.6%】	
B2	進行度別 5 年 生存率	進行度別 5 年相対生存率 —大腸 限局 領域 遠隔転移	[ ]% [ ]% [ ]%	
	-	がん診療(連携拠点)病院*5 及びがん診療 連携支援病院*6、専門医療機関の主治療カ パー率(2011 年) *7、8—大腸	[ ]%	
	-	標準的治療実施率(2012 年、沖縄県、7 施設) *9 —大腸がん術後化学療法実施率 —高リスク催吐化学療法制吐剤処方率 —外来麻薬鎮痛開始時緩下剤	38.7% 今回は測定困難 今回は測定困難	
-	5 年相対生存率(2007-2008 年診断) *7 —大腸	64.8%		
C1	大腸便潜血検 査実施数	「大腸便潜血検査」実施の市町村数	[ ] 市町村数	41 市町 村
C2	精検受診率	精検受診率(2012 年度、( )内は 2009 年 実施分) *10—大腸	[ ]% (56.4)	
	-	精検受診率の目標値 90%以上*11 を達成し ている市町村数、割合—大腸	[ ]市町村数 [ ]%	
	-	未把握率の目標値 5%以下 *11 を達成して いる市町村数、割合—大腸	[ ]市町村数 [ ]%	
	-	精検未受診率の目標値 5%以下*11 を達成 している市町村数、割合—大腸	[ ]市町村数 [ ]%	

	略称	内容	数値など	目標
C2	-	精検未受診・未把握率の目標値 10%以下 <sup>*11</sup> を達成している市町村数、割合ー大腸	[ ]市町村数 [ ]%	
	-	要精検率の許容値 <sup>*11</sup> を達成している市町村数、割合ー大腸	[ ]市町村数 [ ]%	
	-	がん発見率の許容値 <sup>*11</sup> を達成している市町村数、割合ー大腸	[ ]市町村数 [ ]%	
	-	陽性反応適中度の許容値 <sup>11</sup> を達成している市町村数、割合ー大腸	[ ]市町村数 [ ]%	
C3	検診受診率	検診受診率（40-69歳の受診率）（2013年、()内は2010年） <sup>*12</sup> ー大腸	男 35.2% (24.0) 女 31.5% (22.7)	40%
C4	罹患あたり専門医療者数	県における、がん罹患（2011年） <sup>*3</sup> 1000人あたりの各専門医療従事者数 ー（公社）日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医 がん罹患 1000人あたり	0.3 (2、1032) <sup>*13</sup>	8 <sup>*14</sup>
		ー（公社）日本看護協会 皮膚・排泄ケア認定看護師 ーがん罹患 1000人あたり	1.9 (13、2040) <sup>*15</sup>	20
C5	肛門温存手術実施件数	肛門温存手術実施件数	今回は 測定困難	
	-	身体障害者手帳交付状況 <sup>*16</sup>		
	-	ストーマ装具給付券の給付状況 <sup>*16</sup>		
	-	ストーマ給付額 <sup>*16</sup>		
	-	オストメイト対応トイレの現況 <sup>*17</sup>		
	-	ストーマ研修会実施回数		

<sup>\*1</sup> 国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター  
[http://gdb.ganjoho.jp/graph\\_db/index](http://gdb.ganjoho.jp/graph_db/index)

<sup>\*2</sup> 沖縄県福祉保健部健康増進課、沖縄県環境生活部衛生環境研究所、平成22年度沖縄県がん登録事業報告（平成19年の罹患集計）、平成23年9月



- \*<sup>3</sup> 沖縄県保健医療部. 平成 27 年度沖縄県がん登録事業報告（平成 23 年（2011 年）の罹患集計）. 平成 27 年 7 月
- \*<sup>4</sup> 「既存統計資料に基づくがん対策進捗の評価手法に関する実証的研究」平成 23 年度報告書. 2012. 進行度分布最良県は、胃と肺では新潟、大腸と子宮頸では長崎、乳房では宮城（罹患率は 2004 年 - 2006 年）
- \*<sup>5</sup> 都道府県がん診療連携拠点病院：琉球大学医学部附属病院  
 地域がん診療連携拠点病院：那覇市立病院、沖縄県立中部病院  
 地域がん診療病院：沖縄県立宮古病院
- \*<sup>6</sup> がん診療連携支援病院：北部地区医師会病院、沖縄県立八重山病院
- \*<sup>7</sup> 沖縄県がん登録資料
- \*<sup>8</sup> 主治療カバー率 = 
$$\frac{\text{当該治療機関における治療件数}}{\text{沖縄県全体の新発届出患者数}} \times 100$$
- \*<sup>9</sup> 国立がん研究センターがん対策情報センター. 院内がん登録－D P C 突合データ
- \*<sup>10</sup> 平成 25 年度地域保健・健康増進事業報告（健康増進編）
- \*<sup>11</sup> 今後の我が国におけるがん検診事業評価の在り方について（報告書）. 平成 20 年 3 月
- \*<sup>12</sup> 平成 22 年国民生活基礎調査（健康票）、平成 25 年国民生活基礎調査（健康票）
- \*<sup>14</sup> 沖縄県におけるがん医療に携わる医療従事者数
- \*<sup>14</sup> ()内は沖縄、全国の専門医数。2015 年 7 月 14 日現在。
- \*<sup>15</sup> ()内は沖縄、全国の登録者数。2015 年 7 月 14 日現在。
- \*<sup>16</sup> 公益社団法人日本オストミー協会 <http://www.joa-net.org/-report/>
- \*<sup>17</sup> 公益社団法人日本オストミー協会 <http://www.joa-net.org/>

指標リストー肺がん

	略称	内容	数値など	目標
A1	死亡率	年齢調整死亡率(人口 10 万対)(2013 年、() 内は 2010 年) *1ー肺	23.4 (23.5)	
B1	罹患率	年齢調整罹患率(人口 10 万対)(2011 年、() 内は 2007 年)ー肺	33.5 (43.5)	
B2	早期診断割合	早期診断割合(上皮内がん+限局割合、 2011 年、()内は 2007 年) *2、3ー肺	26.8% (30.2) 【最良県*4 : 36.6%】	
B3	進行度別 5 年 生存率	進行度別 5 年相対生存率 ー肺 限局 領域 遠隔転移	[ ]% [ ]% [ ]%	
	-	がん診療(連携拠点)病院*5 及びがん診療 連携支援病院*6、専門医療機関の主治療力 パー率(2011 年) *7、8ー肺	[ ]%	
	-	標準的治療実施率(2012 年、沖縄県、7 施設) *9 ー早期肺がん外科・定位放射実施率 ー肺がん術後化学療法実施率 ー高リスク催吐化学療法制吐剤処方率 ー外来麻薬鎮痛開始時緩下剤	今回は測定困難 42.1% 今回は測定困難 今回は測定困難	
	-	5 年相対生存率(2007-2008 年診断) *7 ー肺	30.0%	
	C1	成人喫煙率	成人喫煙率(2013 年、()内は 2010 年) *3	男 32.0% (32.2) 女 9.5% (9.3)
-	妊娠中の喫煙率(())内は計画策定時)	[ ]% (4.6%)		0%
-	未成年者の喫煙率(())内は 2011 年)	男[ ]% (1.8%) 女[ ]% (2.0%)		0%
-	県民一人あたりの年間タバコ消費本数(()) 内は計画策定時)	[ ]本 (1657 本)		減少

	略称	内容	数値など	目標
C2	非喫煙者の胸部×線実施数	「非喫煙者に対する胸部×線検査」実施の市町村数	[ ] 市町村数	41 市町村
	ヘビースモーカーの胸部×線+喀痰細胞診の実施数	「ヘビースモーカーに対する胸部×線検査+喀痰細胞診」実施の市町村数	[ ] 市町村数	41 市町村
C3	精検受診率	精検受診率（2012 年度、()内は 2009 年実施分） <sup>*11</sup> —肺	[ ]% (47.8)	100%
	-	精検受診率の目標値 90%以上 <sup>*12</sup> を達成している市町村数、割合—肺	[ ]市町村数 [ ]%	100%
	-	未把握率の目標値 5%以下 <sup>*12</sup> を達成している市町村数、割合—肺	[ ]市町村数 [ ]%	100%
	-	精検未受診率の目標値 5%以下 <sup>*12</sup> を達成している市町村数、割合—肺	[ ]市町村数 [ ]%	100%
	-	精検未受診・未把握率の目標値 10%以下 <sup>*12</sup> を達成している市町村数、割合—肺	[ ]市町村数 [ ]%	100%
	-	要精検率の許容値 <sup>*12</sup> を達成している市町村数、割合—肺	[ ]市町村数 [ ]%	100%
	-	がん発見率の許容値 <sup>*12</sup> を達成している市町村数、割合—肺	[ ]市町村数 [ ]%	100%
	-	陽性反応適中度の許容値 <sup>*12</sup> を達成している市町村数、割合—肺	[ ]市町村数 [ ]%	100%
C4	検診受診率	検診受診率（40-69 歳の受診率）（2013 年、()内は 2010 年） <sup>*13</sup> —肺	男 42.9% (23.6) 女 38.9% (25.1)	} 40%

	略称	内容	数値など	目標
C5	罹患あたり専門医療者数	県における、がん罹患（2011年） <sup>*3</sup> 1000人あたりの各専門医療従事者数 －呼吸器外科専門医合同委員会 呼吸器外科専門医 肺がん罹患 1000人あたり  －（公社）日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医がん罹患 1000人あたり	7.2 (6、1338) <sup>*14</sup>  0.3 (2、1032) <sup>*16</sup>	14 <sup>*15</sup>  8
C5	EGFR 遺伝子変異検査数	EGFR 遺伝子変異検査数	今回は測定困難	

<sup>\*1</sup> 国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター

[http://gdb.ganjoho.jp/graph\\_db/index](http://gdb.ganjoho.jp/graph_db/index)

<sup>\*2</sup> 沖縄県福祉保健部健康増進課、沖縄県環境生活部衛生環境研究所、平成 22 年度沖縄県がん登録事業報告（平成 19 年の罹患集計）、平成 23 年 9 月

<sup>\*3</sup> 沖縄県保健医療部、平成 27 年度沖縄県がん登録事業報告（平成 23 年（2011 年）の罹患集計）、平成 27 年 7 月

<sup>\*4</sup> 「既存統計資料に基づくがん対策進捗の評価手法に関する実証的研究」平成 23 年度報告書、2012、進行度分布最良県は、胃と肺では新潟、大腸と子宮頸では長崎、乳房では宮城（罹患率は 2004 年 - 2006 年）

<sup>\*5</sup> 都道府県がん診療連携拠点病院：琉球大学医学部附属病院  
地域がん診療連携拠点病院：那覇市立病院、沖縄県立中部病院  
地域がん診療病院：沖縄県立宮古病院

<sup>\*6</sup> がん診療連携支援病院：北部地区医師会病院、沖縄県立八重山病院

<sup>\*7</sup> 沖縄県がん登録資料

<sup>\*8</sup> 主治療カバー率 =  $\frac{\text{当該治療機関における治療件数}}{\text{沖縄県全体の原発届出患者数}} \times 100$

<sup>\*9</sup> 国立がん研究センターがん対策情報センター、院内がん登録－DPC 突合データ

<sup>\*10</sup> 国民生活基礎調査(2010 年)、国民生活基礎調査(2013 年)

<sup>\*11</sup> 平成 25 年度地域保健・健康増進事業報告（健康増進編）

<sup>\*12</sup> 今後の我が国におけるがん検診事業評価の在り方について（報告書）、平成 20 年 3 月

<sup>\*13</sup> 平成 22 年国民生活基礎調査（健康票）、平成 25 年国民生活基礎調査（健康票）

<sup>\*14</sup> ()内は沖縄、全国の専門医数。2015 年 6 月現在。

<sup>\*15</sup> 沖縄県におけるがん医療に携わる医療従事者数

<sup>\*16</sup> ()内は沖縄、全国の登録者数。2015 年 7 月 14 日現在。

指標リストー乳がん

	略称	内容	数値など	目標
A1	死亡率	年齢調整死亡率(人口 10 万対)(2013 年、 ( )内は 2010 年) *1ー乳房(女)	12.1 (13.5)	
B1	早期診断割合	早期診断割合(上皮内がん+限局割合、 2011 年、( )内は 2007 年) *2、3ー乳房(女)	70.3% (67.1) 【最良県*4： 64.0%】	
B2	進行度別 5 年 生存率	進行度別 5 年相対生存率 ー乳 限局 領域 遠隔転移	[ ]% [ ]% [ ]%	
	-	がん診療(連携拠点)病院*5 及びがん診療 連携支援病院*6、専門医療機関の主治療カ パー率(2011 年) *7、8ー乳房	[ ]%	
	-	標準的治療実施率(2012 年、沖縄県、7 施設) *9 ー乳房温存術後全乳房照射実施率 ー乳切後放射線療法実施率 ー高リスク催吐化学療法制吐剤処方率 ー外来麻薬鎮痛開始時緩下剤	34.5% 今回は測定困難 今回は測定困難 今回は測定困難	
	-	5 年相対生存率(2007-2008 年診断) *7 ー乳房	91.9%	
	C1	未推奨検診の 実施数、割合	「有効性が確認・推奨されていない検診」 実施の市町村数、割合 ー超音波検査/視触診単独の乳がん検診	[ ]市町村、 [ ]%
	-	「乳房マンモグラフィ検査」実施の市町 村数	[ ]市町村	41 市町 村
C2	精検受診率	精検受診率(2012 年度、( )内は 2009 年 実施分) *10ー乳房	[ ]% (74.9)	100%
	-	精検受診率の目標値 90%以上*11 を達成し ている市町村数、割合ー乳房	[ ]市町村 [ ]%	

	略称	内容	数値など	目標
C2	-	未把握率の目標値 5%以下 <sup>*11</sup> を達成している市町村数、割合－乳房	[ ]市町村 [ ]%	
	-	精検未受診率の目標値 5%以下 <sup>*11</sup> を達成している市町村数、割合－乳房	[ ]市町村 [ ]%	
	-	精検未受診・未把握率の目標値 10%以下 <sup>*11</sup> を達成している市町村数、割合－乳房	[ ]市町村 [ ]%	
	-	要精検率の許容値 <sup>*11</sup> を達成している市町村数、割合－乳房	[ ]市町村 [ ]%	
	-	がん発見率の許容値 <sup>*11</sup> を達成している市町村数、割合－乳房	[ ]市町村 [ ]%	
	-	陽性反応適中度の許容値 <sup>*11</sup> を達成している市町村数、割合－乳房	[ ]市町村 [ ]%	
C3	検診受診率	検診受診率（40-69 歳の受診率）（2013年、()内は 2010 年） <sup>*12</sup> －乳房	女 50.4% (44.9)	50%
C4	罹患あたり専門医療者数	県における、がん罹患（2011 年） <sup>*3</sup> 1000 人あたりの各専門医療従事者数 －（一社）日本乳癌学会 乳腺専門医 乳がん罹患 1000 人あたり	18.3 (14、1334) <sup>*13</sup>	11 <sup>*14</sup>
		－（一社）日本形成外科学会 形成外科専門医 乳がん罹患 1000 人あたり	30.0 (23) <sup>*15</sup>	
		－（公社）日本看護協会 乳がん看護認定看護師 乳がん罹患 1000 人あたり	5.2 (4、1244) <sup>*16</sup>	3
C5	乳房再建術の手術件数	乳房再建術（乳房切除後）の手術件数 －琉球大学医学部附属病院 －那覇市立病院 －沖縄県立中部病院	0 件 0 件 0 件	

	略称	内容	数値など	目標
C5	乳房再建術の手術件数	乳房再建術（乳房切除後）の手術件数 － 沖縄県立宮古病院	0件	
	-	リンパ浮腫外来 － 琉球大学医学部附属病院 － 那覇市立病院 － 沖縄県立中部病院 － 沖縄県立宮古病院	なし あり あり なし	
	- -	リンパ浮腫指導管理料 － 琉球大学医学部附属病院 － 那覇市立病院 － 沖縄県立中部病院 － 沖縄県立宮古病院	あり、46件 あり、48件 あり、13件 なし	

\*1 国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター

[http://gdb.ganjoho.jp/graph\\_db/index](http://gdb.ganjoho.jp/graph_db/index)

\*2 沖縄県福祉保健部健康増進課、沖縄県環境生活部衛生環境研究所、平成 22 年度沖縄県がん登録事業報告（平成 19 年の罹患集計）、平成 23 年 9 月

\*3 沖縄県保健医療部、平成 27 年度沖縄県がん登録事業報告（平成 23 年（2011 年）の罹患集計）、平成 27 年 7 月

\*4 「既存統計資料に基づくがん対策進捗の評価手法に関する実証的研究」平成 23 年度報告書、2012、進行度分布最良県は、胃と肺では新潟、大腸と子宮頸では長崎、乳房では宮城（罹患率は 2004 年 - 2006 年）

\*5 都道府県がん診療連携拠点病院：琉球大学医学部附属病院  
地域がん診療連携拠点病院：那覇市立病院、沖縄県立中部病院  
地域がん診療病院：沖縄県立宮古病院

\*6 がん診療連携支援病院：北部地区医師会病院、沖縄県立八重山病院

\*7 沖縄県がん登録資料

\*8 主治療カバー率 =  $\frac{\text{当該治療機関における治療件数}}{\text{沖縄県全体の原発届出患者数}} \times 100$

\*9 国立がん研究センターがん対策情報センター、院内がん登録－DPC 突合データ

\*10 平成 25 年度地域保健・健康増進事業報告（健康増進編）

\*11 今後の我が国におけるがん検診事業評価の在り方について（報告書）、平成 20 年 3 月

\*12 国民生活基礎調査(2010 年)、国民生活基礎調査(2013 年)

\*13 ()内は沖縄、全国の専門医数。2015 年 4 月 21 日現在。

\*14 沖縄県におけるがん医療に携わる医療従事者数

\*15 ()内は沖縄の専門医数。2015 年 7 月 1 日現在。

\*16 ()内は沖縄、全国の登録者数。2015 年 7 月 14 日現在。

指標リストー子宮がん

	略称	内容	数値など	目標
A1	死亡率	年齢調整死亡率(人口 10 万対)(2013 年、 ( )内は 2010 年) *1ー子宮	7.3 (7.6)	
B1	早期診断割合	早期診断割合(上皮内がん+限局割合、 2011 年、( )内は 2007 年) *2、3ー子宮頸部	81.2%(67.9) 【最良県*4 : 78.2%】	
B2	進行度別 5 年 生存率	進行度別 5 年相対生存率		
		ー子宮頸部 限局	[ ]%	
		領域	[ ]%	
		遠隔転移	[ ]%	
		ー子宮体部 限局	[ ]%	
		領域	[ ]%	
		遠隔転移	[ ]%	
-		がん診療(連携拠点)病院*5 及びがん診療 連携支援病院*6、専門医療機関の主治療力 パー率(2011 年) *7、8		
		ー子宮頸部	[ ]%	
		ー子宮体部	[ ]%	
-		標準的治療実施率(2012 年、沖縄県、7 施設) *9		
		ー高リスク催吐化学療法制吐剤処方率	今回は測定困難	
		ー外来麻薬鎮痛開始時緩下剤	今回は測定困難	
-		5 年相対生存率(2007-2008 年診断) *7		
		ー子宮頸部	64.8%	
		ー子宮体部	82.2%	
C1	子宮頸部擦過 細胞診数	「子宮頸部擦過細胞診」実施の市町村数	[ ]市町村	41 市町 村
C2	精検受診率	精検受診率(2012 年度、( )内は 2009 年 実施分) *10ー子宮頸	[ ]%(60.0)	100%
	-	精検受診率の目標値 90%以上*11 を達成し ている市町村数、割合ー子宮頸	[ ]市町村 [ ]%	100%



	略称	内容	数値など	目標
C2	-	未把握率の目標値 5%以下 <sup>*11</sup> を達成している市町村数、割合—子宮頸	[ ]市町村 [ ]%	100%
	-	精検未受診率の目標値 5%以下 <sup>*11</sup> を達成している市町村数、割合—子宮頸	[ ]市町村 [ ]%	100%
	-	精検未受診・未把握率の目標値 10%以下 <sup>*11</sup> を達成している市町村数、割合—子宮頸	[ ]市町村 [ ]%	100%
	-	要精検率の許容値 <sup>*11</sup> を達成している市町村数、割合—子宮頸	[ ]市町村 [ ]%	100%
	-	がん発見率の許容値 <sup>*11</sup> を達成している市町村数、割合—子宮頸	[ ]市町村 [ ]%	100%
	-	陽性反応適中度の許容値 <sup>*11</sup> を達成している市町村数、割合—子宮頸	[ ]市町村 [ ]%	100%
C3	検診受診率	検診受診率（20-69 歳の受診率）（2013年、()内は 2010 年） <sup>*12</sup> —子宮頸	47.1% (41.8)	50%
C4	罹患あたりの専門医療数	県における、がん罹患（2011 年） <sup>*3</sup> 1000 人あたりの各専門医療従事者数 —（公社）日本医学放射線学会 放射線治療専門医 —（公社）日本産科婦人科学会 産婦人科専門医 子宮がん罹患 1000 人あたり  —（公社）日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医 がん罹患 1000 人あたり	今回は測定困難  519.9 (157、12892) <sup>*13</sup>  0.3 (2、1032) <sup>*14</sup>	8 <sup>*15</sup>

	略称	内容	数値など	目標
C5	精子保存を行った患者数	がんの治療に際する妊孕性温存目的で精子保存を行った患者の数 －琉球大学医学部附属病院 －那覇市立病院 －沖縄県立中部病院 －沖縄県立宮古病院	30人 0人 0人 -	
	未受精卵子凍結保存を行った患者数	がんの治療に際する妊孕性温存目的で未受精卵子凍結保存を行った患者の数 －琉球大学医学部附属病院 －那覇市立病院 －沖縄県立中部病院 －沖縄県立宮古病院	2人 0人 0人 -	
	-	リンパ浮腫外来 －琉球大学医学部附属病院 －那覇市立病院 －沖縄県立中部病院 －沖縄県立宮古病院	なし あり あり なし	
	-	リンパ浮腫指導管理料 －琉球大学医学部附属病院 －那覇市立病院 －沖縄県立中部病院 －沖縄県立宮古病院	あり、46件 あり、48件 あり、13件 なし	

\*1 国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター  
[http://gdb.ganjoho.jp/graph\\_db/index](http://gdb.ganjoho.jp/graph_db/index)

\*2 沖縄県福祉保健部健康増進課、沖縄県環境生活部衛生環境研究所、平成22年度沖縄県がん登録事業報告（平成19年の罹患集計）、平成23年9月

\*3 沖縄県保健医療部、平成27年度沖縄県がん登録事業報告（平成23年（2011年）の罹患集計）、平成27年7月

\*4 「既存統計資料に基づくがん対策進捗の評価手法に関する実証的研究」平成23年度報告書、2012、進行度分布最良県は、胃と肺では新潟、大腸と子宮頸では長崎、乳房では宮城（罹患率は2004年 - 2006年）

\*5 都道府県がん診療連携拠点病院：琉球大学医学部附属病院  
地域がん診療連携拠点病院：那覇市立病院、沖縄県立中部病院  
地域がん診療病院：沖縄県立宮古病院

\*6 がん診療連携支援病院：北部地区医師会病院、沖縄県立八重山病院

\*7 沖縄県がん登録資料

$$*8 \text{ 主治療カバー率} = \frac{\text{当該治療機関における治療件数}}{\text{沖縄県全体の新発届出患者数}} \times 100$$

\*9 国立がん研究センターがん対策情報センター. 院内がん登録－DPC突合データ

\*10 平成 25 年度地域保健・健康増進事業報告（健康増進編）

\*11 今後の我が国におけるがん検診事業評価の在り方について（報告書）. 平成 20 年 3 月

\*12 国民生活基礎調査(2010 年)、国民生活基礎調査(2013 年)

\*13 ()内は沖縄、全国の専門医数。2014 年 11 月 7 日現在。

\*14 ()内は沖縄、全国の専門医数。2015 年 7 月 14 日現在。

\*15 沖縄県におけるがん医療に携わる医療従事者数

指標リストー比較的少ないがん

	略称	内容	数値など	目標
A1	5年生存率	5年相対生存率（2007-2008年診断） <sup>*1</sup> ー口腔・咽頭 ー食道 ー胆のう・胆管 ー膵臓 ー喉頭 ー皮膚 ー子宮頸部 ー子宮体部 ー卵巣 ー前立腺 ー膀胱 ー腎・尿路（膀胱除く） ー脳・中枢神経系 ー甲状腺 ー悪性リンパ腫 ー多発性骨髄腫 ー白血病	53.9% 30.6% 28.6% 9.6% 63.9% 84.0% 64.8% 82.2% 67.1% 95.6% 63.6% 67.9% 25.4% 94.3% 54.6% 40.8% 31.9%	
	-	比較的少ないがんの標準的治療実施率 ー高リスク催吐化学療法制吐剤処方率 ー外来麻薬鎮痛開始時緩下剤処方率	今回は 測定困難	
B1	主治療カバー率	専門医療機関の主治療カバー率(2011年) <sup>*1, 2</sup> ー口腔・咽頭 ー食道 ー胆のう・胆管 ー膵臓 ー喉頭 ー皮膚 ー子宮頸部 ー子宮体部 ー卵巣 ー前立腺 ー膀胱 ー腎・尿路（膀胱除く）	[ ] % [ ] % [ ] % [ ] % [ ] % [ ] % [ ] % [ ] % [ ] % [ ] % [ ] % [ ] %	

	略称	内容	数値など	目標
B1	主治療カバー率	ー脳・中枢神経系 ー甲状腺 ー悪性リンパ腫 ー多発性骨髄腫 ー白血病	[        ] % [        ] % [        ] % [        ] % [        ] %	
	-	中期（5年）ビジョンの進捗結果	アクションプランは未作成	
B2	相談センター有効の割合	「がん相談支援センター（またはがんについての相談窓口）を利用して、欲しいと思った情報や希望に沿った支援が得られた」と回答した患者の割合（問20） <sup>*3</sup>		
	説明と情報提供の割合②	医師ががん患者とその家族に、治療の説明など必要な説明と情報を提供している割合（問26） <sup>*4</sup>		
C1	中間ビジョン策定組織の設置	中間ビジョンを策定する組織の設置	未設置	
	-	罹患数、年齢調整罹患率（人口10万対）（2011年） <sup>*5</sup> ー口腔・咽頭 ー食道 ー胆のう・胆管 ー膵臓 ー喉頭 ー皮膚 ー子宮頸部 ー子宮体部 ー卵巣 ー前立腺 ー膀胱 ー腎尿路（膀胱除く） ー脳・中枢神経系 ー甲状腺 ー悪性リンパ腫 ー多発性骨髄腫 ー白血病	191、9.5 122、5.6 211、7.9 218、10.3 35、1.6 208、7.6 143、16.8 141、17.6 84、10.5 450、43.1 111、4.5 185、9.4 59、3.7 129、7.7 179、9.1 81、3.4 199、10.3	

	略称	内容	数値など	目標
C2	相談窓口の利用状況	相談窓口（患者・医療者向け）の利用状況	今回は測定困難	

\*1 沖縄県がん登録資料

\*2 主治療カバー率 =  $\frac{\text{当該治療機関における治療件数}}{\text{沖縄県全体の新発届出患者数}} \times 100$

\*3 沖縄県保健医療部保健医療政策課. 「患者さん・ご家族のみなさんへ」(2015年版). 2015年●月～●月

\*4 沖縄県保健医療部保健医療政策課. 「医療者のみなさんへ」(2015年版). 2015年●月～●月

\*5 沖縄県保健医療部. 平成27年度沖縄県がん登録事業報告(平成23年(2011年)の罹患集計). 平成27年7月

指標リストー小児（15歳未満）・AYA世代（15～29歳）のがん

	略称	内容	数値など	目標
A1	5年生存率	5年相対生存率（2007-2008年診断） <sup>*1</sup> －小児がん	61.9%	
	-	専門医療機関の主治療カバー率(2011年) <sup>*1、2</sup> ①小児がん －白血病 －悪性リンパ腫 －脳腫瘍 －骨軟部腫瘍 －神経芽腫 －腎芽腫 －肝芽腫 －網膜芽腫 ②AYA世代のがん －白血病 －悪性リンパ腫 －脳腫瘍 －骨軟部腫瘍	[ ] % [ ] % [ ] % [ ] % [ ] % [ ] % [ ] % [ ] % [ ] % [ ] % [ ] % [ ] % [ ] % [ ] %	
	-	小児およびAYA世代のがんの標準的治療実施率 －高リスク催吐化学療法制吐剤処方率 －外来麻薬鎮痛開始時緩下剤処方率	今回は測定困難	
	B1	県指定小児がん病院の設置	県指定小児がん病院の設置	未設置
	-	小児プロトコールの実施率	今回は測定困難	
	-	中期（5年）ビジョンの進捗結果	アクションプランは未作成	
B2	長期フォローアップ率	長期フォローアップ率 ①小児がん －白血病 －悪性リンパ腫 －脳腫瘍 －骨軟部腫瘍 －神経芽腫 －腎芽腫	今回は測定困難	

	略称	内容	数値など	目標
B2	長期フォローアップ率	長期フォローアップ率 ①小児がん －肝芽腫 －網膜芽腫 ②AYA世代のがん －白血病 －悪性リンパ腫 －脳腫瘍 －骨軟部腫瘍	今回は測定困難  今回は測定困難	
	治療後支援ありの割合	「治療後に、自分が思うような日常生活を送るのに必要な支援を受けている」と回答した患者の割合（問26） <sup>*3</sup>		
B3	相談センター有効の割合	「がん相談支援センター（またはがんについての相談窓口）を利用して、欲しいと思った情報や希望に沿った支援が得られた」と回答した患者の割合（問20） <sup>*3</sup>		
	説明と情報提供の割合②	医師ががん患者とその家族に、治療の説明など必要な説明と情報を提供している割合（問26） <sup>*4</sup>		
C1	中間ビジョン策定組織の設置	中間ビジョンを策定する組織の設置	未設置	
	-	罹患数、罹患割合 <sup>*1</sup> (2011年) ①小児がん －白血病 －悪性リンパ腫 －脳腫瘍 －骨軟部腫瘍 －神経芽腫 －腎芽腫 －肝芽腫 －網膜芽腫 ②AYA世代のがん －白血病 －悪性リンパ腫 －脳腫瘍 －骨軟部腫瘍	[ ]、[ ]% [ ]、[ ]% [ ]、[ ]% [ ]、[ ]% [ ]、[ ]% [ ]、[ ]% [ ]、[ ]% [ ]、[ ]% [ ]、[ ]% [ ]、[ ]% [ ]、[ ]% [ ]、[ ]% [ ]、[ ]%	



	略称	内容	数値など	目標
C1		臨床心理士数		
		保育士数		
		チャイルドライフスペシャリストまたは ホスピタルプレイ士数		
		セカンドオピニオン対応（小児）		
		遠方からの患者家族の宿泊施設		
C2				
C3	長期フォロー アップ外来の 開設	長期フォローアップ外来の開設	未開設	
		受け入れ支援マニュアル（教育関係者向 け）の作成	未作成	
		重籍等の学校制度の整備		
		合同カンファレンスの開催（医療関係者 と教育関係者）		
		教育関係者向けのホットラインの設置	未設置	
C4	院内学級あり の施設数	院内学級を開催しているがん診療（連携 拠点）病院 <sup>*5</sup> 数（院内学級とは、院内に設 置された小・中特別支援学級、特別支援 学校を指す） <sup>*6</sup>	4 施設中 3 施 設	
C5	相談窓口の利 用状況	相談窓口の利用状況 －小児・AYA 世代のがんの相談窓口（患 者・医療者向け）	未設置	

\*1 沖縄県がん登録資料

\*2 主治療カバー率 =  $\frac{\text{当該治療機関における治療件数}}{\text{沖縄県全体の新発届出患者数}} \times 100$

\*3 沖縄県保健医療部保健医療政策課。「患者さん・ご家族のみなさんへ」（2015年版）。2015年●月～●月

\*4 沖縄県保健医療部保健医療政策課。「医療者のみなさんへ」（2015年版）。2015年●月～●月

\*5 都道府県がん診療連携拠点病院：琉球大学医学部附属病院

地域がん診療連携拠点病院：那覇市立病院、沖縄県立中部病院

地域がん診療病院：沖縄県立宮古病院

\*<sup>6</sup>厚生労働省、「新規指定・指定更新推薦書」または「現況報告書」、2014年10月

(案)

保医第 号  
平成 年 月 日

別紙各病院長 へ

沖縄県保健医療部保健医療政策課長 へ

沖縄県がん対策推進計画中間評価に係る患者等  
アンケートへの協力依頼について

平素より本県がん医療の推進について御協力いただき、感謝申し上げます。

沖縄県では「沖縄県がん対策推進条例」及び「沖縄県がん対策推進計画」を制定・策定し、がん対策の施策を推進しているところです。

今年度は「沖縄県がん対策推進計画」の中間評価を行うことになっており、その結果は次期計画へ反映されます。そのため県では、「がん対策」を進めるにあたり県民の声を施策に反映させる目的で、国立大学法人琉球大学医学部附属病院に委託し患者等アンケートを実施いたします。

つきましては、本アンケートの趣旨に御理解いただき、本アンケートの対象となる患者様の選定等、下記のとおり対応して頂きますよう御協力お願い申し上げます。

## 記

## 1. 作業内容

- (1) アンケート対象となる患者様の選定
- (2) アンケート等の袋詰め、患者様への発送

## 2. 調査票

別添 1 「患者さん・ご家族のみなさまへ」のとおり

※必要部数は後日、本アンケートの実施を委託しております琉球大学医学部附属病院から貴機関へ送付いたします。

## 3. 作業方法

別添 2 「手順書」のとおり

## 3. お問い合わせ先

国立大学法人琉球大学医学部附属病院 がんセンター 小林

※県からの本アンケート受託先。連絡先等は別添「手順書」参照

※今後の連絡調整を円滑に行いたいため、貴医療機関の担当される方は琉大病院がんセンターの小林へ連絡をお願いします。

## 担 当

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1 - 2 - 2

沖縄県保健医療部保健医療政策課

主査 高江洲

TEL : 098-866-2169 FAX : 098-866-2714

## 患者さん・ご家族のみなさまへ (案)

～沖縄県におけるがん医療をより充実させるため、アンケートにご協力をお願いします～

沖縄県では、平成 25 年 4 月に沖縄県がん対策推進計画（第 2 次）を策定し、県と市町村、保健医療関係者、県民、事業者、関係機関・団体等が一体となって、がんの予防、がんの早期発見、がん医療などのがん対策に取り組んでいます。今年度はこれら取り組みの評価を行う年です。

本アンケートは、沖縄県のがん医療をより充実させるため、国立大学法人琉球大学医学部附属病院が沖縄県からの依頼を受け実施することになりました。今回、あなたの受診された施設が選ばれ、その施設を受診された患者さんの中から、選ばれた患者さんを対象に、調査票をお送りしております。大変お手数ですが、ご協力をお願いします。

このアンケートの回答は任意であり、回答しないことで不利益が生じることはありません。また、回答いただいた内容を調査の目的以外に使用することは一切ありません。

お手数をおかけし大変申し訳ございませんが、ご記入の上、平成 28 年 1 月 15 日（金）までに返信用封筒を使って、郵便ポストへ投函していただきますようお願い申し上げます。

### ご記入についてのお願い

- ◆アンケートは、患者さんご本人（封筒の宛名の方）についてお伺いするものです。
- ◆ご高齢・病状などにより、患者さんご本人にご記入いただくことが困難な場合は、ご家族や代理の方がご記入ください。
- ◆アンケートの宛名の患者さんが亡くなられている場合でも、患者さんご本人の体験について代理の方が可能な範囲でご回答ください。
- ◆設問の回答は、直接この調査票の該当する項目に、鉛筆またはボールペンで○をお付けください。

#### <調査票の返送先>

ご記入後は、この調査票を同封の返信用封筒に入れ、平成 28 年 1 月 15 日（金）までにポストへ投函してください。切手は不要です。

無記名調査ですので、調査票・返信用封筒には住所・氏名を記入しないでください。

#### <この調査に関するお問い合わせ先>

調査受託先：琉球大学医学部附属病院 がんセンター

〒903-0215 沖縄県西原町字上原 207 番地

TEL：098-895-1374

※電話受付時間：平日 9：00 ～ 17：00

【質問スタートです】

あてはまる回答を1つ選び、数字に○をお付けください。

問1. 記入者はどなたでしょうか？

- 1. 患者さんご本人(封筒の宛名の方)
- 2. ご本人以外(患者さんとの関係: \_\_\_\_\_)

<患者さんご本人(封筒の宛名の方)についてお答えください>

問2. 患者さんの性別をお答えください。

- 1. 男性
- 2. 女性

問3. 現在の患者さんの年齢をお答えください。

- 1. 20歳~29歳
- 2. 30歳~39歳
- 3. 40歳~49歳
- 4. 50歳~59歳
- 5. 60歳~69歳
- 6. 70歳~79歳
- 7. 80歳以上

問4. 患者さんのお住いの場所をお聞かせください。

- 1. 沖縄県離島市町村\*
- 2. 沖縄県離島市町村以外
- 3. 沖縄県外

\*沖縄県離島市町村：伊平屋村、伊是名村、伊江村、粟国村、渡名喜村、座間味村、渡嘉敷村、久米島町、北大東村、南大東村、宮古島市、多良間村、石垣市、竹富町、与那国村

問5. 患者さんは、がんと診断されたことがありますか？

- 1. ある
- 2. ない

がんと診断されたことがある方へ

引き続き、以下の質問にお答えください。  
回答にあたっては、患者さんの考えや状況に近い回答をご記入、または数字を1つ選び、○をお付けください。

がんと診断されたことがない方へ

質問は以上です。  
ご協力いただき、ありがとうございました。  
同封の返信用封筒で、平成28年1月15日(金)までにポストへ投函願います。

問6. あなたは、自分の受けた医療を100点満点で評価するなら、100点満点中何点になりますか？

点

問7. あなたは、チーム医療(診断・治療に関わる医師、看護師、他の医療スタッフが連携した医療)を受けられたと思いますか？

- 1. そう思う
- 2. ややそう思う
- 3. あまりそう思わない
- 4. そう思わない

問8. 診断または治療で、最初の医療機関から別の医療機関に紹介されてうつつ方にお聞きします。

あなたは、何ら支障なく、紹介先の医療機関を受診できたと思いますか？

- 1. そう思う
- 2. ややそう思う
- 3. あまりそう思わない
- 4. そう思わない

問9. あなたの医療にあたった医師などの医療スタッフは、あなたの希望に沿った医療を提供してくれたと思いますか？

- 1. そう思う
- 2. ややそう思う
- 3. あまりそう思わない
- 4. そう思わない

問10. あなたは、これまで診断や治療に疑問をいただいたことがありましたか？

- 1. よくあった
- 2. ときどきあった
- 3. あまりなかった
- 4. なかった

問11. 主治医、看護師などの医療スタッフは、あなたの話に耳を傾け、あなたが置かれている状況を踏まえ、対応してくれたと思いますか？

- 1. いつも対応してくれた
- 2. たいてい対応してくれた
- 3. 対応してくれないほうが多かった
- 4. ほとんど対応してくれなかった

問12. 主治医が病状や治療等について十分な説明と情報提供をしてくれたと思いますか？

- 1. そう思う
- 2. ややそう思う
- 3. あまりそう思わない
- 4. そう思わない

問13. 療養中に身体的・精神的・社会的苦痛が軽減された上で、かつ今の療養生活に満足していますか？

- 1. 満足している
- 2. やや満足している
- 3. あまり満足していない
- 4. 満足していない

問14. 現在の心身の状態についてお答えください。

①からだの苦痛がありますか？

- 1. そう思う
- 2. ややそう思う
- 3. あまりそう思わない
- 4. そう思わない

②気持ちがつらいですか？

- 1. そう思う
- 2. ややそう思う
- 3. あまりそう思わない
- 4. そう思わない

問15. 治療中および治療後の痛みに、主治医、看護師などの医療スタッフが対応しましたか？

- 1. 対応した
- 2. ときどき対応した
- 3. あまり対応しなかった
- 4. 対応しなかった
- 5. 痛みはなかった

問16. あなたは、痛みがあったらすぐに医療スタッフに痛みを相談できましたか？

- 1. できた
- 2. ある程度できた
- 3. あまりできなかった
- 4. まったくできなかった
- 5. 痛みはなかった

問17. がんと診断されたことによる心配や悩みは、何らかの支援によって現在は軽減されたと思いますか？

- 1. そう思う
- 2. ややそう思う
- 3. あまりそう思わない
- 4. そう思わない

裏面に続きます

問 18. あなたは、自分が思うような日常生活を送るのに必要な情報や支援を得られましたか？

1. 十分得られた 2. ある程度得られた 3. あまり得られなかった 4. まったく得られなかった

問 19. がん相談支援センター（または、がんについての相談窓口）を知っており、利用したことがありますか？

1. 利用したことがある 2. 利用したことはないが、知っている 3. 知らない

問 20. 【問 19 で、「1. 利用したことがある」とお答えした方にお聞きます。】

がん相談支援センター（または、がんについての相談窓口）を利用して、あなたが欲しいと思った情報や希望に沿った支援が得られましたか？

1. 十分得られた 2. ある程度得られた 3. あまり得られなかった 4. まったく得られなかった

問 21. ピアサポート（医療機関や患者会などにおけるがんの経験者による相談やサポート）を知っており、利用したことがありますか？

1. 利用したことがある 2. 利用したことはないが、知っている 3. 知らない

問 22. 【問 21 で、「1. 利用したことがある」とお答えした方にお聞きます。】

ピアサポートにより、あなたが欲しいと思った情報や希望に沿った支援が得られましたか？

1. 十分得られた 2. ある程度得られた 3. あまり得られなかった 4. まったく得られなかった

問 23. がんと診断されたことを理由に、生活の不安を感じましたか？

1. よく感じた 2. ときどき感じた 3. あまり感じなかった 4. まったく感じなかった

問 24. 治療費用の負担が原因で、以下のことはありましたか？

① がんの治療を変更した。または断念した。 1. あった 2. なかった

② 親戚や他の人から金銭的援助を受けた。 1. あった 2. なかった

③ 貯金をとりくずした。または借金をした。 1. あった 2. なかった

問 25. がんと診断されてからこれまで、周囲の対応が原因で、傷ついたことはどの程度ありましたか？

1. よくあった 2. ときどきあった 3. あまりなかった 4. まったくなかった

問 26. がんと診断された時 20 歳～29 歳だった方にお聞きます。

治療後に、あなたが思うような日常生活を送るのに必要な支援を受けられていると思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問 27. がんと診断された時、収入のある仕事をしていましたか？

1. はい、収入のある仕事をしていました 2. いいえ、収入のある仕事をしていなかった

**収入のある仕事をしていました方へ**

**引き続き、問 28・問 29 にお答えください。**

**収入のある仕事をしていなかった方へ**

**質問は以上です。**

ご協力いただき、ありがとうございました。  
同封の返信用封筒で、**平成 28 年 1 月 15 日(金)**  
**までに**ポストへ投函願います。

問 28. がんて初めて治療・療養した時、一定期間仕事を休みましたか？また、その後復職・復帰しましたか？

1. 休まなかった  
2. 現在まで継続して休んでいる  
3. 一定期間休み、その後、一度は復職・復帰した  
4. 一定期間休み、その後、一度も復職・復帰せずに退職・廃業した  
5. 一定期間の休みをとることなく、退職・廃業した  
6. その他（ ）

問 29. がんと診断された時、収入のある仕事をしていました方にお聞きます。

① 主治医、看護師などの医療スタッフから、就労を継続することに関して、必要な情報が十分得られましたか？

1. 十分得られた 2. ある程度得られた 3. あまり得られなかった 4. まったく得られなかった

② 主治医、看護師などの医療スタッフから、仕事をどのようにするのがよいか、何か相談にのってもらいましたか？

1. 相談にのってもらった 2. 相談にはのってもらっていないが、相談にのってもらう人を紹介してくれた  
3. 相談も紹介もなかった 4. 特に仕事に関して相談したいことはなかった

③ そのとき働いていた職場の上司に、がんと診断されたことを話しましたか？

1. 話した 2. 話さなかった

④ 【③で、「1. 話した」とお答えした方にお聞きます。】

そのとき働いていた職場の上司に、がんと診断されたことで勤務上の配慮をしてもらえましたか？

1. はい（勤務上の配慮をしてもらえた） 2. いいえ（勤務上の配慮をもらえなかった）

⑤ そのとき働いていた職場の同僚に、がんと診断されたことを話しましたか？

1. 話した 2. 話さなかった

質問は以上です。

ご協力いただき、ありがとうございました。

切手を貼らずに同封の返信用封筒に入れて、**平成 28 年 1 月 15 日(金)**までにポストに投函ください。

(案)

保医第 号  
平成 年 月 日

別紙各病院長 あて

沖縄県保健医療部保健医療政策課長 名

沖縄県がん対策推進計画中間評価に係る医療従事者  
アンケートへの協力依頼について

平素より本県がん医療の推進について御協力いただき、感謝申し上げます。

沖縄県では「沖縄県がん対策推進条例」及び「沖縄県がん対策推進計画」を制定・策定し、がん対策の施策を推進しているところです。

今年度は「沖縄県がん対策推進計画」の中間評価を行うことになっており、その結果は次期計画へ反映されます。現計画での各施策の達成度を測る指標の分析に必要なことから、県は国立大学法人琉球大学医学部附属病院に委託し、貴機関所属の医療従事者の皆様へ下記のとおりアンケートを実施いたします。

御多忙の折誠に恐縮ですが、本アンケートの趣旨に御理解いただき、御協力を賜りますようお願いいたします。

## 記

## 1. 調査票

別添1「医療者のみなさまへ」のとおり

※必要部数は後日、本アンケートの実施を委託しております琉球大学医学部附属病院から貴機関へ送付いたします。

## 2. 各医療機関のアンケート対象者

別添2のとおり

※割り振られた各職種が対象者を満たさない場合は、その他の職種の方が回答される等可能な限り割り当てております対象者数のご回答をお願いします。

## 3. 提出期限

平成27年12月15日（火）

## 4. 提出先及びお問い合わせ先

国立大学法人琉球大学医学部附属病院 がんセンター 小林

TEL：098-895-1368 E-mail：okoba@jim.u-ryukyu.ac.jp

※県からの本アンケート受託先。

※今後の連絡調整を円滑に行いたいため、貴医療機関の担当される方は琉大病院がんセンターの小林あて連絡をお願いします。

## 担 当

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2

沖縄県保健医療部保健医療政策課

主査 高江洲

TEL：098-866-2169 FAX：098-866-2714

## 医療者のみなさまへ (案)

～沖縄県におけるがん医療をより充実させるため、ご協力をお願いします～

沖縄県では、平成 25 年 4 月に沖縄県がん対策推進計画（第 2 次）を策定し、県と市町村、保健医療関係者、県民、事業者、関係機関・団体等が一体となって、がんの予防、がんの早期発見、がん医療などががん対策に取り組んでいます。今年度はこれら取り組みの評価を行う年です。

本アンケートは、沖縄県のがん医療をより充実させるため、国立大学法人琉球大学医学部附属病院が沖縄県からの依頼を受け実施することになりました。がん医療に携わっている医療者のみなさまに調査用紙をお送りしますので、大変お手数ですが、ご協力をお願いします。

このアンケートの回答は任意であり、回答しないことで不利益が生じることはありません。また、回答いただいた内容を調査の目的以外に使用することは一切ありません。

お手数をおかけし大変申し訳ございませんが、ご記入の上、平成 27 年 12 月 11 日（金）までにご記入のうえ、貴院のアンケート調査ご担当者様へお渡しください。

## ご記入についてお願い

がん医療についてお答えください。

- ◆アンケートは、医療者ご自身（医師・看護師・その他医療スタッフ）についてお伺いするものです。
- ◆設問の回答は、直接この調査票の該当する項目に、鉛筆またはボールペンで○をお付けください。

<調査票の返送について>

**平成 27 年 12 月 11 日(金)までに、貴院のアンケート調査ご担当者様へお渡しください。**  
無記名調査ですので、調査票には住所・氏名を記入しないでください。

<この調査に関するお問い合わせ先>

調査受託先：琉球大学医学部附属病院 がんセンター  
〒903-0215 沖縄県西原町字上原 207 番地  
TEL：098-895-1374  
※電話受付時間：平日 9：00～17：00

## 【質問スタートです】

あなたの考えや状況に近い回答を 1 つ選び、数字に「○」をお付けください。

問 1. あなたの職種をお答えください。

1. 医師 2. 看護師 3. 薬剤師 4. ソーシャルワーカー 5. その他 ( )

問 2. あなたの性別をお答えください。

1. 男性 2. 女性

問 3. あなたの年齢をお答えください。

1. 20 歳～29 歳 2. 30 歳～39 歳 3. 40 歳～49 歳 4. 50 歳～59 歳  
5. 60 歳～64 歳 6. 65 歳以上

問 4. あなたの施設の医療圏域をお答えください。

1. 北部医療圏 2. 中部医療圏 3. 南部医療圏 4. 八重山医療圏 5. 宮古医療圏

問 5. 異職種間で自由に意見できる雰囲気ですか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問 6. 医師は必要な情報を医療スタッフ（or あなた）と共有していると思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問 7. あなたは、必要に応じて自分の職種以外の役割を、補いつつ仕事をしようつとめていると思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問 8. あなたの担当するがん患者で、治療方針（告知等）の説明の際に、医師以外の職種も参加している割合は何%くらいですか。

1. 100% 2. 75%以上 100%未満 3. 50%以上 75%未満 4. 25%以上 50%未満 5. 25%未満

問 9. がん医療を行っていくうえで、他の医療機関との連携に困難感があると思いますか？

1. よくある 2. ときどきある 3. あまりない 4. まったくない

問 10. 専門医療機関に対してがん患者を紹介したときに受け入れてもらえますか？

1. 受け入れてくれる（断られることはめったにない） 2. たいてい受け入れてくれる（たまに断られる）  
3. どちらかという断られるほうが多い 4. ほとんど断られる

問 11. 他院へがん患者を紹介した際に、その後の経過について紹介先医療機関からの情報提供がありますか？

1. いつも十分ある 2. たいていは十分ある 3. たいてい不足している  
4. いつも不足している 5. 気にしていない

問 12. 他院からがん患者が紹介されてきた際に、その後の診療を継続するのに患者にとって十分な情報が紹介元医療機関から提供されていますか？

1. いつも十分ある 2. たいていは十分ある 3. たいてい不足している  
4. いつも不足している 5. 気にしていない

問 13. より専門的な医療機関へがん患者を紹介するときに、どの医療機関に紹介するかを決めるための情報が足りないと感じることはありますか？

1. かなりある 2. ややある 3. あまりない 4. まったくない

裏面に続きます



問 14. がん患者を定期的なフォローアップのために紹介するときに、どの医療機関を紹介するかを決めるための情報が足りないと感じることはありますか？

1. かなりある 2. ややある 3. あまりない 4. まったくない

問 15. がん診療連携拠点病院、がん診療病院、がん診療連携支援病院についてお尋ねします。

①都道府県がん診療連携拠点病院である琉球大学医学部附属病院は、がん診療連携拠点病院の指定要件に示された役割を十分に担っていると思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

②地域がん診療連携拠点病院である那覇市立病院は、がん診療連携拠点病院の指定要件に示された役割を十分に担っていると思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

③地域がん診療連携拠点病院である沖縄県立中部病院は、がん診療連携拠点病院の指定要件に示された役割を十分に担っていると思いか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

④地域がん診療病院である沖縄県立宮古病院は、がん診療病院の指定要件に示された役割を十分に担っていると思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

⑤北部地区医師会病院は、がん診療連携支援病院の役割を十分に担っていると思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

⑥沖縄県立八重山病院は、がん診療連携支援病院の役割を十分に担っていると思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

⑦都道府県がん診療連携拠点病院である琉球大学医学部附属病院は、県内のがん診療の連携体制の整備構築の役割を十分に担っていると思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問 16. 沖縄県でがん医療を提供するとき、専門医の不足を感じることはどの程度ありますか？

1. かなりある 2. ややある 3. あまりない 4. まったくない

問 17. 沖縄県でがん医療を提供するとき、医師以外の専門的な医療従事者（がん化学療法看護認定看護師、緩和ケア認定看護師、がん薬物療法認定薬剤師、など）の不足を感じることはどの程度ありますか？

1. かなりある 2. ややある 3. あまりない 4. まったくない

問 18. あなたは、がん患者の話に耳を傾け、患者が置かれている状況を踏まえ対応していると思いますか？

1. いつも対応している 2. たいてい対応している  
3. 対応していないほうが多い 4. ほとんど対応していない

問 19. あなたの施設では、緩和ケアのレベルが3年前と比較して向上したと思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問 20. あなたの施設では、がん患者に対する意思決定支援が実践されていますか？

1. 十分実践されている 2. ある程度実践されている 3. あまり実践されていない  
4. まったく実践されていない

問 21. あなたの担当するがん患者で、精神的痛みを含む痛みの評価を何%ぐらいの患者に実施していますか？

1. 100% 2. 75%以上 100%未満 3. 50%以上 75%未満 4. 25%以上 50%未満 5. 25%未満

問 22. 離島に居住しているがん患者が、適切な医療を受けていると思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問 23. 現在離島でがん医療に従事している方、または過去に離島でがん医療に従事した方にお聞きします。離島に居住しているがん患者のうち、より専門的な医療機関へ紹介したい場合、大きな支障なく紹介できた症例は何%ぐらいですか？

1. 100% 2. 75%以上 100%未満 3. 50%以上 75%未満 4. 25%以上 50%未満 5. 25%未満

問 24. 現在本島でがん医療に従事している方、または過去に本島でがん医療に従事した方にお聞きします。離島に居住しているがん患者のフォローアップのために、地元の医療機関へ紹介したい場合、大きな支障なく紹介できた症例は何%ぐらいですか？

1. 100% 2. 75%以上 100%未満 3. 50%以上 75%未満 4. 25%以上 50%未満 5. 25%未満

問 25. あなたの担当するがん患者で、在宅医療を希望された患者のうち、在宅医療に移行した症例は何%ぐらいですか？

1. 100% 2. 75%以上 100%未満 3. 50%以上 75%未満 4. 25%以上 50%未満 5. 25%未満

問 26. 医師ががん患者とその家族に、治療の説明など必要な説明と情報を提供していますか？

1. いつもしている 2. たいていしている 3. していないほうが多い 4. ほとんどしていない

問 27. 医師以外の医療スタッフの方にお聞きします。

がん患者のケアに関して、自分の意見を医師に対して自由に言えますか？

1. 言える 2. ときどき言える 3. あまり言えない 4. 言えない

問 28. 医師の方にお聞きします。

他の医療スタッフの話に耳を傾けていますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

以上で質問は終わりです。調査にご協力いただき、ありがとうございました。

平成 27 年 12 月 11 日（金）までに、貴院のアンケート調査ご担当者様へお渡しください。

別添2

調査を依頼する医療機関、対象人数

医療機関名	対象者	(内訳)				備考
	合計	医師	看護師	薬剤師	MSWなどのがん患者に関わっている職種	
琉球大学医学部附属病院	200	60	100	20	20	各内訳の職員数が対象者を満たさない場合、その他の職種の方で回答される等可能な限り合計者数の回答をお願いします。
沖縄県立中部病院	200	60	100	20	20	
那覇市立病院	200	60	100	20	20	
沖縄県立宮古病院	150	45	75	15	15	
北部地区医師会病院	150	45	75	15	15	
沖縄県立八重山病院	150	45	75	15	15	
中部徳洲会病院	150	45	75	15	15	
中頭病院	150	45	75	15	15	
ハートライフ病院	150	45	75	15	15	
沖縄病院	150	45	75	15	15	
浦添総合病院	150	45	75	15	15	
沖縄赤十字病院	150	45	75	15	15	
南部医療センター・こども医療センター	150	45	75	15	15	
豊見城中央病院	150	45	75	15	15	
南部徳洲会病院	150	45	75	15	15	
ちばなクリニック	50	15	25	5	5	
Dr.久高のマンマ家クリニック	50	15	25	5	5	
宮良クリニック	50	15	25	5	5	
那覇西クリニック	50	15	25	5	5	
那覇西クリニックまかび	50	15	25	5	5	
計	2,650	795	1,325	265	265	